学校保健・安全に関する広報啓発資料の有効的な活用に向けて

～学校保健・安全に関する広報啓発資料の配布・保管・活用に関する調査結果から～

公益財団法人　日本学校保健会

ま　え　が　き

平成２１年４月から学校保健安全法が施行され，学校保健及び学校安全管理の更なる充実が求められるようになりました。また，平成２０年及び２１年に学習指導要領が改訂され，健康及び安全に関する指導については，体育・保健体育科の時間はもとより，他の教科等を含め学校の教育活動全体を通じて適切に行うなど，その充実が求められています。そのため文部科学省及び（公財）日本学校保健会では，学校保健及び学校安全に関する様々な広報啓発資料を作成し，配布しています。

それらの資料は，関係者により綿密な検討を経て作成されており，有用性，実用性の高いものであり，活用された場合には一定の評価をいただいているものと自負しています。しかしながら，学校では毎年のように多種・多様な資料等が数多く届けられることもあり，本来学校現場で普及や活用が求められる資料においても，その普及や活用が十分とは言えず，大いに改善の余地があるとの指摘もあります。

このような現状を踏まえ，本資料では，学校における学校保健及び学校安全に関する広報啓発資料の活用状況，活用にかかわる要因を把握するために実施した調査結果を基に，それらの資料の効果的な普及，活用の促進に係る提言を行うことを意図しています。

作成に当たっては，小・中・高等学校の学校保健及び学校安全の指導に携わっておられる教諭，管理職，養護教諭及び教員養成系の研究者にお集まりいただき，調査研究の実施及び提言をまとめていただきました。

各学校等においては，文部科学省や（公財）日本学校保健会等から配布される広報啓発資料の自校における保管や活用の状況を顧みて，それらの資料の有効的な活用が進み，結果として学校保健及び学校安全の充実が進むことを願ってやみません。

平成２７年２月

公益財団法人　　日本学校保健会
会　長　　横　倉　義　武

目　次

第１章　資料の有効的な活用に向けて

Ⅰ　本書のねらい　1

Ⅱ　提言　4

第２章　資料の作成，配布，普及啓発

Ⅰ　現状と課題　22

Ⅱ　改善に向けた方策等　23

1　文部科学省，（公財）日本学校保健会等作成・配布者　23

2　教育委員会等学校設置者　24

3　学校（校長等管理職）　26

第３章　資料の保管及び活用

Ⅰ　保健管理に関する資料　27

1　現状と課題　27

2　改善に向けた方策等　31

Ⅱ　保健教育に関する資料　34

1　現状と課題　34

2　改善に向けた方策等　42

Ⅲ　安全管理に関する資料　52

1　現状と課題　52

2　改善に向けた方策等　56

Ⅳ　安全教育に関する資料　58

1　現状と課題　58

2　改善に向けた方策等　61

第４章　学校保健・安全に関する広報啓発資料の配布・保管・活用に関する調査報告書

Ⅰ　調査方法等　65

Ⅱ　学校保健・安全に関する広報啓発資料の配布や保管の方法　67

Ⅲ　学校保健・安全に関する広報啓発資料の活用状況等　69

第1章 資料の有効的な活用に向けて

Ⅰ 本書のねらい

文部科学省や（公財）日本学校保健会などは，従来，学校保健，学校安全の推進のために，様々な広報啓発資料（以下，「資料」という。）を作成し，学校や教育委員会等に配布している。資料の使用後の評価には，肯定的な意見が少なからず寄せられてきている。しかしながら，研修会等において資料の使用状況を尋ねると，活用のみならず認知さえも低いことが稀ではない。

このような状況は問題視されており，中央教育審議会答申「学校安全の推進に関する計画の作成について（平成24年3月21日）」は，「Ⅱ 学校安全を推進するための方策 1．安全に関する教育の充実方策（2）教育手法の改善」において，「国により良質な教材や参考資料等が作成されているにもかかわらず，学校現場で周知・活用が十分でないといった現状があり，改善が必要である」と指摘している。

したがって，活用の推進方策を検討する必要があるが，状況は容易ではない。その理由には，まず，資料の作成から活用に至る過程には多くの段階があり，改善のためには，各段階での対策が必要となることがある。さらに，学校には様々な資料が日常的に送られており，学校保健や学校安全に関する資料が，それらの中に埋もれかねない現状がある。学校保健や学校安全に関する資料が確実に周知され，保管され，活用されるためには様々な有効な手立てがとられる必要がある。

そのため，「学校保健に関する効果的な広報啓発の在り方調査研究委員会」では，学校保健・安全に関する資料の周知，保管，活用等の状況について全国調査を実施し，分析結果を踏まえ，活用のための方策を7つの提言としてまとめた。

調査の結果，保健管理，保健教育，安全管理，安全教育に関する代表的な資料の認知，活用の状況，活用に関わる周知や保管の状況が明らかになった。また，活用には，担当者，保管場所，周知状況等が関連すること，活用のためには，使用者だけでなく，作成者，行政担当者，学校教職員がそれぞれの役割を担う必要があることなども判明した。一方，調査や会議を通して，様々な対策が講じられていることも明らかになった。報告では，各提言を実現するために実際に行われている具体策を収集整理し，改善策として示した。

本報告書の提言や具体策が参考となり，作成者から使用者に至る各段階において具体策が実施され，資料の活用が進むことを期待する。

最近，文部科学省及び(公財)日本学校保健会が全国の学校に配布した資料(今後活用が期待される資料)

No	配布年月	資料名	発行
保健管理			
1	H22.3	[改訂版]学校環境衛生管理マニュアル	文部科学省
2	H23.3	教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引き	文部科学省
3	H24.3	学校保健の課題とその対応	日本学校保健会
4	H19.3	色覚に関する指導の資料	文部科学省
5	H21.3	教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応	文部科学省
6	H22.3	子どもの心のケアのために	文部科学省
7	H24.3	学校における結核対策マニュアル	文部科学省
保健教育			
8	毎年	小学校用健康教育教材「わたしの健康」	文部科学省
9	毎年	中学校用健康教育教材「かけがえのない自分かけがえのない健康」	文部科学省
10	毎年	高等学校用健康教育教材「健康な生活を送るために」	文部科学省
11	H22.3	喫煙，飲酒，薬物乱用防止に関する指導参考資料　小学校編	日本学校保健会
12	H23.1	喫煙，飲酒，薬物乱用防止に関する指導参考資料　中学校編	日本学校保健会
13	H24.1	喫煙，飲酒，薬物乱用防止に関する指導参考資料　高等学校編	日本学校保健会
14	H24.3	未来があるから！～薬物に“NO！”という生き方を～(DVD)	文部科学省
15	H25.3	「生きる力」を育む小学校保健教育の手引き	文部科学省
16	H26.3	「生きる力」を育む中学校保健教育の手引き	文部科学省
安全教育			
17	H22.6	「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育*)	文部科学省
18	H24.3	安全な通学を考える(DVD)	文部科学省
19	H25.3	安全に通学しよう～自分で身を守る，みんなで守る(DVD)	文部科学省
20	H20.8	学校における転落事故防止のために(リーフレット)	文部科学省
21	H25.3	「生きる力」を育む防災教育の展開	文部科学省
22	H20.3	災害から命を守るために(CD)　小学校	文部科学省
23	H21.3	災害から命を守るために(DVD)　中学校	文部科学省
24	H22.3	災害から命を守るために(DVD)　高等学校	文部科学省
安全管理			
25	H24.3	学校防災マニュアル(地震・津波災害)作成の手引き	文部科学省
26	H21.3	子どもを事件事故災害から守るためにできることは(DVD) 小学校	文部科学省
27	H22.3	生徒を事件事故災害から守るためにできることは(DVD) 中学，高等学校	文部科学省

赤文字：今回の調査で詳細な検討を行った資料，青文字：保管状況を確認した資料

*)資料の内容は，主に安全管理であるので，調査においては安全管理に含めた。

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

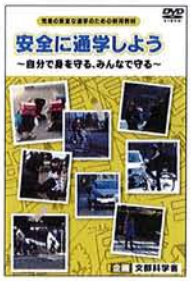
15

16

17

18

19



20

21

22

23

24

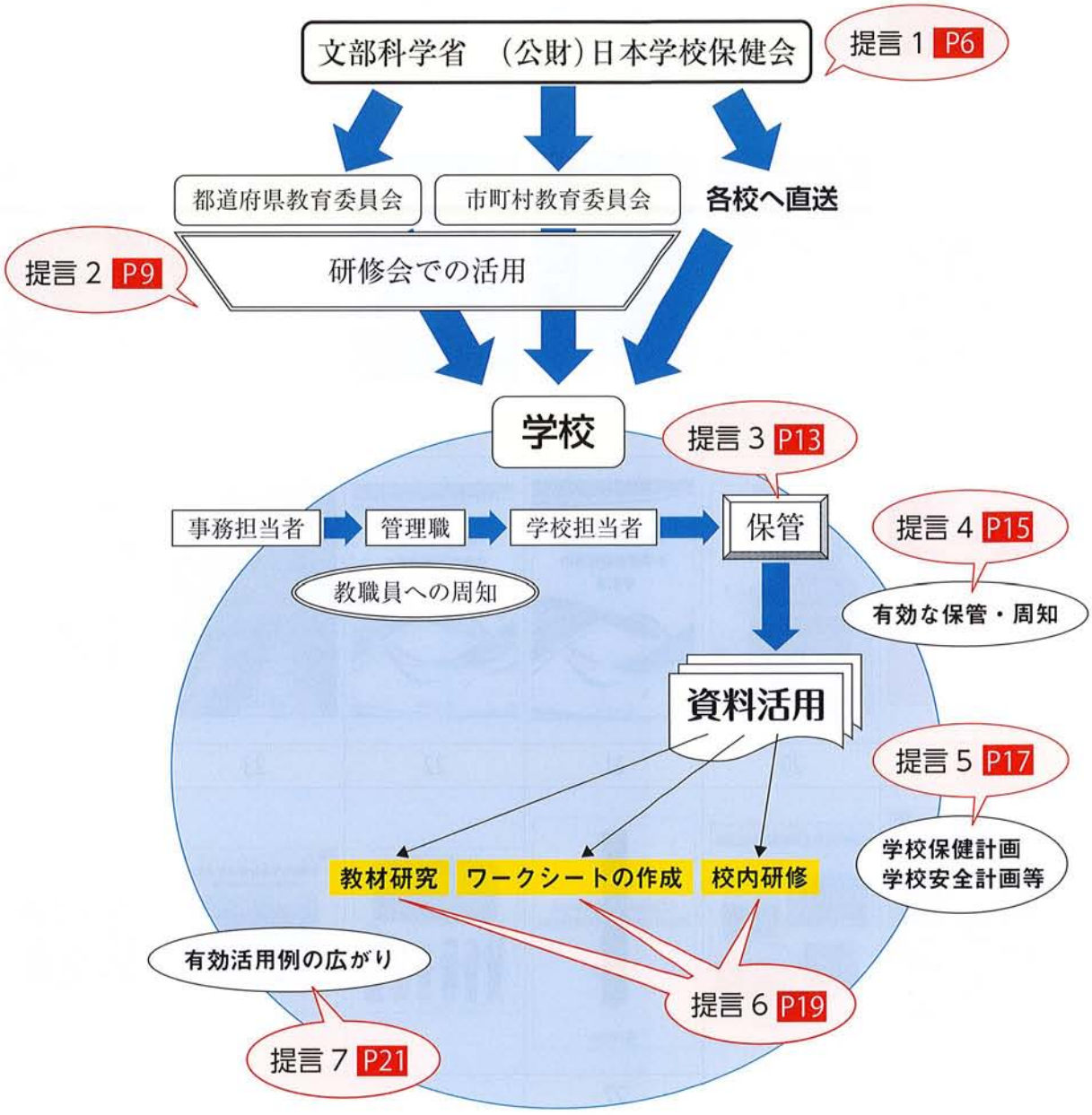
25

26

27

Ⅱ 提言

文部科学省及び(公財)日本学校保健会が配布した資料の流れ



提言１　資料本体及びその配布時の送付書には，配布目的，活用方法，関連資料の情報等を示す。また，作成・配布者は，その資料を様々な方法で継続的に広報し，容易に入手できるように体制を整える。(作成・配布者)

提言２　資料は，研修会等の機会で紹介されることにより，活用が促される。その際，学校における活用事例等を紹介するようにする。(教育委員会等)

提言３　学校の実情に応じた効果的な保管・管理体制を構築する。その際，保管場所は，配布目的に応じた活用の中心となる職員がアクセスしやすい場所が望ましい。特に，ＤＶＤ教材は，保管場所が不明になりやすいので注意が必要である。(各学校)

提言４　資料は，回覧されるにとどまらず，担当者が内容を確認し，部会や職員会議，打合せを有効に活用して周知・伝達をする必要がある。(各学校)

提言５　周知・管理・活用・継続のためには，学校保健計画及び学校安全計画に示される活動において，活用できる資料等を示すことが大切である。(各学校)

提言６　教育教材の望ましい活用のためには，教員の教材研究や授業での使用が大切である。(各学校)

提言７　資料の活用方法を記録し，次の機会への参考情報とする。年度末等に活用状況について評価することが望ましい。(各学校)

提言１　作成時の工夫の例

① 資料中で，当該資料の活用法（資料を用いた展開例等），関連する別資料を紹介する。

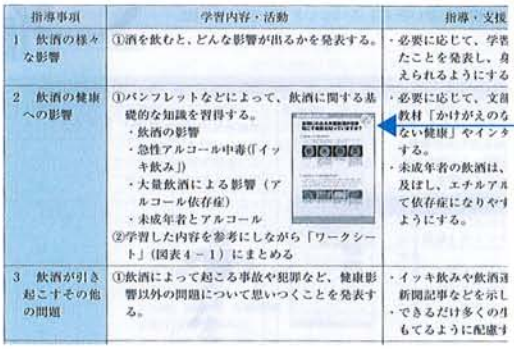
▼資料の内容を明示し，資料を使った展開例や研修例を資料の中に含む。

資料の内容として，各チャプターやその時間，タイトル映像などが含まれており，それらの情報の存在が，DVD の表紙に示されている。

DVD を使った指導，展開例が PDF ファイルとして含まれていることが表紙に示されている。

交通安全，防犯，防災にわたる DVD の多様な内容を，複数の画像により示している。

▼資料の中で，既存の別の資料を活用した展開例や研修例が紹介されている。



指導事項	学習内容・活動	指導・支援
1　飲酒の様々な影響	①酒を飲むと，どんな影響が出るかを発表する。	・必要に応じて，学習たことを発表し，身えられるようにする
2　飲酒の健康への影響	①パンフレットなどによって，飲酒に関する基礎的な知識を習得する。 ・飲酒の影響 ・急性アルコール中毒（「イッキ飲み」） ・大量飲酒による影響（アルコール依存症） ・未成年者とアルコール ②学習した内容を参考にしながら「ワークシート」（図表４－１）にまとめる	・必要に応じて，文部教材「かけがえのない健康」やインタする。 ・未成年者の飲酒は，及ぼし，エチルアルて依存症になりやすようにする。
3　飲酒が引き起こすその他の問題	①飲酒によって起こる事故や犯罪など，健康影響以外の問題について思いつくことを発表する。	・イッキ飲みや飲酒運新聞記事などを示し ・できるだけ多くの生もてるように配慮す

授業の展開例において，関連する既存の資料を使う例を示している。（飲酒の健康影響の指導において，中学校用健康教育教材「かけがえのない自分かけがえのない健康」の関連箇所を示している。）

▼資料の巻末において，関連する別資料を紹介する。

『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育

参考情報
【全体に関するもの】

「子どもを事件・事故災害から守るためにできることは」(平成21年3月
小学校教職員用研修資料（映像、DVD）
内容：1. できていますか 来校者対応の基本 ～ 不審者を学校に入れな
2. 事故の原因をさぐる ～ 事故に学び、事故を繰り返さない
3. 熱中症から子どもを守る ～ 正しく知って予防するために ～
4. 子どもに伝える 安全な自転車の乗り方 ～ 事故にあわない、起こさない ために ～
5. 自然災害に備えた 施設・設備の安全点検 ～ 被害を少なくするために ～
6. 自然災害時の避難 ～ 子どもの安全を確保するために ～
7. 安全ですか 通学路 ～ 見えない危険に気づくために ～
8. 応急手当の重要性 ～ 子どもの命を救うために ～

資料の巻末において，関連する別資料の表紙，タイトル，内容，発行年等を示す。

② 作成者は様々な方法で資料を継続的に広報する。

▼資料の発刊の予報や発刊時の広報の工夫

DVD に同封されたポスターに DVD の内容，使い方，映像などが示されている。教職員への周知のために，校内の職員室，廊下等の掲示板への掲示などに活用できる。

作成した冊子を広報するためのチラシ。小，中，高等学校を一括して紹介しており，いずれの校種の研修会においても広報できる。

▼配布時の連絡の工夫

『「生きる力」を育む中学校保健教育の手引き』の送付について

平成 26 年 3 月
文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課

作成の趣旨

中学校における保健教育は、保健体育科を中心に各教科等において、それぞれの目標や内容に即して指導が行われています。子供の健康に関する資質や能力を育成するためには、保健体育科、特別活動、総合的な学習の時間などの特質に応じ、相互に関連させる指導の在り方の一層の充実が求められます。

このため、学習指導要領の改訂等を踏まえ、学校における保健教育の基本的な考え方を示すとともに、保健体育科においては教科担任が、特別活動や総合的な学習の時間においては学級担任等が授業を行う際に参考となる事例や各教科等が相互に関連するためのポイント等を掲載した本手引きを作成しました。

なお、中学校においては全ての保健体育教諭に優先的に配布するとともに、特別活動主任、総合的な学習の時間主任、養護教諭等に配布し、保健教育の充実に資するよう配慮願います。

作成の意図を示し，有効活用に向けて優先的な配布先を示している。

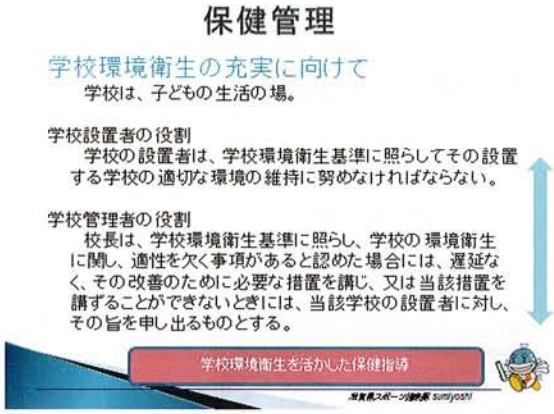
▼発刊以降の継続的な広報，閲覧，入手のための工夫

（公財）日本学校保健会の電子図書館のサイト。発刊された最近のほとんどの資料は，インターネットにより，いつでも，誰でも閲覧できる。下は，閲覧画面の様子。

文部科学省の学校安全の刊行物に関するサイト。発刊された最近の資料の多くは，インターネットにより閲覧し，PDF ファイルについてはダウンロードし入手できる。

提言２　研修会における効果的な活用方法の例

①教育委員会主催の研修会での提示し，紹介する。



学校環境衛生の説明

↓

学校環境衛生を活かした保健指導の実践

↓

ＰＤＦダウンロード画面紹介

↓

資料の紹介

↓

実際の活用方法の提案

具体的な画面を提示し，より使いやすい資料が添付されていることを伝える。

【資料の周知例：「生きる力」を育む小学校・中学校保健教育の手引き】

▼学校保健担当者対象の研修会で周知

対象者　体育主任

保健教育の充実に向けて

「生きる力」を育む
中学校保健教育の
手引き

（中学校保健体育保健分野）

①教科担任向け
②学級担任等向け

H25.3 各校6冊配付

×養護教諭だけが保管
×保健室に並んでいる

対象者　養護教諭・保健主事　性教育主任

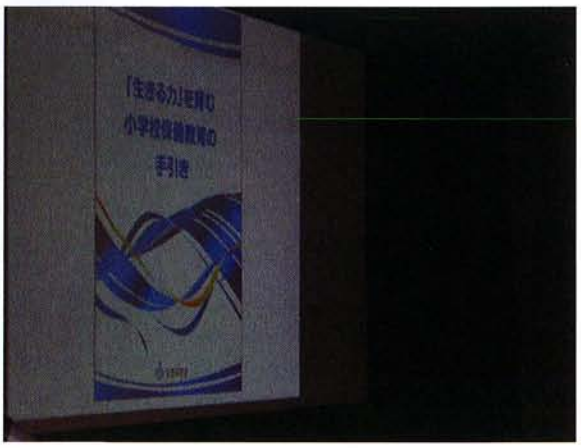
○性に関する指導の留意点（P26）　中央教育審議会答申

（心身の成長発達についての正しい理解）
○近年、性情報の氾濫など、子どもたちを取り巻く社会環境が大きく変化してきている。このため、特に、子どもたちが性に関して適切に理解し、行動することができるようにすることが課題となっている。また、若年層のエイズ及び性感染症や人工妊娠中絶も問題となっている。

○このため、保健体育科、特別活動等において、
①心身の発育・発達と健康、性感染症等の予防などに関する知識を確実に身に付けること（保健）
②生命の尊重や自己及び他者の個性を尊重すること（特活）
③相手を思いやり、望ましい人間関係を構築すること（特活）
などを重視し、相互に関連づけて指導することが重要である。
また、保護者や地域の理解を得ること、集団指導と個別指導の連携を密にして効果的に行うことが重要である。

中学校保健教育参考資料について

- 中学校における保健教育
  中学生期の心身の発育・発達や健康上の特性を踏まえる
  表1－1　中学生の心身の発育・発達
  中学生期には、心身が劇的に変化し、それに関わる様々な健康課題も表れてくる。一方、知的能力の発達も著しく、生涯にわたり学習する基盤が培われる時期である。・・・中略・・ 身体的にも抵抗力が向上してくることから健康を意識する場面が少なく、健康行動よりも、単に外見的な美しさを求めるような行動様式をとることもある。・・・



【DVDの紹介例】

（学校安全資料　文部科学省　「生徒を事件・事故災害から守るためにできることは」）

▼内容を確認せずに保管されている場合が多いため，内容を添付し，校内研修で使用できるものが含まれていることを提示する。

心肺蘇生法、AED　校内研修

- 心肺蘇生法訓練

▼教育委員会が主催する研修に啓発資料の持参を依頼する。

（新規採用養護教諭研修　学校への送付資料に冊子を提示した例）

毎年更新して，根拠資料を４月に送付。校内研修等でも活用できるようにする。
県で作成した最新の冊子等も添付。
管理職へも活用について説明。

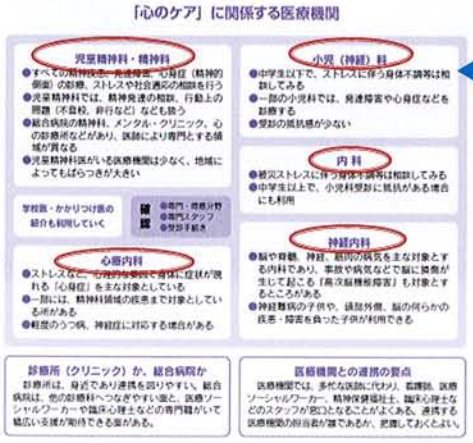
平成２６年度学校保健課題解決支援事業
メンタルヘルスシンポジウム

【例】 メンタルヘルスにかかわる研修会で「学校における子供の心のケア」冊子の持参させ，学校の活用方法を提示した。
（図は研修会資料の表紙）

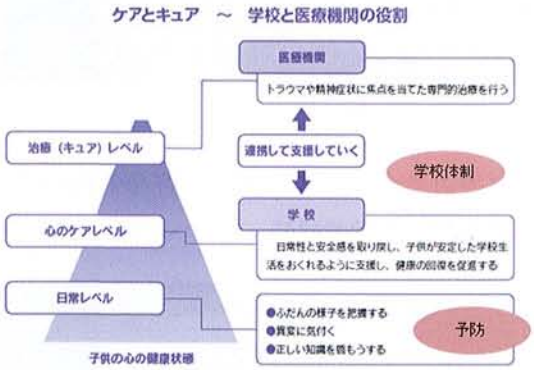
▼開催要項に持参の案内を入れる。

○「学校における子供の心のケア」（平成26年3月配布済み）をご持参ください。

▼研修会での内容提示・活用イメージ



研修会で冊子の内容について説明。
校内でどのように活用するのか，具体的に示し強調したい部分を追記した。



学校における子供の子心のケア　文部科学省　平成 26 年 3 月　一部加筆

参加者アンケート

・冊子が届いていることは知っていたが，こんなに使いやすいことは知らなかった。
　今後，校内研修で活用したい。
・活用方法について具体的に提示されたので分かりやすかった。早速内容を確認したい。
・この研修会で冊子のことを初めて知った。学校でどこに置いてあるか確認したい。

提言３　学校における効果的な保管の方法の例

①学校全体で保管，ファイリングのシステムをマニュアル化し，年度ごとの改善を行う。

作業前のファイリング棚

ファイリング内容を仕分し整理後

夏季休業中の会議・研修等計画

日　時	研修等の名称	具体的な内容等
7月22日(月)		
10:00～	のびゆくすがた入力研修(北村)	一覧表入力から個票印刷の方法
11:50～	打ち合わせ	
13:30～	道徳研修(由良)	学習参観の資料づくり
15:00～	職員作業(安岡:後日提案します)	準備室の整理整頓など
7月23日(火)		
10:00～	教科研(片山)	国語:川田　社会:安岡　図工:木村　書写:田中 1教科20分程度
13:00～	学年会	
15:00～	職員作業(安岡:後日提案します)	ファイリング整理・職員室棚の整理整頓
7月24日(水)		

◇第２回

７月23日（火）　15:00～

○内容

ファイリング整理（各分掌）

昨年度末に各分掌担当の先生で整理いただいているのですが、中には数年前のものが残っていたり、綴じきれないくらいに溢れていたりするものも見受けられます。

会議室にある各分掌のファイルを確認していただき、一昨年度以前のもの（場合によっては昨年度のもの）が綴じてある場合は、３階書庫（ストーブ庫の奥）へ移動をさせてください。

【望ましい保管状況の例】

事　務　担　当　者

↓

管　理　職

↓

管理職から冊子が届いたら，
各担当者が集まることが大切。

保健部（保健主事）や保健体育科，生活指導部，安全主事等が集まり，各担当者で主な活用は誰（どの分掌，学年等）がよいのかなどについて話合いを行うとともに，保管場所や活用方法，職員への周知の方法などについて打合せをする。その際，リストを作成しておくと職員への周知に活用できる。

とても重要！

↓

主な活用者に連絡・配布

【保健管理】
- 学校環境衛生マニュアル
- 学校保健の課題
- 教職員のための健康相談及び保健指導の手引

【保健教育教材】
- 健康教育教材
- 喫煙，飲酒，薬物乱用防止指導参考資料
- 中学校保健教育の手引き
- 未来があるから！（ＤＶＤ）

【安全管理】
- 「生きる力」を育む安全教育
- 学校防災マニュアル作成の手引き

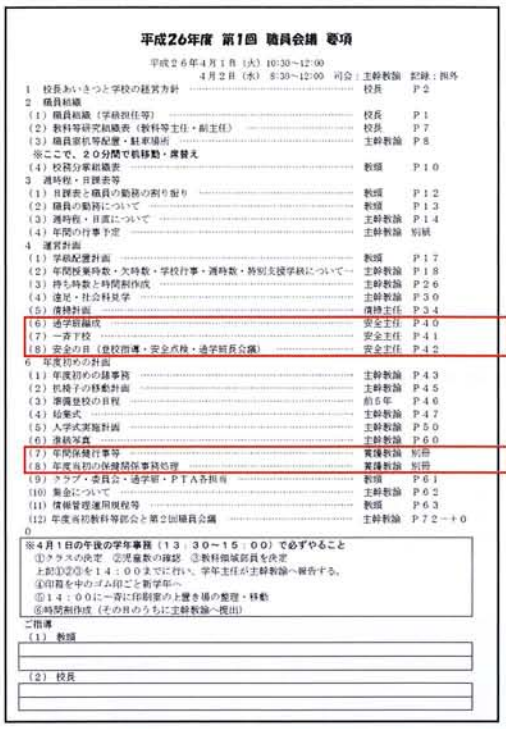
【安全教育教材】
- 安全な通学を考える（ＤＶＤ）

保健室の書棚に保管

保健体育科の書庫にＤＶＤ類をまとめて保管

提言４　職員会議時における資料等の周知・伝達の例

①職員会議時の各担当からの提案の終末に，最新の資料・冊子を周知・伝達するようにする。


平成26年度 第1回 職員会議 要項

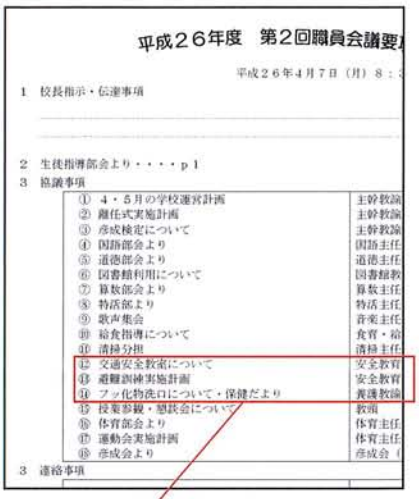
平成２６年４月１日（火）10:30～12:00
４月２日（水） 8:30～12:00　司会：主幹教諭　記録：担外

１　校長あいさつと学校の経営方針	校長	Ｐ２
２　職員組織		
（１）職員組織（学級担任等）	校長	Ｐ１
（２）教科等研究組織表（教科等主任・副主任）	校長	Ｐ７
（３）職員室机等配置・駐車場所	主幹教諭	Ｐ８
※ここで，２０分間で机移動・席替え		
（４）校務分掌組織表	教頭	Ｐ１０
３　週時程・日課表等		
（１）日課表と職員の勤務の割り振り	教頭	Ｐ１２
（２）職員の勤務について	教頭	Ｐ１３
（３）週時程・日直について	主幹教諭	Ｐ１４
（４）年間の行事予定	主幹教諭	別紙
４　運営計画		
（１）学級配置計画	教頭	Ｐ１７
（２）年間授業時数・欠時数・学校行事・週時数・特別支援学級について	主幹教諭	Ｐ１８
（３）持ち時数と時間割作成	主幹教諭	Ｐ２６
（４）遠足・社会科見学	主幹教諭	Ｐ３０
（５）清掃計画	清掃主任	Ｐ３４
（６）通学班編成	安全主任	Ｐ４０
（７）一斉下校	安全主任	Ｐ４１
（８）安全の日（登校指導・安全点検・通学班長会議）	安全主任	Ｐ４２
６　年度初めの計画		
（１）年度初めの諸事務	主幹教諭	Ｐ４３
（２）机椅子の移動計画	主幹教諭	Ｐ４５
（３）準備登校の日程	前５年	Ｐ４６
（４）始業式	主幹教諭	Ｐ４７
（５）入学式実施計画	主幹教諭	Ｐ５０
（６）準備写真	主幹教諭	Ｐ６０
（７）年間保健行事等	養護教諭	別冊
（８）年度当初の保健関係事務処理	養護教諭	別冊
（９）クラブ・委員会・通学班・ＰＴＡ各担当	教頭	Ｐ６１
（10）集金について	主幹教諭	Ｐ６２
（11）情報管理運用規程等	教頭	Ｐ６３
（12）年度当初教科等部会と第２回職員会議	主幹教諭	Ｐ７２～＋０

０

※４月１日の午後の学年事務（１３：３０～１５：００）でめざすこと
①クラスの決定　②児童数の確認　③教科領域部員を決定
上記①②③を１４：００までに行い，学年主任が主幹教諭へ報告する。
④印刷を中のゴム印ごと新学年へ
⑤１４：００に一斉に印刷室の上置き場の整理・移動
⑥時間割作成（その日のうちに主幹教諭へ提出）

ご指導
（１）教頭
（２）校長


平成２６年度　第２回職員会議要

平成２６年４月７日（月）８：

１　校長指示・伝達事項

２　生徒指導部会より・・・・ｐ１

３　協議事項

①　４・５月の学校運営計画	主幹教諭
②　離任式実施計画	主幹教諭
③　彦成検定について	主幹教諭
④　図書部会より	図書主任
⑤　道徳部会より	道徳主任
⑥　図書館利用について	図書館教
⑦　算数部会より	算数主任
⑧　特活部会より	特活主任
⑨　歌声集会	音楽主任
⑩　給食指導について	食育・給
⑪　清掃分担	清掃主任
⑫　交通安全教室について	安全教育
⑬　避難訓練実施計画	安全教育
⑭　ブッ化物洗口について・保健だより	養護教諭
⑮　授業参観・懇談会について	教頭
⑯　体育部会より	体育主任
⑰　運動会実施計画	体育主任
⑱　彦成会より	彦成会

３　連絡事項

安全主任や養護教諭・保健主事等，望ましい担当者が「提案・協議・連絡内容」に応じて，資料や冊子を周知することができる。

②職員会議の中で，協議事項や連絡事項の項目として，資料・冊子の周知の時間を設ける。

例）

４　連絡事項

①１学期の教育活動反省

②校内研修アンケート

③動静表の提出について

④学期末の事務処理と提出物

⑤夏季休業中の勤務・日直・・

⑥・・・・・

⑦資料・冊子紹介

（事前に連絡のあった方のみ）

⑧その他

（事前に連絡のあった方のみ）

学年・各教科・校務分掌担当者で

まず，内容と活用方法を確認する

担当者の手元に届いたら，関係する学年や教科，校務分掌の各担当者で内容を確認し，どの内容をどのように活用するかについて話し合う。

その際，学校保健計画，学校安全計画，年間指導計画等に反映されるようにする。

⇩

年度末には活用状況を評価して，次年度に生かす。

総合的な学習の時間の準備資料として

保健だよりの作成でその根拠として

生徒保健委員会活動の参考資料として

職員へ周知
校内研修

➡

評　価

提言５　学校保健計画及び学校安全計画に活用できる資料等を示した例

①各校の学校保健計画，学校安全計画や年間指導計画に使用できる資料を示す。

学校保健計画例（小学校）

※　各校の管理場所一覧表と反映させることで，より効果的になる。

※　上記の吹き出しには資料の活用方法を示した箇所を示す。

学校安全計画例（中学校）

月の重点				体育祭を安全にやりぬこう	梅雨期を安全に過ごそう	災害に備えた生活をしよう	交通法規を理解し守ろう
	道徳			集団の意義	自主自立	奉仕	友情の尊さ
安全教育	安全学習	社会		世界と比べた日本の地域…			・日本の諸地域(地域の自…
		理科		・薬品やガラス器具の使…	・緊急地震速報の原理	・自主研究の実験場の注…	・電気器具の使い方
		美術		・備品の点検登備	・彫刻刀の正しい使い	・版画用プレス機の使い方	・小型ナイフの使い方
		体育分野		・自己の体力を知る ・集団行動と協力性 ・備品の点検登備 ・新体カテストの行い方と測定の仕方	・水泳の事故防止について（自己健康管理）	・陸上運動の適切な場所の使い方と測定の仕方	・器械運動における段階的な練習と適切な補助の仕方
		保健分野		・傷害の防止(2年)		・自然災害(全学年) C	・喫煙、飲酒、薬物乱用と健康（３年）
		技術・家庭 ※「栽培」を行う場合は、農薬の扱いに注意する。		・金属材料の性質と切断 ・日常での木製品の利用 ・ガスコンロの使い方 ・換気について ・ゴム管の点検	・工作加工機械や工具の安全や点検 ・調理実習における注意 ・日常食の調理	・工作機械の安全な利用 ・電気の安全な利用 ・食生活と健康	・塗装時の喚気や火気 ・器具点検整備 ・備品検査(台帳管理)
		総合的な学習の時間		＜活動例＞　「わが町の交通安全対策調べ」「学区安全マップづくり」「災害と町づくり」など			
	安全指導	学級活動	第１学年	●体育祭の取組と安全 ◎災害時の安全な避難の仕方と日常の備え ●清掃方法を確認しよう	●雨天時の校舎内での過ごし方 ●校内の事故と安全な生活 ◎水泳、水の事故と安全	◎地震の危険 C，D ●災害からの安全 C，D	●文化祭の準備と安全 ◎交通法規の意識と安全 F
			第２学年	●体育祭の取組と安全 ◎交通事故防止を考えよう F	●雨天時の校舎内での過ごし方 ◎水泳、水の事故と安全	◎地震の危険と避難 C，D ●市総合体育大会と安全	◎部活動の安全とリーダーの役割 ●文化祭の準備と安全
			第３学年	●体育祭準備 ◎心の安定と事故	◎水泳、水の事故と安全 ◎修学旅行と安全	◎地震の危険と避難 C，D ●市総合体育大会と安全	◎交通事故の原因と事故の特性 F，G
		生徒会活動		・体育祭 ・校内安全点検活動	・生徒会総会 ・中体連壮行会		・文化祭 ・市総体壮行会
		主な学校行事等		・新体カテスト ・体育祭 ・防災避難訓練	・修学旅行 ・防災避難訓線 ・心肺蘇生法講習会 B ・合唱コンクール	・防災避難訓練 ・秋の交通安全運動 F，G	・文化祭 ・自転車の正しい乗り方と危険防止 F
		部活動		・部活動保護者会	・熱中症予防　指導 B		
安全管理	対人管理			・身体の安全について及びけがの予防	・校舎内の安全な過ごし方 ・プールにおける安全管理について	・身体の安全について及びけがの予防	・文化祭の準備と安全
	対物管理			・運動場など校舎外の整備	・学校環境の安全点検及び整備(階段・廊下・プール) A	・諸設備の点検及び整備 A	・学校環境の安全点検及び整備(体育館) A
学校安全に関する組織活動　(研修含む)				・校外における生徒の安全行動把握、情報交換 ・熱中症予防に関する研修 B	・地域学校安全委員会（学校保健委員会） ・学区危険箇所点検 ・心肺蘇生法(AED)研修 B	・防災の日 ・秋の交通安全運助の啓発　街頭指導 F ・防災に関する研修(避難訓練) B，C，D，H	・通学路点検 ・自転車の安全な利用に関する研修(指導方法) F，G

※学級活動の欄　◎…１単位時間程度の指導　●…短い時間の指導

参考：「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育（文部科学省　平成22年３月）

A

「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育

B

生徒を事件事故災害から守るためにできることは（ＤＶＤ）

C

災害から命を守るために（ＤＶＤ）

D

『生きる力』を育む学校での安全教育を育む防災教育の展開（ＤＶＤ）

E

ちょっと待ってケータイ２（ＤＶＤ）

F

安全な通学を考える－加害者にも被害者にもならない－（ＤＶＤ）

G

安全に通学しよう（ＤＶＤ）

H

学校の防災マニュアル（地震・津波）作成の手引き

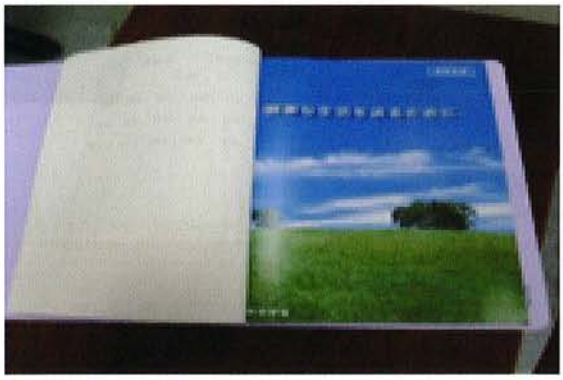
提言６　教育教材の活用例

保健の授業で

より良い保健の授業にする視点での活用

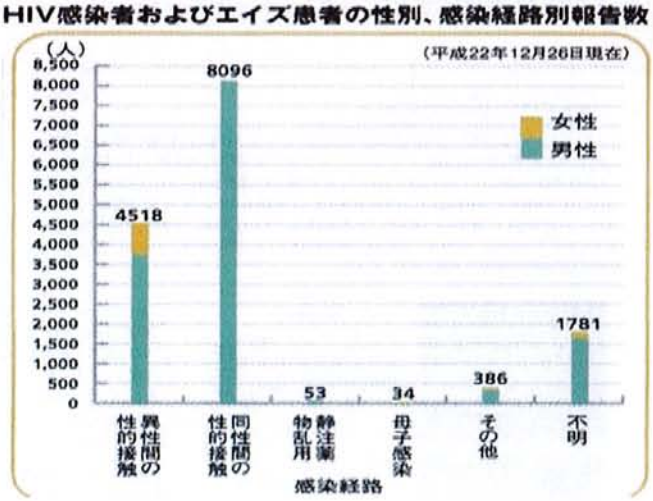
保健の授業でどのように活用するのか，まず，それぞれの内容について確認をする。

その際，児童・生徒に配布する冊子はその持たせ方に工夫したり，指導資料の類は，保健学習の進め方や授業で活用できる具体的な内容を確認したりして有効に活用する。



保健学習で使用するファイルに綴じる

保健学習時に読ませる



ワークシートなどに活用する資料を載せる

喫煙防止ポスターの資料に活用

（ともに高等学校「健康な生活を送るために」より）

総合的な学習の時間・特別教育活動などで

どの内容を活用するか検討する

「健康教育教材」は，学校における健康教育全般に対応できるよう，汎用性のある内容構成となっている。

活用に当たっては，必要な内容を資料として児童生徒に配布したり，特別教育活動時の講演者との打合せ時に活用したりするとよい。

また，DVD 教材は，保健学習時のみならず，学年単位で視聴させることも効果的である。

薬物乱用防止教室で啓発教材の活用について学校薬剤師・学年主任・養護教諭で協議。

児童・生徒保健委員会の活動などで

児童・生徒保健委員会の活動としては，健康に関する啓発活動や学校や地域の喫緊の課題に対処する活動などがある。

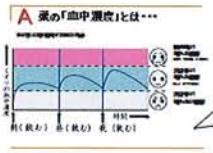
啓発活動の一例としては「保健だより」の発行や文化祭などでの発表，自治体などが募集する「標語ポスター」作成などの活動がある。担当教員は保健委員会の活動がスムースにいくように，参考となる内容を把握しておくとよい。

薬物乱用防止教室終了後「保健だより」で保護者へ周知した例

薬物乱用防止教室を実施しました

2月6日(月)6年生を対象に、薬物乱用防止に関する学習をしました。当日は、学校薬剤師の○○先生に来ていただき、専門的な薬の知識についても学び、市内の学校薬剤師さんにも参観いただきました。

○○薬剤師さんからは、一般的に処方されている薬の効果と副作用のお話から、正しい飲み方がなぜ必要か？についても教えていただきました。小学校で詳しく学ぶことは初めてでしたが、今まで学習した、たばこ、アルコールの害に加えて、新聞などで報道されている違法薬物についても学習し、すすめられた時の断りかたや自分を大切にして生きることを学び終始真剣な表情で学習をすることができました。卒業を前にたくさんの先生からのお話で学びを深められる良い機会となりました。



薬剤師さんからは、薬の血中濃度と副作用の関係や正しい薬の使い方について説明いただきました。

田中教諭より薬物乱用についての説明と、シンナーなどの薬物の恐ろしさについて説明がありました。

提言７　継続した啓発資料の活用の例

①資料を活用した日，教科（担当者），対象学年，時間，内容を記入できる一覧表を作成する。

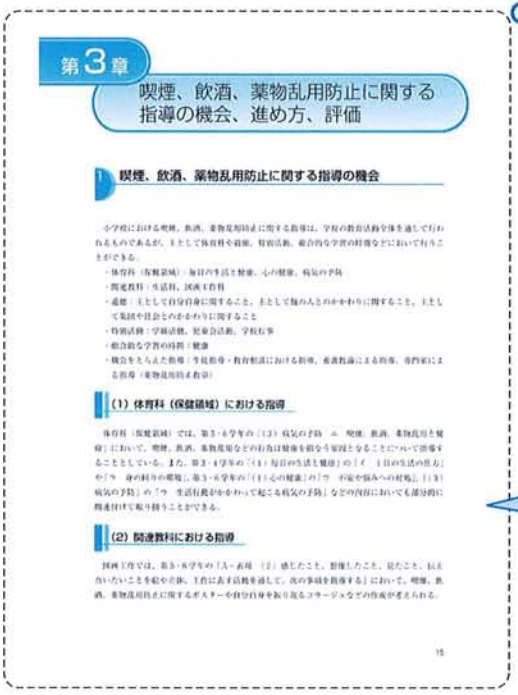
②資料を活用した担当者が，活用内容を簡単に記入する。

冊子名（喫煙、飲酒、薬物乱用防止に関する指導参考資料　小学校編）

活用例

回数	活用した日	教科、または担当者	対象学年、組	時間	活用内容
1	H26.○.○	体育科（保健領域）	5年1組	3限目	(3) 病気の予防　エ 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康
2	H26.○.○	体育科（保健領域）	5年2組	5限目	(3) 病気の予防　ウ 生活行動がかかわって起こる病気の予防
3	H26.○.○	体育科（保健領域）	5年3組	5限目	(1) 心の健康　　ウ 不安や悩みへの対処
4	H26.○.○	体育科（保健領域）	4年1組	4限目	(1) 毎日の生活と健康　イ１日の生活の仕方
5	H26.○.○	図画工作	6年1組	4限目	A-表現(2)　喫煙、飲酒、薬物乱用防止に関するポスター作り
6	H26.○.○	道徳	2年2組	5限目	「1 主として自分自身に関すること」 基本的な生活習慣の形成
7	H26.○.○	道徳	5年1組	3限目	「4 主として集団や社会との関わりに関すること」 喫煙、飲酒、薬物乱用防止に関する違法精神を育てる
8	H26.○.○	特別活動	6年4組	5限目	「2 日常の生活や学習への適応及び健康安全」 喫煙、飲酒、薬物乱用に関する新聞記事の作成
9	H26.○.○	学校行事	全校生	健康安全 体育的行事	テーマ「病気の予防に関する行事として、喫煙、飲酒、薬物乱用防止」
10	H26.○.○	総合的な学習の時間	6学年	5、6限目	セルフエスティームの向上などライフスキルの形成に関すること
11	H26.○.○	生徒指導集会	6学年	5、6限目	喫煙、飲酒、薬物乱用に関する指導計画
12	H26.○.○	保健指導	保健委員会	委員会活動	喫煙、飲酒、薬物乱用に関する掲示物の作成
13	H26.○.○	薬物乱用防止教育講演会	4.5.6学年	5、6限目	警察職員との連携
14	H26.○.○	養護教諭	7月		保健だよりの作成

各教科での取組例



第３章
P15

第３章
P16～17

喫煙，飲酒，薬物乱用防止に関する指導参考資料

第2章 資料の作成，配布，普及啓発

Ⅰ 現状と課題

文部科学省，(公財)日本学校保健会等の資料作成・配布者

- 資料の配布時期が，年度末や年度初めに集中している。
- 配布された資料をどのように活用したらよいか分かりにくいことがある。

教育委員会等学校設置者

- 学校に直接配布された資料については，いずれの学校種においても，教育委員会などから文書やメールまたは教育委員会主催の研修会や会議等で事前に配布の連絡がある割合が70%以上であった。一方，事前に連絡がないと回答した学校の割合は，いずれの学校種においても20%程度あった。
- 教育委員会止まりの資料は，その活用方法が様々であり，学校現場ではどのような資料が存在するか分からないことがある。
- 各都道府県の担当者により，啓発方法に違いがある。
- 教育委員会に送付される資料のうち，冊数によって，担当に行く場合と書棚に保管される場合がある。
- 多方面から次々に送付される冊子の分類・配布に追われている。

学校

配布

- 資料は，いずれの学校種においても事務担当者（経営企画室等）から管理職を経て担当者に渡される割合が高い。
- 学校現場は，年間を通して，大量の文書や冊子，資料を受け付けている。
- 保健は養護教諭または保健主事，安全は，安全主任または管理職といった見方で配布されることも多い。
- 保健関係の資料では，養護教諭が担当する割合が高いのに対し，安全関係の資料では，管理職が担当する割合が比較的高い。また，安全の領域によって担当者が安全主任，保健主事，養護教諭，管理職などに分散している。

保管

- 資料を学校指定の保管場所にファイリングしている小学校及び中学校の割合は約60%であったが，高等学校では30%，特別支援学校では40%を下回っていた。一方，活用する担当者の保管場所に保管されている学校は，小学校及び中学校では約70%，高等学校及び特別支援学校では約90%であった。また，担当者が個人的に保管する場合がいずれの学校種でもあり，中学校及び高等学校では10%を超えていた。

- 学校に配布された資料について，小学校及び中学校では約50％が文書で回覧して周知を図っていたが，高等学校では50％以上が各担当者に一任されていた。
- 学校に配布された資料の保管状況には，学校種間に大きな違いが認められなかったが，配布後5年以上経過した資料について，高等学校及び特別支援学校では保管している割合が低くなっており，その傾向は安全管理に関する資料において顕著であった。

周知

- 管理職は，資料について一応把握しているもの，活用への具体策を指示することは多くない傾向があった。
- 資料が活用されるために管理職が行う工夫としては，保護者にも配布の目的を周知したり，担当者に必要な内容の打合せを行うように指導したり，供覧できるようにしたりするなどが概ね50％以上の学校で行われていた。
- 数は少ないが，管理職が担当した学校では，「活用している」や「望ましい方法での活用」の割合が他に比べて高かった。
- 校務分掌に基づき配布されたことにより，担当者は各資料を知ることが多い。資料の活用，また望ましい活用には，校長等管理職から担当者への指示や意識付けが重要となってくる。
- 資料が学校全体に周知される機会が少ない。職員会議（打合せ）などで報告されると回答した学校の割合は低い。
- ＤＶＤについては，その担当者や保管管理場所等が学校種や各学校で異なっている。視聴覚部で保管していることも考えられる。資料が紛失したりして，管理職が把握できていないと思われる場合もみられる。

Ⅱ 改善に向けた方策等

1　文部科学省，(公財)日本学校保健会等作成・配布者

- 作成・配布者が，配布について，教育委員会等設置者に事前に連絡する。
- 配布時期を考慮する。(可能ならば，年度当初や年度末を避ける。)
- 配布時の連絡事項には，以下のことを明示する。
  - 配付資料の概要（可能な限り表紙の画像を付ける。）
  - 配布目的
  - 活用事例
  - 主たる担当者及び関係する職員（全ての職員が知っておくことが必要な資料か，担当者等関係者が知っておくことが必要な資料かを明確にする。）
  - 保管期限（改訂版の場合は，前の版の破棄の可否について明確にする。）
- 学校に配布された広報啓発資料の活用方法等に関する研修会を開催する。(研修会開催時に学校から持参するよう依頼する。)
- 教育委員会等が主催する担当者会議において，資料の周知を促す。

2　教育委員会等学校設置者

- 教育委員会等が主催する担当者会議において資料の周知を促す。
- 配布時の添書を工夫する。例えば，執務上，根拠となる部分を紹介したり，各学校における望ましい活用事例を紹介したりする。
- 資料が各学校に複数配布される場合には，「各学年の担当者に1冊」等の例示も必要である。
- 研修会での積極的な働きかけ（活用方法，活用事例の紹介など）を行う。
- 配布後，活用の有無を回答してもらうことも有効である。
- 根拠となる部分を紹介したり，各学校における望ましい活用事例を紹介したりする。
- 啓発資料が手元に届いた際，受付簿を作成するよう促す。（年月日，発送元，冊子名，冊数，誰に届けるか〈校務分掌名，担当者名〉）を各学校で作成）
- 教育委員会が作成する研修計画に，資料の持参等を組み込む。
- 同じ冊子で使用対象者が複数になる場合は，それぞれの視点で周知を促す。

【添付書の工夫例】

日本学校保健会から送付される資料は，一覧にまとめて年間の送付物が分かるようにする。

第　○○○号
平成 26 年（2014 年）○月○日

各市町教育委員会教育長　様

○○県学校保健会
会長　○△××

平成 26 年度　公益財団法人日本学校保健会発行出版物の送付について

このことについて、下記の予定で日本学校保健会から直接送付されます。
つきましては、学校保健活動の参考資料として御活用下さい。
なお、市町教育委員会におかれましては、管内学校への配布をお願いします。

記

	出版物名	発行時期予定	配布部数		
			各市町教育委員会	小学校	中学校
1	会報「学校保健」年6回（5・7・9・11・1・3月号）	5・7・9・11・1・3月	1部	3部×管内小学校数	3部×管内中学校数
2	学校経営の観点に立った、保健室経営の在り方調査研究委員会報告書	3月	1部	1部×管内小学校数	1部×管内中学校数
3	健康診断啓発ポスター（各校種へ）	未定	1部	1部×管内小学校数	1部×管内中学校数

【文書・啓発資料の学校での保管までの流れ：小学校でのファイリングシステム例】

文書
資料の送付
→
受付簿（データ管理）文書に収受印
分類区分（市ファイル分類に基づく）
→
担当者へ

大分類	小分類	ファイル名称	編綴内容・整理方法	保存年数	保管場所	担当者	サーバー	備考
・・黄	保健 2	00　学校保健関係	・以下に入らない学校保健に関する文書 ・指導の内容のものは指導の学校保健・性教育(B-3-09)へ	5				
		01　日本スポーツ振興センター関係	・センターに関する文書 ・加入者名簿・災害報告書・通知書・領収書・センターだより等を区分して編綴	5				
		02　児童生徒健康診断票	・各学級別で編綴　卒業後は、１学年１冊にまとめ、卒業年度を明記して保存	5				*(秘)
		03　健康診断事前調査	・各学級別で編綴　卒業後は、１学年１冊にまとめ、卒業年度を明記して保存	5				*(秘)
		04　要準児童生徒医療券関係	・医療券に関する文書 ・申請書の控え・通知書等を編綴	5				(秘)
		05　児童生徒感染症他関係	・感染症に関する文書 ・インフルエンザ・O-157等 ・エイズに関する文書は指導の学校保健・性教育(B-3-09)へ	5				
		06　児童生徒健康診断関係	・保護者宛の文書及び実施要項	5				
		07　職員健康診断関係	・諸検査結果 ・職員健康診断票は別冊で可	5				(秘)
		08　校医関係	・執務記録等	5				
		09　保健統計関係	・国・県・市・校内の保健統計	10				

届いた資料の鑑文に文書区分等が担当者によって提示される。

受付	校長	教頭	教務	係
文書区分　D		205	保存年限	135 永

事　務　連　絡
平成２４年６月１５日

各都道府県・指定都市教育委員会学校安全主管課
各都道府県私立学校主管課
附属学校を置く各国立大学法人事務局　御中
構造改革特別区域法第１２条第１項の認定を
受けた各地方公共団体の学校設置会社担当課

文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課

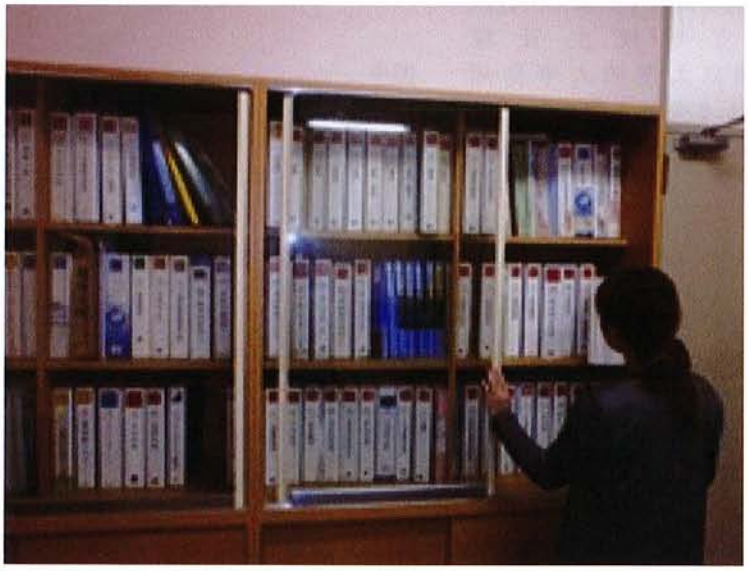
環境省熱中症関連普及啓発資料の周知について（依頼）

熱中症事故の防止については、平成２４年６月１５日付け２４ス学健第７号において周知していますが、このたび、環境省から、熱中症関連普及啓発資料の周知について、別紙のとおり文部科学省に対して協力依頼がありました。

環境省では、広く一般の方々に対し熱中症対策について普及・啓発を図るほか、保健師等の保健指導者の方々が地域住民に対し保健活動を行う際、使用いただくことを目的とし

3　学校（校長等管理職）

- 管理職として，保健主事，養護教諭，安全主任，生徒指導等の分掌の範囲や担当者が扱う内容などについて関係者で協議して，それぞれの役割や責任の明確化を図るよう指示する。
- 管理職は，担当者や学校内の資料の保管場所等について，教職員が共通理解を図るよう指示する。例えば，資料の保管･管理について，共通理解を図る場を設けて，保管と望ましい活用のための流れやファイリングシステム等について，教職員とともに共通理解を図る。
- 管理職は，担当者に任せきりにせず，資料の内容を確認するとともに，活用を促すよう指示したり，管理職としての姿勢や方策を示したり，担当者と連絡や報告などを密に行うようにしたりする。
- 現状を踏まえ，配布後，年に一回，「文書管理の日」等職員全員で目を通す機会を設け，担当者の手元に届くようなシステムを構築する。
- 関係者への周知のみならず，職員全体に周知していくよう努める。例えば，「こんな冊子・資料が届きました」などの広報用チラシを職員室に掲示する。
- 職員会議（打合せ）や年間指導計画を利用し，職員への周知を図り，活用を促すことが肝要である。
- 職員へ周知が図られても，資料の保管場所が不明であれば，効果的な活用は実現しない。保管場所の周知が大切である。可能であれば保管室を設けて，効果的・積極的に活用されるよう工夫する。



文書棚（2年間分の文書を保管）

共通の資料は職員室近くの棚で保管
（複数配布の資料・予備資料も保管）

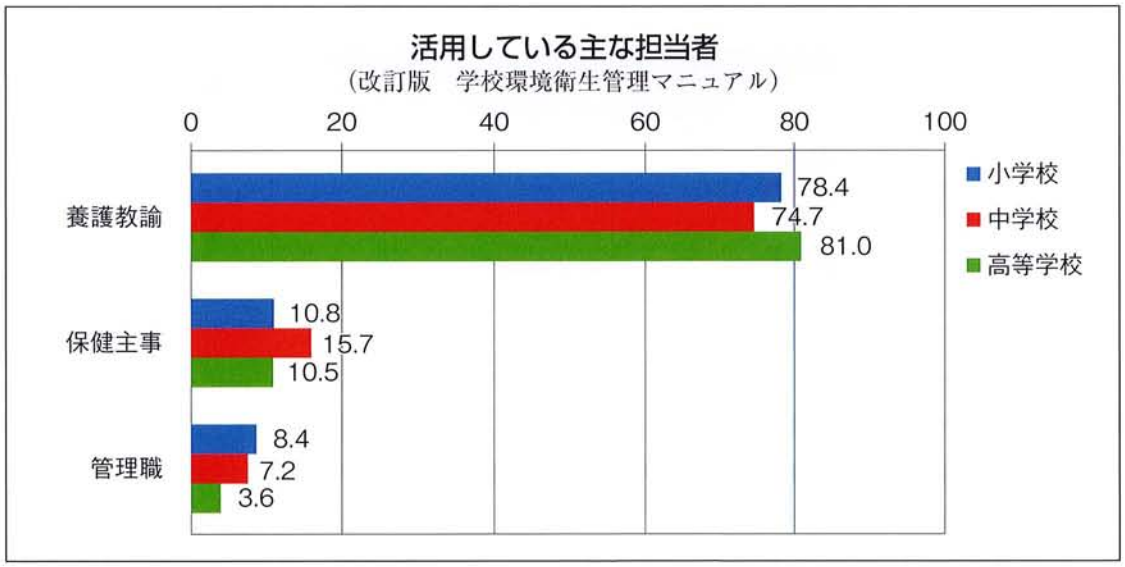
第3章 資料の保管及び活用

Ⅰ 保健管理に関する資料

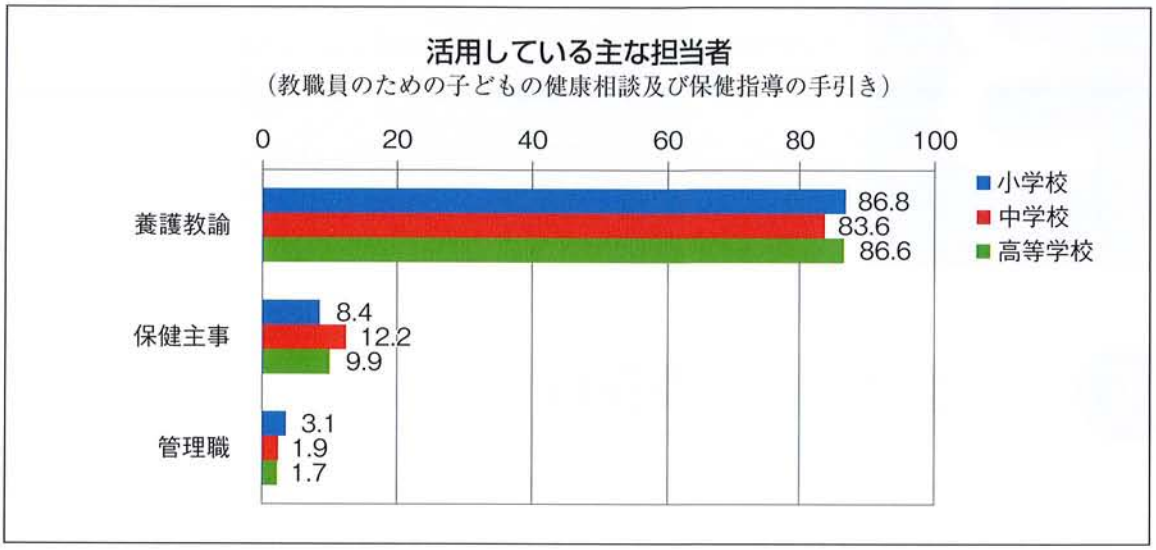
保健管理に関する資料では，児童生徒等の適切な学習環境の確保を図るため，定期検査の実施方法等をまとめた「改訂版　学校環境衛生マニュアル」，教職員等による健康相談，保健指導の充実を目指した「教職員のための健康相談及び保健指導の手引き」，養護教諭の職務に関する調査を実施した結果から現状を把握し課題に対応した「学校保健の課題とその対応～養護教諭の職務に関する調査結果から～」を取り上げた。

1　現状と課題

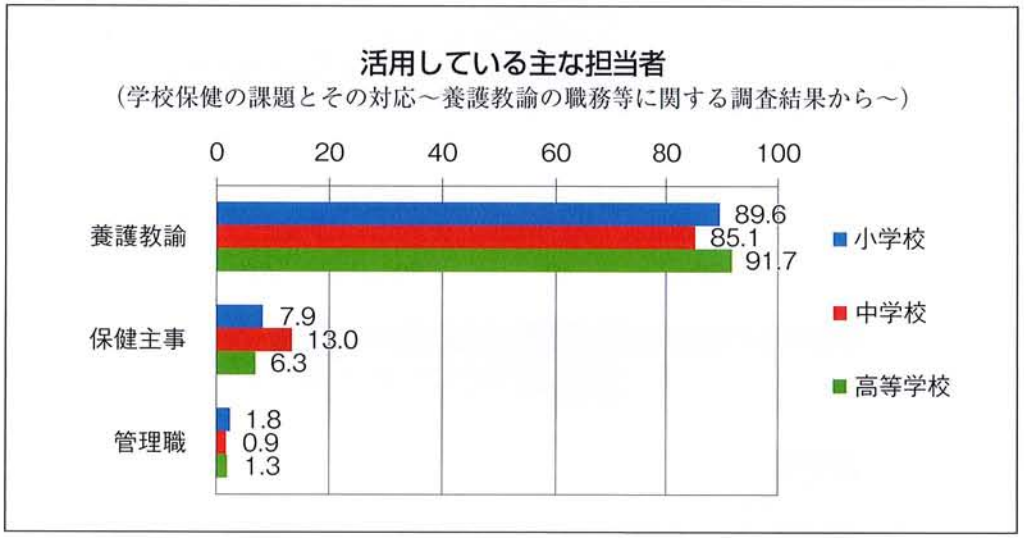
現状
いずれの学校種においても，多くは養護教諭に配布され，保管されている。



- 「改訂版　学校環境衛生管理マニュアル」を養護教諭が主な担当者となっている学校の割合は，小学校で78%，中学校で75%，高等学校で81%であり，いずれの学校種においても，養護教諭が保管，活用している割合が高かった。
- 次いで保健主事が主な担当者となっている学校は，小学校で11%，中学校で16%，高等学校で11%といずれも10%台であり，学校内での保健関係の分掌に就く教職員が保管，活用していることが分かる。

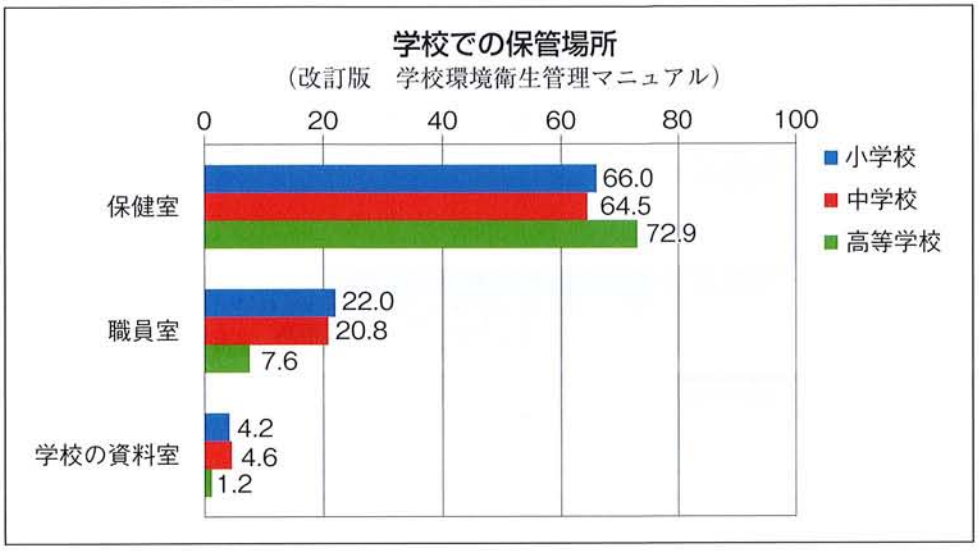


- 「教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引き」では，小学校で87%，中学校で84%，高等学校で87%といずれも80%を超え養護教諭が主な担当者となっている。
- 保健主事は，次いで主な担当者となっている学校の割合が高かったが，その割合は，小学校で8%，中学校で12%，高等学校で10%であった。また，管理職の割合は，最も高い中学校で3%であり，いずれの学校種においても高くなかった。



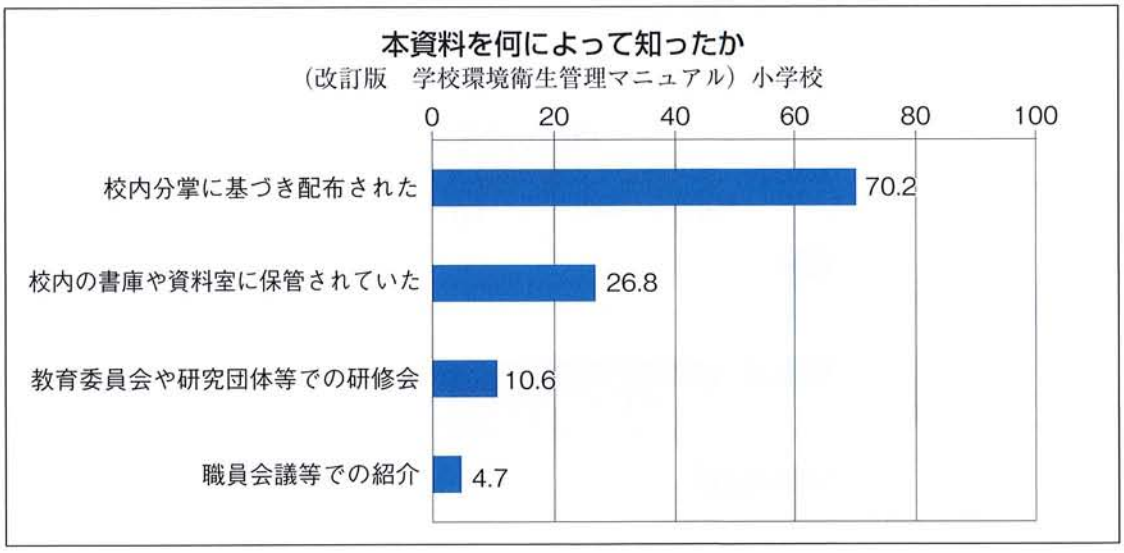
- 「学校保健の課題とその対応～養護教諭の職務等に関する調査結果から～」では，小学校で90%，中学校で85%，高等学校で92%の養護教諭が主な担当者となっており，いずれの学校種においても高かった。
- 保健主事が主な担当者となっている学校の割合は，小学校で8%，中学校で13%，高等学校で6%と中学校が比較的高い結果となった。また，管理職の割合は，最も高い小学校で2%であり，いずれの学校種においても高くなかった。

課題
保健管理に関する資料の保管場所は，保健室であることが多い。



● 資料を活用している学校が保管している場所は保健室が多く，小学校では66%，中学校が65%，高等学校が73%であり，校種が上がるほどその割合は高い。次いで職員室が多く，小学校22%，中学校が21%，高等学校が8%である。なお，活用している学校では，保管場所が不明との回答はない。

課題
校務分掌に基づき配布されたことにより，資料を把握していることが多い。



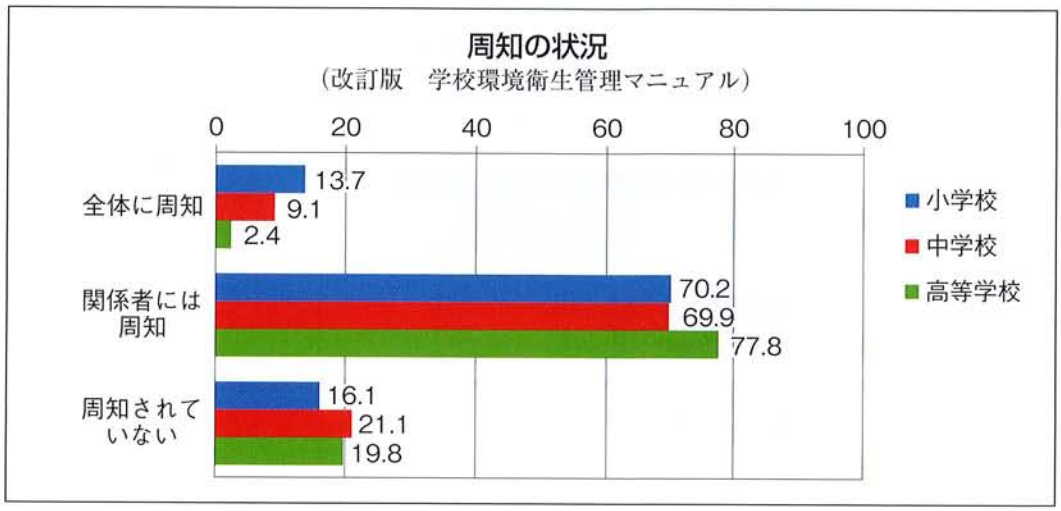
● 校務分掌に基づき配布されている学校の割合は70%であり，次いで校内の書庫や資料室に保管されている学校の割合が高く27%である。

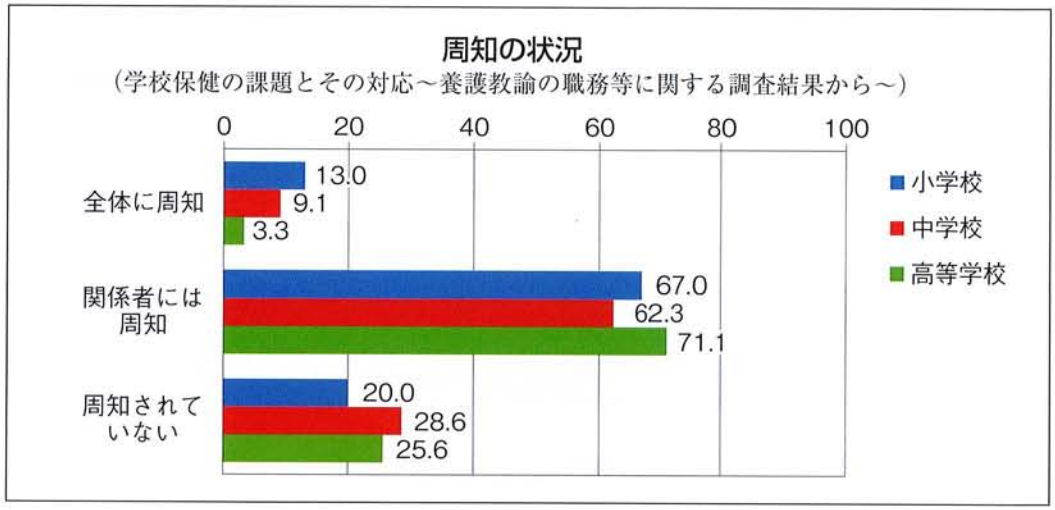
● 校務分掌に基づき配布されたこと以外に，教育委員会や研修会で紹介されることによりさらに望ましい活用をする傾向にある。

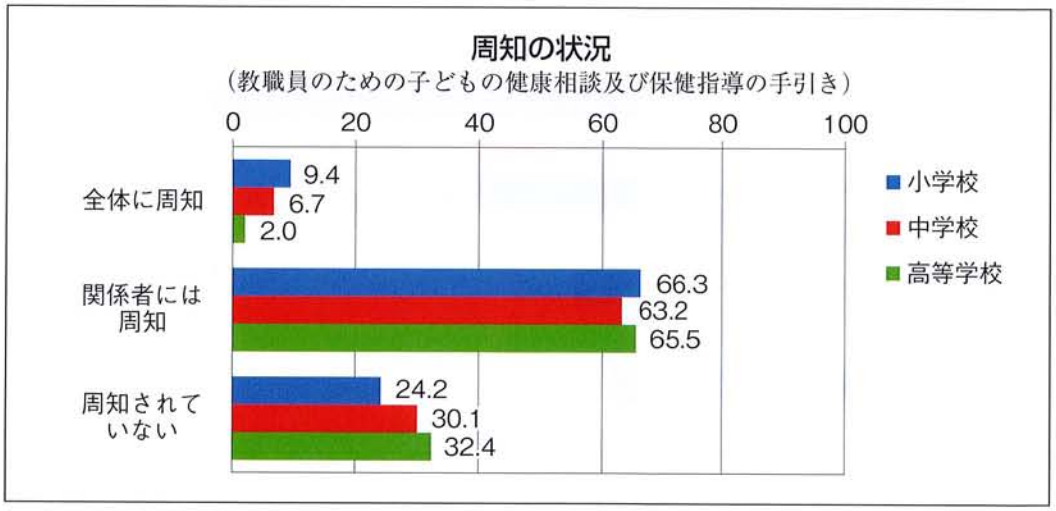
● 職員会議で周知されたと回答された学校も，活用している割合が高かった。

現状

周知状況では，いずれの学校種においても，関係者に周知することが最も多い。







● 全体に周知している校種は小学校が最も多く，次いで中学校，高等学校の順であるのに対し，関係者には周知している校種は高等学校が最も多く，次いで中学校，小学校の順である。

2　改善に向けた方策等

望ましい活用状況とは

保健管理における資料の「望ましい活用状況」は以下のようなことが考えられる。

『改訂版　学校環境衛生管理マニュアル』

・　学校環境衛生の定期検査，日常点検で活用する（基準値・検査方法・法的根拠等）
・　担当者が内容を確認する
・　児童生徒の健康・安全学習の教材づくり等で活用する

『教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引き』

・　事例を基に児童生徒の健康相談や保健指導の資料とする
・　担当者が内容を確認する
・　活用にかかわる協議を行う

『学校保健の課題とその対応～養護教諭の職務等に関する調査結果から～』

・　養護教諭の役割について確認する
・　学校保健計画，保健室経営計画などの作成時に活用する

方策
養護教諭及び保健主事から学校全体へ周知し，教職員全体の共通理解につなげる。

方策
学校全体へ周知することが，よりよい活用につながる。

- 校内分掌に基づき配布することは活用を促すことに有効であるが，研修会等の機会を通じて資料が紹介されることがより有効である。
- 保健管理に関する資料については，養護教諭又は保健主事が主な担当者となることで，より活用されると示唆される。
- 養護教諭が主な担当者となっている場合には，保健室に保管することが有効な活用につながると考えられる。
- 活用している学校と望ましい活用をしている学校の割合との間に，周知の方法において差が認められることから，活用方法の適切な情報提供が必要である。
- 関係職員が周知していることは活用を促すことに必要であるが，全職員に周知することがより効果的であると示唆される。
- 保健室に保管されている資料については，養護教諭が活用すべきものが多いが，保健教育にかかわる全教職員の役割を明確にし，学校全体の取組体制を整備するためにも，養護教諭から学校全体へ資料を周知すべきである。また，保管するだけではなく，定期的に資料の精選，活用期限の確認等をし，常に新しい情報を得ていくことも必要である。

方策

教育委員会や研究団体等での研修会，職員会議等での紹介も有用である。

● 校内分掌に基づき資料を配布することは活用を促すことに有効であるが，研修会等の機会を通じて資料を紹介することがより有効である。

新規採用養護教諭研修での活用

5　次回（第３日）の案内
（1）期　日　平成２６年５月２３日（金）
（2）会　場　総合教育センター
（3）内　容　講話・実習「学校環境・衛生活動における諸検査」
講話「学校における安全教育の充実」
講話「学校保健計画と保健室経営計画」
講話「健康観察及び健康相談、保健指導について」

（4）持参物　「改訂版　学校環境衛生管理マニュアル」平成２２年３月　文部科学省

平成２６年度新規採用養護教諭研修
実　施　要　項（第３日）

1　期　日　平成２６年５月２３日（金）
2　会　場　総合教育センター
3　日　程

時　間	研　修　内　容　等	会　場
9:00～ 9:30	受付	４１２研修室前
9:30～11:50	講話・実習「学校環境・衛生活動における諸検査」 ○○薬剤師会　○○　○	４１２研修室

薬剤師との連携により効果的な活用を促すことができる。

具体的な対策は，「提言４（P15)」を参考にしてください。

【参考　教室の環境整備】

日常点検等，教室の環境衛生が適切に保たれること，感染症予防等に配慮した周知例

冷暖房器具
【例】扇風機
天上に設置する。猛暑時期はさらに追加するなど風の流れを作り空気が滞るのを防ぐ。

室温計
熱中症対策及び室温管理
室温の上昇が著しい時期，時間を把握しエアコン設置教室を使用するなどの目安とする。

不審者・緊急時対応用
防犯ブザー・さすまた等を設置する。

日常点検カード
学校環境衛生基準に設定されている日常点検項目をカードにして掲示する。異常時はすぐに報告できるよう，提出用の用紙を準備する。

アルコール等の手指消毒剤
給食前の消毒やインフルエンザ流行時の予防に使用する。最近では通年の感染症予防として常時設置する。

その他の消毒剤
給食配膳台の消毒などに使用
例）消毒剤の原液を適切な濃度に希釈したものをスプレーボトルに入れておき，週1回程度交換する。

インフルエンザ対策パック
マスク・体温計など
咳症状のある場合はすぐにマスクを着用。
継続する場合は家庭より持参する。

嘔吐時の処理パック
手袋・マスク・黒ビニール・新聞紙・タオルなど
処理方法と処理後の消毒について明記する。
塩素系消毒剤は保健室から持ち出して散布する。

Ⅱ 保健教育に関する資料

保健教育に関する資料には，①児童生徒等に配布され各個人で活用されるものと，②教職員が指導の際に活用するものがある。今回の調査では，①として「健康教育教材」（小学校「わたしの健康」，中学校「かけがえのない自分かけがえのない健康」，高等学校「健康な生活を送るために」），②として「喫煙，飲酒，薬物乱用防止に関する指導参考資料」（小学校編，中学校編，高等学校編），「生きる力を育む小学校保健教育の手引き」，「未来があるから！～薬物に“NO!”という生き方を～」を取り上げた。

1　現状と課題

（1）　保健教育に関する資料全体に共通する事項

課題
担当者は，主に養護教諭であり，本来の担当者である学級担任や教科担当は少ない。
（本来の担当者が，保管・管理の主な担当者になっていない。）

- 資料を活用する担当者は，養護教諭であることが多い。
- 担当者が養護教諭であるよりも，保健主事や学級担任，保健体育科教諭である方が望ましい活用をしている。
- 保健教育に関する資料は，いずれも保健室に保管されている回答が多かった。しかし，望ましい方法で活用されている割合は，学級担任や職員室での保管の場合の方が高い。

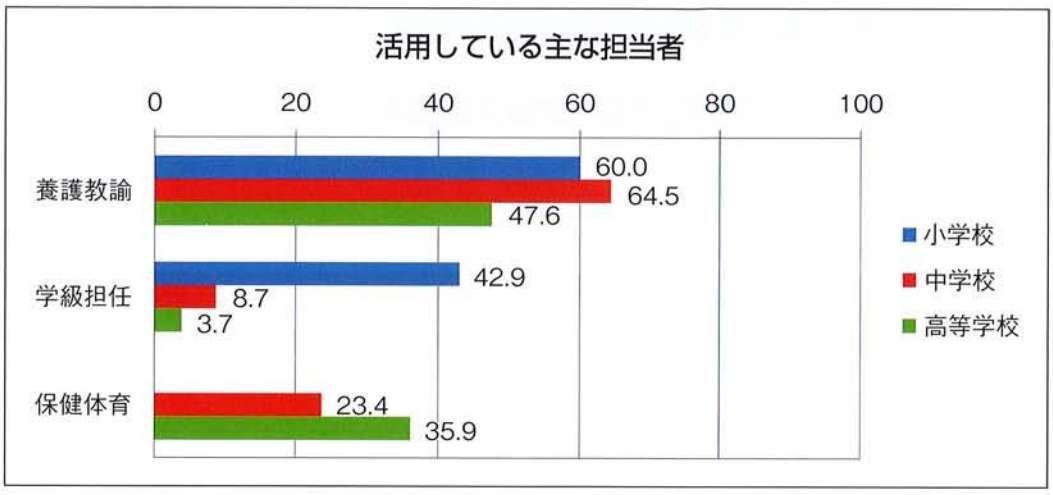
課題
活用に関する協議や研修会及び職員全体に対する情報の提供が不十分である。

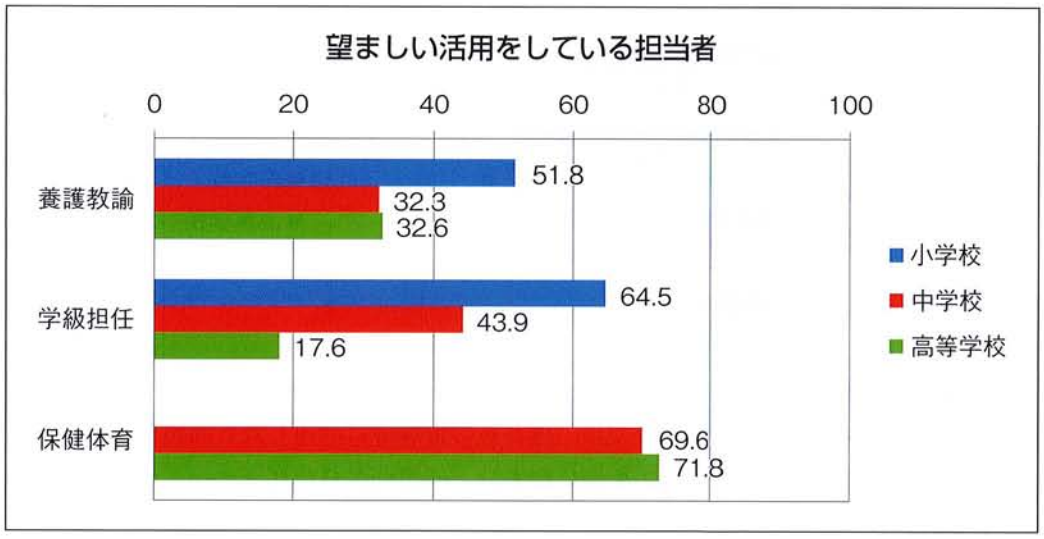
- いずれの資料も，知った方法は「校務分掌に基づき配布された」がほとんどであるが，望ましい活用は60％程度である。
- 「職員会議等での紹介」や「校内の学年，教科，全体等の研修によって知った」と回答された資料の活用状況，活用方法は望ましい傾向にある。
- 全体に周知されている方が活用状況も活用方法もよい。特にDVDは，職員全体への周知が必要である。

（2）　児童生徒等が直接活用する資料（健康教育教材）等

課題

担当者については，小学校では学級担任，中学校，高等学校では保健体育科教諭である場合，望ましい活用をしている割合が高い。

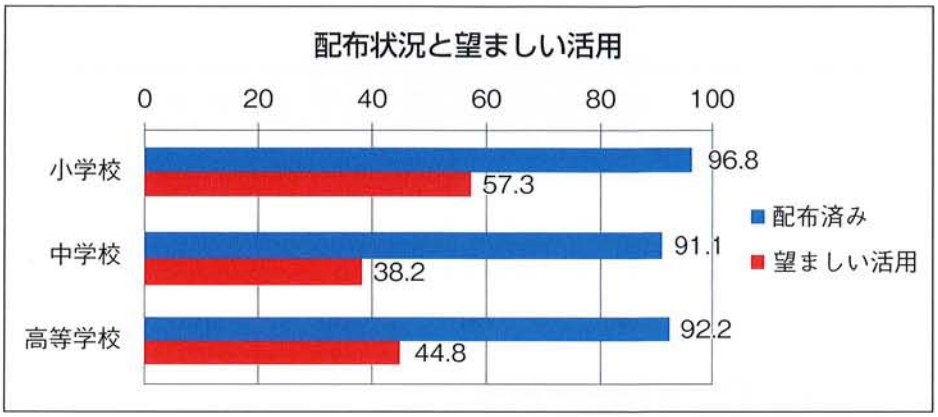




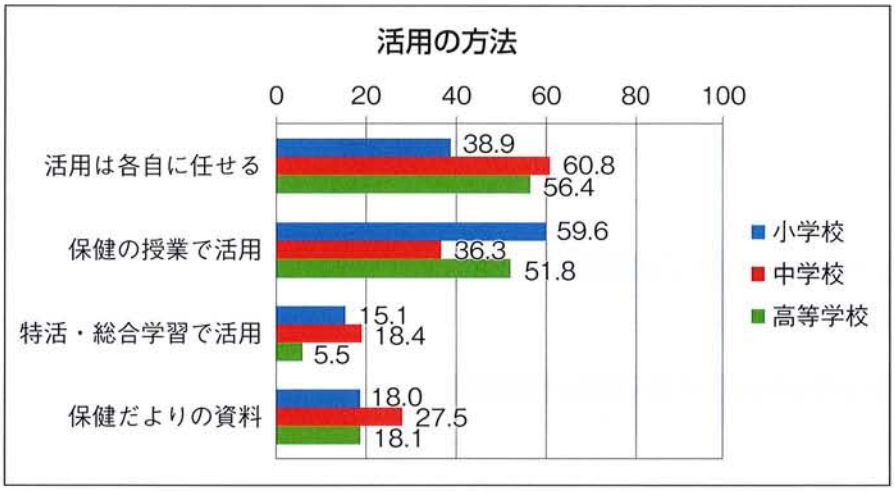
● 本資料は，養護教諭が主な担当者となることで活用されている。しかし，望ましい活用をしている担当者の割合は，小学校では学級担任が，中学校と高等学校では保健体育科教諭が望ましい活用をしている割合が高かった。

課題

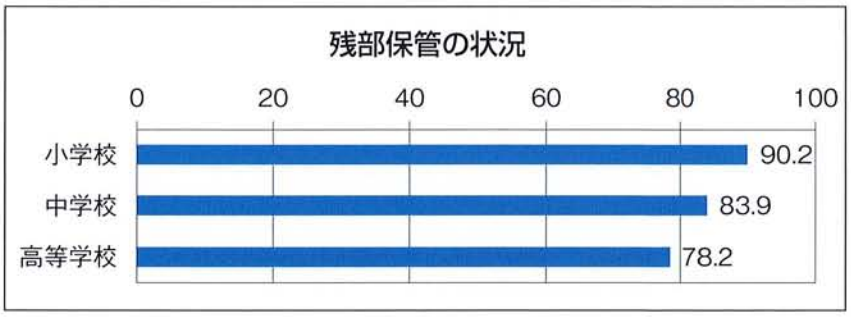
資料の望ましい活用の割合を高める必要がある。また，残部をしっかり保管管理することは全ての教員の活用にもつながることから，保管場所やその周知が大切である。



● 本資料は，いずれの学校種においてもほぼ全ての児童生徒に配布されており，児童生徒に配布済みの学校の割合は，小学校で97%，中学校で91%，高等学校で92%であった。望ましい活用の割合は，小学校で57%，中学校で38%，高等学校で45%であった。



● 活用方法をみてみると，小学校では，体育科の指導時に活用したと回答した割合が最も高く，中学校及び高等学校では，生徒に配布し，活用は各自に任せていると回答した割合が高かった。



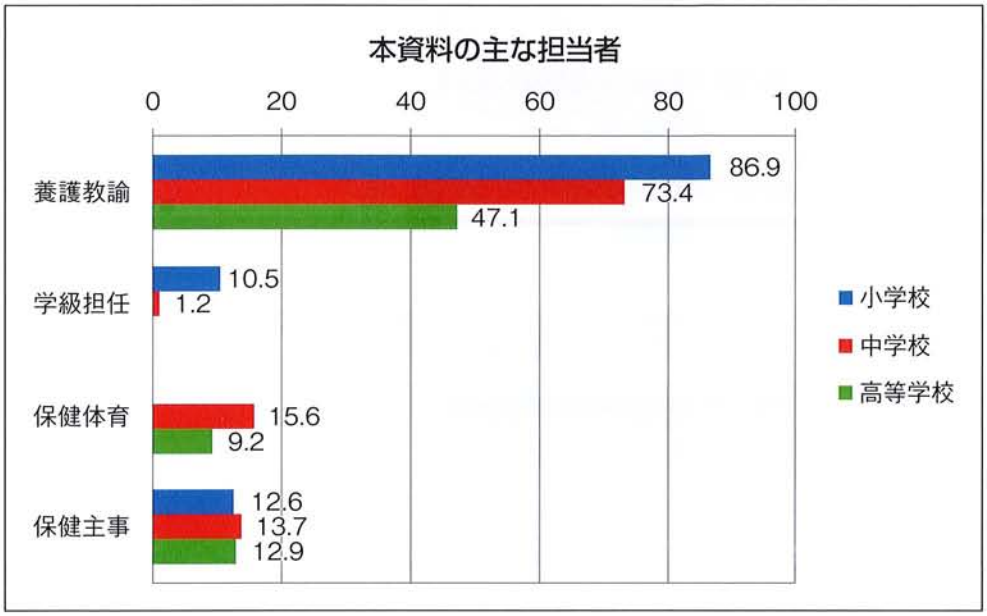
● 本資料は，いずれの学校種においても，残部がよく保管されていた。

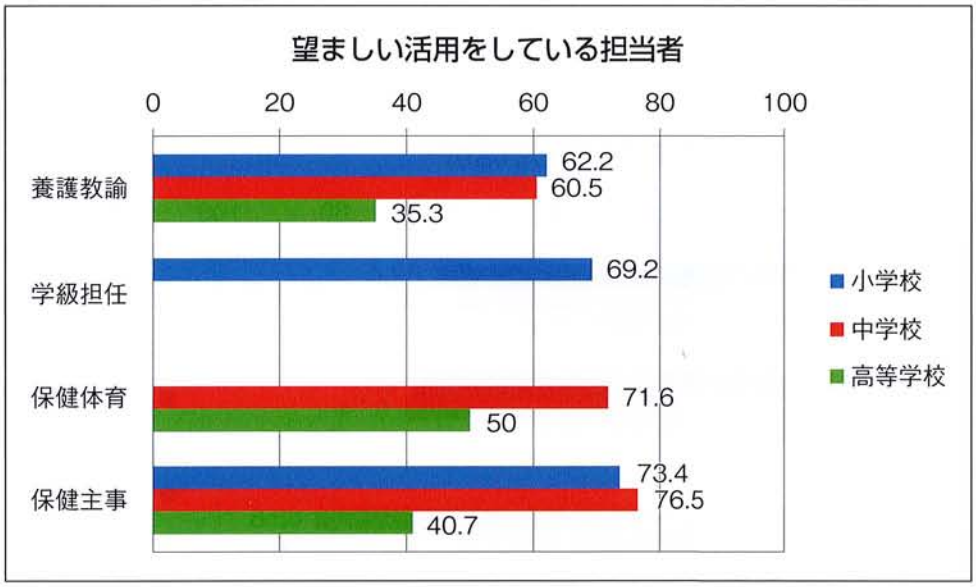
（3）　指導者が直接活用する資料等

【喫煙，飲酒，薬物乱用防止に関する指導参考資料（小・中・高等学校共通）】

課題

本資料の主たる担当者は養護教諭であるが，望ましい活用をしている場合の担当者は，校種によって異なるものの，学級担任，保健体育科教諭，保健主事などであった。

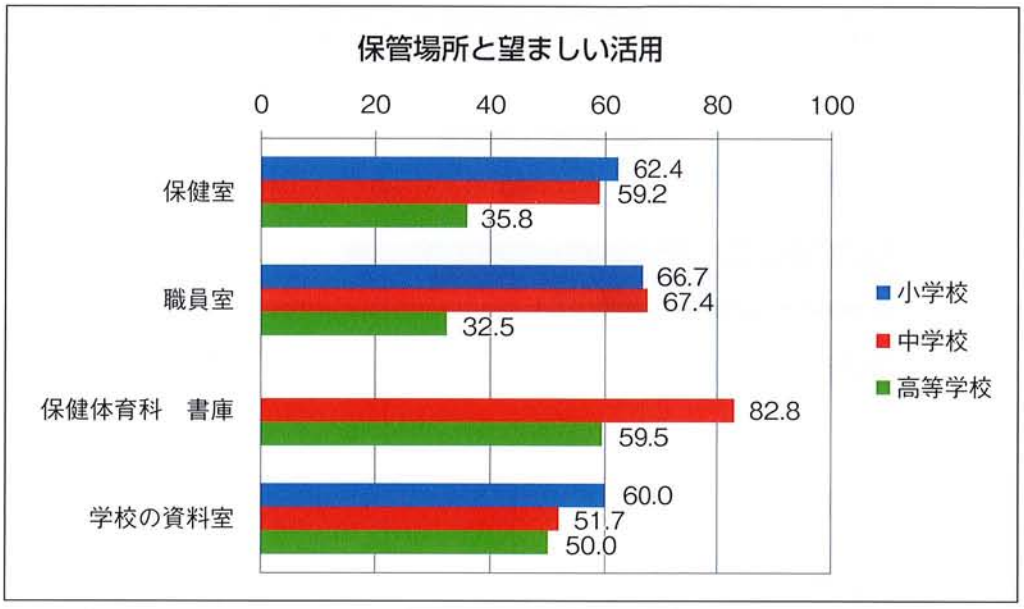




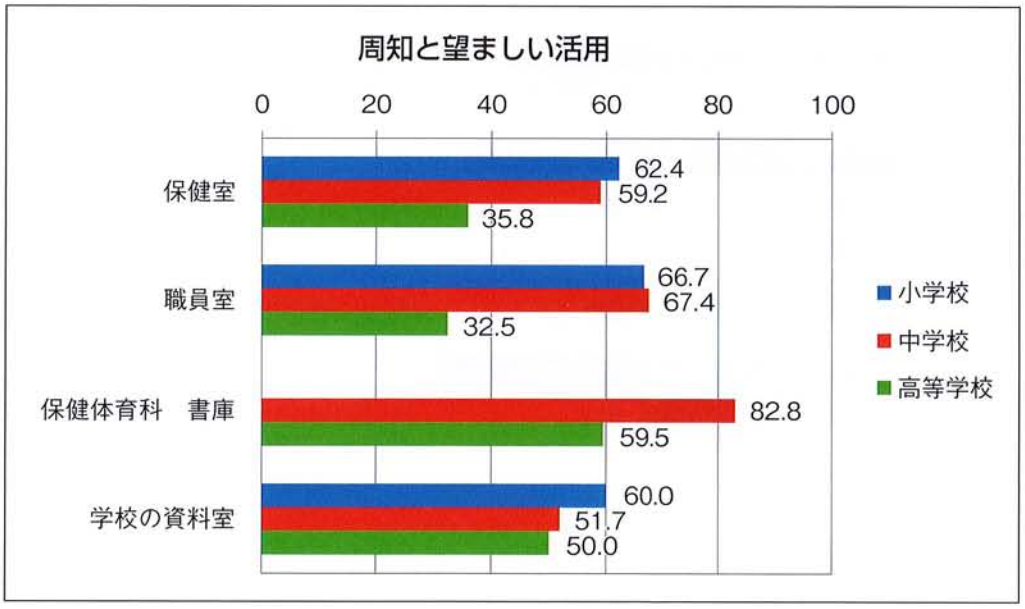
● 本資料は，養護教諭が主な担当者である。しかし，望ましい活用をしている場合の担当者の割合は，小学校と中学校では保健主事，高等学校では保健体育科教諭であり，養護教諭より保健主事及び保健体育科教諭が望ましい活用をしている割合が高かった。

課題

本資料の主な保管場所は保健室であるが，望ましい活用をしている担当者が保管することの方が活用の割合が高い。また，職員全体に周知されている方が望ましい活用の割合が高い。



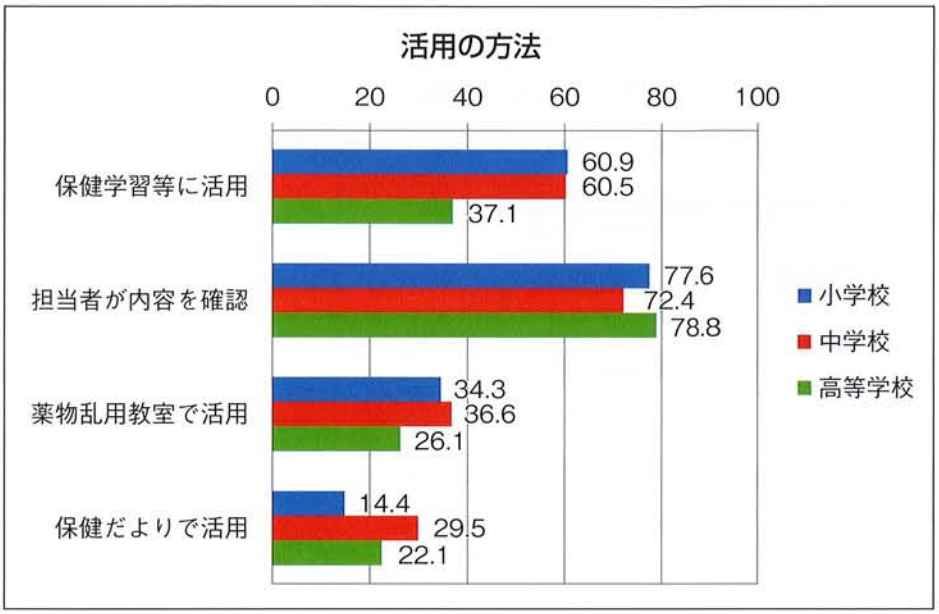
● 保管場所は保健室と回答した割合が最も高かったが，望ましい活用の割合は，小学校では職員室，中学校及び高等学校では保健体育科関係の書庫で保管されている場合の方がより高かった。



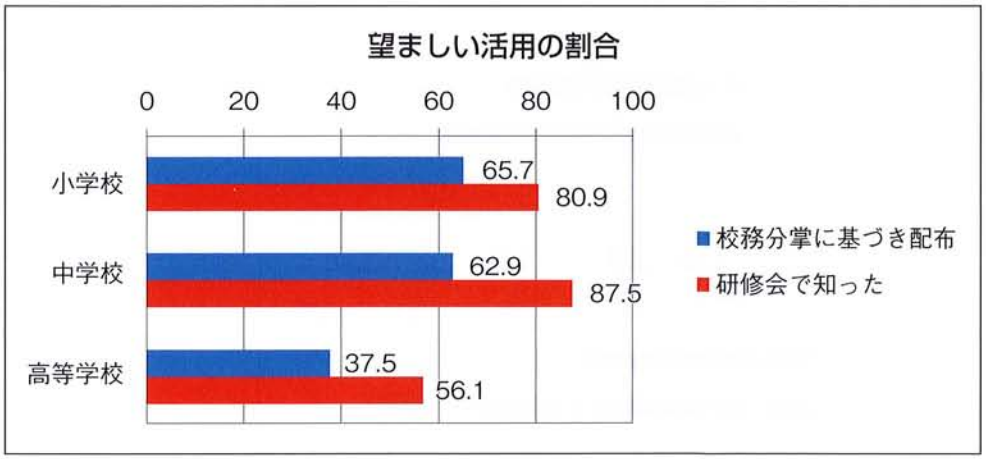
● 職員会議などで保管場所や活用について連絡するなど，職員全体に周知されている場合の方が望ましい活用の割合が高かった。

課題

活用方法は，「担当者が内容を確認した」割合が高かったが，保健学習や保健指導などでの活用も認められた。



● 本資料の活用方法は，担当者が内容を確認したと回答した割合が最も高かった。保健学習・保健指導の教材や資料づくりや薬物乱用防止教室等の活動，保健だよりでの活用が望まれる。



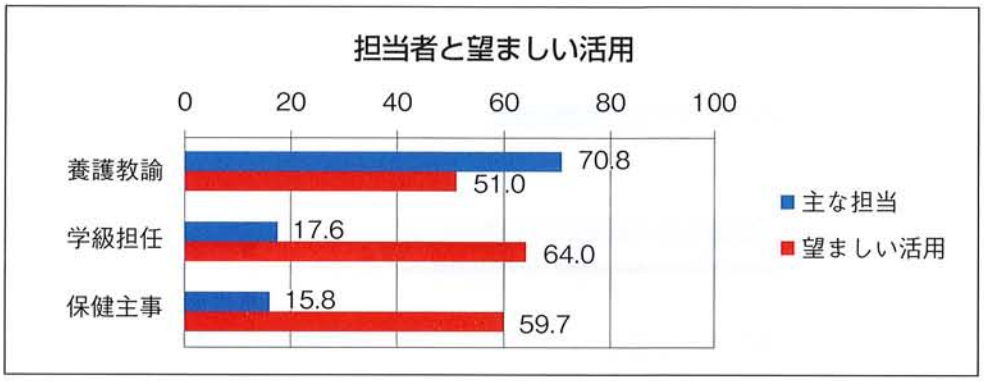
● 担当者が本資料を知った方法は，「校内分掌に基づいて配布された」と回答した割合が最も高かったが，それらの学校の内，望ましい活用をしている学校の割合は「教育委員会や研究団体等での研修会で知った」ことの方が高かった。

● また，関係職員には周知されていると回答した割合が最も高く，小学校で66%，中学校で70%，高等学校で72%であった。一方，職員全体に周知されていると回答した割合は，小学校で14%，中学校で12%，高等学校で5%と低く，学校教育活動全般での活用を進める上では，職員全体への周知が必要である。

【「生きる力」を育む小学校保健教育の手引き（小学校）】

課題

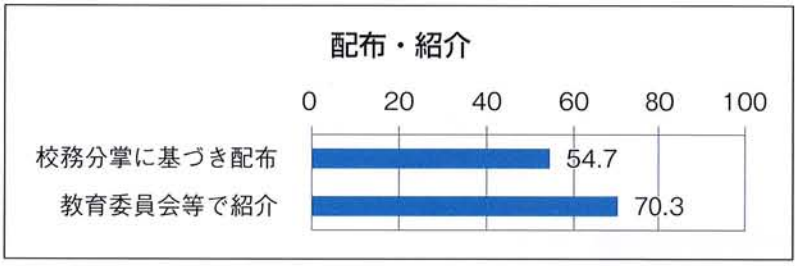
本資料の学校における主たる担当者は，養護教諭であるが，より望ましい活用をしている場合の担当者は学級担任や保健主事である。

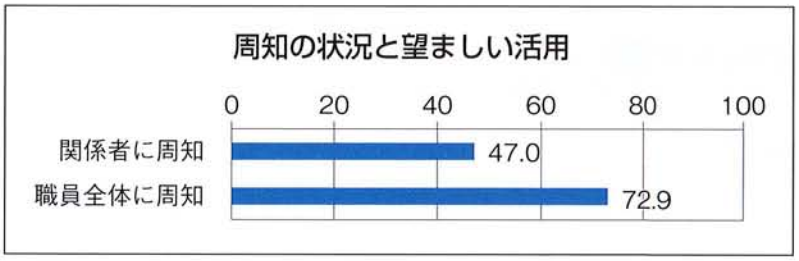


● 小学校において本資料の主な担当者は養護教諭であるが，望ましい活用をしている割合は，養護教諭より学級担任及び保健主事の方が高かった。

課題

望ましい活用のためには，教育委員会や各研究団体での紹介されること及び保管場所や活用に関して職員への周知の在り方が課題である。





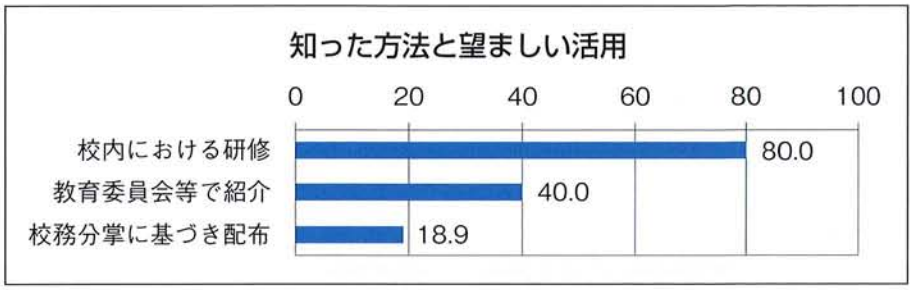
● 教育委員会や研究団体等での研修会で知った場合，望ましい活用の割合が高かった。また，保管場所を保健室としている学校の割合が高いが，望ましい活用の割合は，保健室の保管より学級担任の保管の方が高かった。

● 関係職員に周知されていると回答した割合は57％であったが，職員全体に周知されていると回答した割合は28％と低かった。また，望ましい活用の割合は，関係者に周知よりも職員全体に周知している場合の方が高かった。

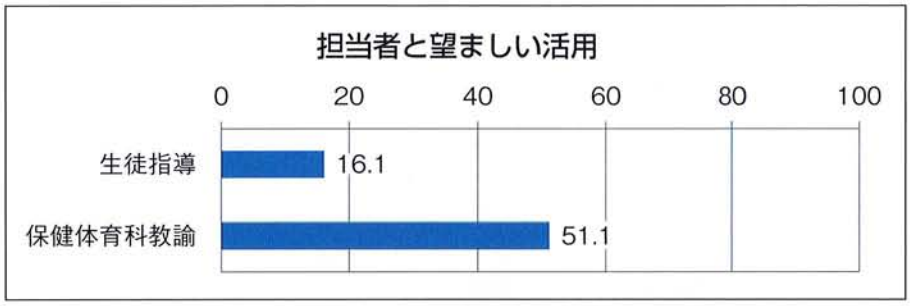
【未来があるから！～薬物に“ＮＯ！”という生き方を（高等学校）】

課題

「校内分掌に基づき配布する」だけでは望ましい活用を促すには不十分であり，教育委員会や研究団体，校内等での研修会での紹介では割合が高くなった。



● 本ＤＶＤを知った方法としては，校内分掌に基づく配布が高かったが，教育委員会や校内等での研修会で知った方が望ましい活用の割合が高かった。

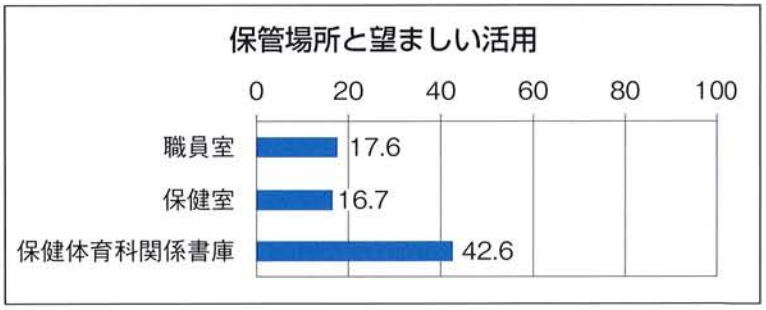


● 最も活用している担当者は，生徒指導であった。一方，望ましい活用の割合は，生徒指導より保健体育科教諭の方が高かった。

● 関係職員には周知されている割合は最も高く76％であった。一方で，職員全体に周知されている割合は7％と低かった。

課題

主な保管場所は職員室であるが，保健体育科関係の書庫の方が望ましい活用の割合が高かった。



● 保管場所については，職員室の割合が最も高く，次いで保健室，保健体育科関係の書庫の順であった。望ましい活用をしている割合が最も高いのは，保健体育科関係の書庫であった。

2　改善に向けた方策等

望ましい活用状況とは

保健教育における資料の「望ましい活用状況」は以下のようなことが考えられる。

児童生徒等に配布され各個人で活用されるもの

『わたしの健康』，『かけがえのない自分かけがえのない健康』，『健康な生活を送るために』

・　体育科・保健体育科学習等の指導時に活用する

・　特別活動，総合的な時間の指導時に活用する

教職員が指導の際に活用するもの

『喫煙，飲酒，薬物乱用防止に関する指導参考資料』（小学校編，中学校編，高等学校編）

・　保健学習・保健指導の教材や資料づくりに活用する

・　薬物乱用防止教室等の活動に活用する

『「生きる力」を育む小学校保健教育の手引き』

・　保健学習・保健指導の教材や資料づくりに活用する

『未来があるから！～薬物に“ＮＯ！”という生き方を～』

・　保健学習・保健指導の時間に生徒に視聴させる

（1）　保健教育に関する資料全体に共通する事項

方策１

保健教育に関する資料は，学級担任及び保健体育科教諭の目に触れる場所に保管する。保健室に保管する場合は，養護教諭から職員全体に周知を図る。

方策２

資料の効果的な活用事例などを，市町村や都道府県の教育委員会単位での研修会で紹介する。

- 学校における主たる担当者が養護教諭でも，保管場所は職員室や保健体育科等，望ましい活用を実際に行う職員が目に触れる場所がよい。
- 校務分掌に基づき配布された養護教諭から，学級担任，保健体育科への周知，並びに，職員会議や研修等を活用して職員全体に周知していくことが肝要である。
- 教育委員会等における資料の有効活用の情報提供や研修会，及び校内の担当者間の活用に関わる打合せを「車の両輪」とする取り組みが，啓発資料の望ましい活用につながる。

（2）　児童生徒等が直接活用する資料等

①　共通の方策

方策１

「健康教育教材」の活用のためには，活用や配布・保管に関する教職員の協議とその具体的な内容を職員全体に周知する。また，年度末には活用状況について評価することが望ましい。

方策２

「健康教育教材」の保健学習での活用などの望ましい活用のためには，どの校種においても教員が教材研究に用いることが大切である。

方策３

残部をしっかり保管・管理することが望ましい。校内分掌により配布されなかった職員や学校医，学校歯科医，学校薬剤師などに配布して確認を依頼し，助言等を受けることが，幅広い活用につながる。また，残部を生徒や職員が後で有効活用できるような工夫も必要である（下図参照）。

残部を展示ラックや長机などに置いて，生徒が自由に閲覧したり持ち帰れるようにする

② 個別資料の活用例

（小学校用健康教育教材「わたしの健康」）

● 担任，養護教諭等，教職員全体で活用が望ましい。

活用の流れの具体例

学校に届いた際に，複数の担当者に回覧される。
担当者で，いつ，どのような場合に，誰が配布するか等について校内で共通理解。

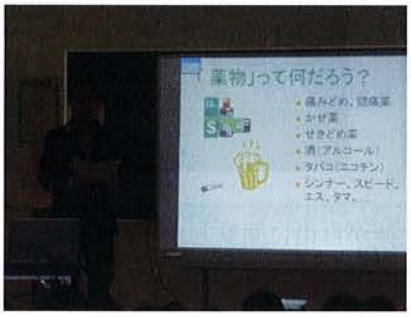
↓

薬物乱用防止教育の教材として，学校薬剤師による学習を行う際に活用することについて関係職員（学年主任　担任　教務　養護教諭　学校薬剤師　等）で具体的に協議。 ★

次ページ参照

↓

学年主任が「わたしの健康」を参考としたワークシートを作成。
薬物乱用防止教室で児童が副読本として使用。



↓

保護者に対して，学習内容，児童の感想を保健だより，学級通信等で情報発信

↓

ワークシートにより学習の評価。

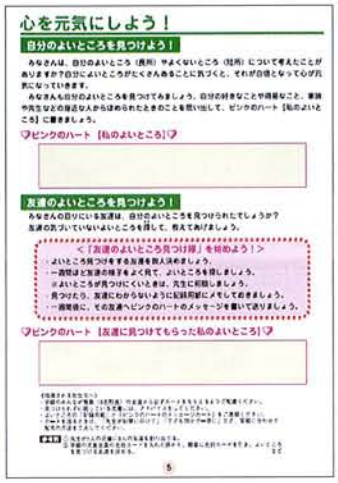
↓

次回の改善・有効活用へ。

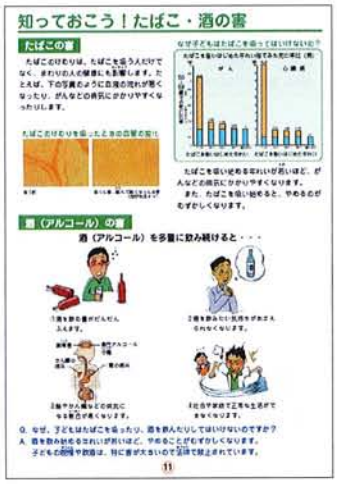
実施した内容，使用したプリント等は次年度の担当者が参考にできるように，学年ごとのファイルに保管される。

薬物乱用防止教育の教材として，学校薬剤師による学習を行う際に活用することについて関係職員（学年主任　担任　教務　養護教諭　学校薬剤師　等）で**具体的に協議。**

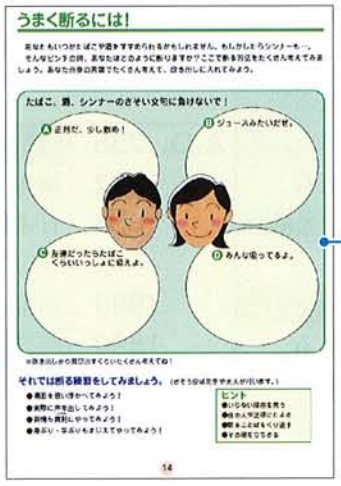
協議によって決まった活用例



・体育科（保健領域）5・6年「（1）心の健康」の導入時に活用する。



・体育科（保健領域）5・6年「（3）病気の予防　エ　喫煙，飲酒，薬物乱用と健康」における導入やまとめ，発展として活用する。



【活用例】

・薬物乱用防止教室の事前指導・事後指導，または本時の副読本として活用する。

○保管，活用の望ましい実践例（高等学校「健康な生活を送るために」）

1．「保健学習時」にワークシートとともに生徒が使用するファイルに綴じる

○保健の授業の副読本として読ませる

2．保健のワークシートへの活用例①（P29 「感染症と医学の進歩」年表）

「感染症とその予防」ワークシート（第１時間目）

（1）「感染症」について，正しいか，誤っているか。

①（ ○ ）感染症は，病原体が環境を通じて人間…

②（ × ）感染症の病原体はウィルスであり，細…

③（ × ）感染症は，感染するとすぐにその症状…

④（ × ）感染症は一度かかると再びかかることい…

⑤（ ○ ）ＨＩＶの感染経路は主に性行為による…

感染症と医学の進歩」年表

時　代	世界で流行した感染症	日本の感染症事情
紀元前	エジプトのミイラに**痘そう（天然痘）**や結核のあとが残る	
3世紀	**天然痘**がシルクロードから運ばれる	**天然痘**流行（奈良時代）
14世紀	**ペスト（黒死病）**の流行（ヨーロッパの人口の1/3 を失う大流行）	
16世紀	世界に広がる**梅毒**の流行，大航海時代	
17～18世紀	**天然痘、発疹チフス**の流行	江戸末期に**コレラ**，明治
18世紀末	ジェンナーの種痘の発見	に**ペスト**が入ってくる
19世紀	**コレラ、結核**の流行	日本人が滅亡
19世紀末	コッホがコレラ菌，結核菌を発見，**北里柴三郎が ペスト菌，破傷風菌を発見、志賀潔が赤痢菌を発見。**	
	パスツールがワクチン療法発見	
20世紀	**インフルエンザ、エイズ**の流行	1976 日本での種痘中止
1980	WHO による天然痘根絶宣言	
21世紀	**SARS、新型インフルエンザ**の発生	

（2） 感染症の発生と流行について考えてみよう。

人類の歴史は病いとの戦いの歴史でもあった。

なかでも人から人にうつる感染症の大流行は多数の病人や死者の発生，社会の混乱を起こした。

表１［感染症の歴史］

時　代	世界で流行した感染症
B.C.6000	西アジアにマラリア流行の痕跡
1150	古代エジプト王の顔に天然痘の跡
1000	古代エジプトで結核の最初の症例
460	アッティカでマラリア流行
430	アテナイで天然痘の大流行
A.D. 165～	ローマ帝国での疫病（ペスト）
542～	東ローマ帝国でペスト流行
1270	十字軍の遠征隊で赤痢大流行
1348	ペストがヨーロッパ全土に大流行
1495	梅毒，ヨーロッパに出現
1752	イギリス全土に天然痘流行
1817	第１回コレラ世界流行始まる
1918	世界的にインフルエンザ流行
1980	ＷＨＯ天然痘の世界根絶宣言
1981	アメリカで世界初のエイズ患者
2009	メキシコで新型インフルエンザの流行

年表を改変して「感染症の発生や流行の特徴」を考えさせる発問に活用している。

	日本で流行した感染症
A.D. 735	「続日本紀」に天然痘流行が記載
1512	梅毒日本に侵入，江戸時代流行
1858	日本国内でコレラ大流行（江戸時代，「三日コロリ」と呼ばれた）
1893	赤痢大流行，年に16万人の患者
1899	ペスト大流行（明治時代）
1918	スペイン風邪大流行
明治～昭和前期	結核大流行
1976	日本での種痘中止

表２［文明化による感染症の発生］

文明の発達	感染症の例
森林開発	エボラ出血熱の発生
地球温暖化	マラリアや黄熱の流行地域の拡大
交通・輸送の発達	輸入感染症の増大
抗菌剤乱用	ＭＲＳＡ（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）の発生
新しい製品の開発（コンタクトレンズ）	コンタクトレンズによるアカントアメーバー角膜炎の発生
社会全体の人の意識の変化	性モラルの変化によるエイズやクラミジアなどのＳＴＤの増大

Ｑ１：表１の［感染症の歴史］のなかに，天然痘，ペスト，インフルエンザの流行の記載箇所にマーカーで記してみよう。

Ｑ２：表１から，大昔から大流行を繰り返した感染症のうち，撲滅に成功した感染症は何だろうか。

→（　天然痘　）

Ｑ３：表１，２を見て感染症の発生と流行などの特徴を挙げてみよう。

・感染症は突然発生し，ある期間激しく拡がる。
・大流行を繰り返した感染症でも根絶することができる。
・感染症は時代を超えて繰り返して流行したり，他の地域に拡がる傾向にある。
・感染症は，自然・社会環境の影響を受けて起こり，変異や特性によりその発生と流行に違いがある。

３．保健学習における「喫煙防止ポスター」作成例

本資料は，保健学習で活用できる具体的な内容構成となっている。

ポスター作成を保健学習の一つの学習課題とし，標語やイラストのみならず，その標語やイラストの根拠となる図表やデータなどを参考として活用する。

・必要なデータを活用する

・写真を引用する

（P6「たばこの煙に含まれる有害物質」，P7「喫煙による体への影響」）

（3） 指導者が直接活用する資料等

① 共通の方策

方策１

指導者が直接活用する資料は，保健主事や小学校では学級担任，中学校及び高等学校では保健体育科教諭が主な担当者となることが望ましい。

方策２

「喫煙，飲酒，薬物乱用防止のための指導参考資料」「『生きる力』を育む小学校保健教育の手引き（中学校も同様）」は，授業のみならず校内の様々な教育活動実施の上で参考となる資料であることを周知する。

方策３

上記の指導参考資料や保健教育の手引きは，教員の教材研究や児童生徒の課題の参考資料として，保健学習や保健指導などにおいて活用することが望ましい。

方策４

ＤＶＤ教材は，その内容及び活用方法のみならず，主たる担当者及び保管場所を全ての教職員に周知することにより，有効に活用される。ＤＶＤは，他の資料に比べて小さくて見えにくいので，特に保管場所に留意する。

② 個別資料の活用例

- 各学校で毎年実施している「薬物乱用防止教室」の企画・立案及び児童生徒保健委員会活動時の資料，保健学習のための教材研究，生徒個人や集団に対する保健指導の資料として幅広く活用できるために，職員会議において，それぞれの学校の実態に応じた活用方法と保管場所を全職員に周知しておく。
- 活用している学校においては，「内容確認」と「教材研究」「資料作成」に活用している割合が60～78%であったが，高等学校の「教材研究」「資料作成」の割合が，小学校，中学校に比べて37%と低かったことから，活用する主な担当者が養護教諭及び生徒指導担当であっても，内容確認後に活用しやすい環境づくりと活用の手立てを考慮する必要がある。

「喫煙，飲酒，薬物乱用防止に関する指導参考資料」の内容

Ⅰ基礎編
- 指導の目標，内容や指導の機会，進め方，評価などについて

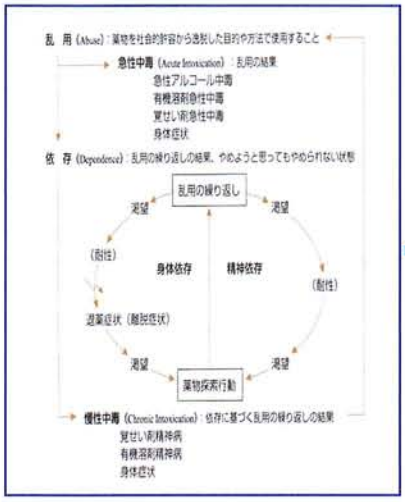
Ⅱ実践編
- 指導計画の概要，保健学習や特別活動における指導などについて
- 指導の展開例

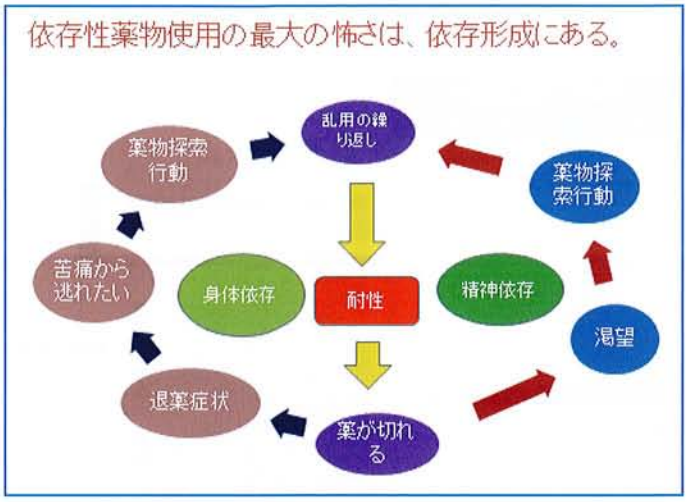
Ⅲ資料編
- 指導のための基礎的情報
- 参考資料

○「喫煙，飲酒，薬物乱用防止に関する指導参考資料」（高等学校編）の活用例

資料編（Ｐ161）の資料及び（Ｐ179）のポスターを保健の授業用としてプレゼンテーション用ソフトにして活用する。なお，高等学校用保健教育教材である「健康な生活を送るために」も合わせて同様に活用できる。

「喫煙，飲酒，薬物乱用防止に関する指導参考資料」（Ｐ161）　スライド例





「健康な生活を送るために」（Ｐ21）の「薬物乱用防止対策」より引用

スライド例

薬物乱用防止戦略加速化プラン

① 未然防止
　～教育・予防啓発の一層の充実・強化～
② 再乱用対策
　～取組み・離脱対策の強化～
③ 取締対策
　～取締りの徹底及び連携の強化～
④ 水際対策
　～国際連携・協力の強化及び水際対策の徹底
（平成22年7月策定）

「喫煙，飲酒，薬物乱用防止に関する指導参考資料」（Ｐ179）のポスターや文部科学省のＨＰにあるポスターからも引用

スライド例

薬物乱用防止啓発ポスター

○「「生きる力」を育む小学校保健教育の手引き」の活用例

- 本資料の内容構成は，全学年における保健教育の実際を体育（保健領域），特別活動（学級活動，児童会活動等），総合的な学習の時間の３節である。
- 保健学習と保健指導の進め方，家庭や地域との連携を図った効果的な保健教育の進め方，各教科等の関連を図った指導の進め方等，特に参考になる。以下にその内容の一部を紹介する。

本資料には，「小学校学習指導要領解説体育編の【第１学年及び第２学年の目標及び内容】【３　内容の取扱い】【(４)】」に示された「各領域の各内容については，運動と健康がかかわっていることの具体的な考えがもてるよう指導すること。」の具体的指導の実際が掲載されている。

展開例のみならず，板書例や学習カード例も掲載されている。

特別活動（学級活動，児童会活動等）の指導の実際も掲載されている。そのねらい，題材の位置付け，指導計画，ワークシートや板書計画例，そして体育科保健領域との関連が示されている。また，体育科保健領域と特別活動の指導内容を混同することのないように留意点が示されている。

上記の吹き出し内に示したようなポイントや特徴を押さえた上で職員会議や打合せ，部会，各研修会等で周知・伝達することで活用が促される。
※【提言４】参照

○「未来があるから！～薬物に“ＮＯ！”という生き方を」の活用例

- 本ＤＶＤの存在を今回の調査ではじめて知った割合が他の資料に比べて高い（24.1％）のは，周知の方法に問題があると考えられる。
- また，活用度や内容の確認は他の指導資料と同じような割合であるが，「生徒に視聴させた」割合が32％と低いことから，活用の意図が明確でないことも伺える。

本ＤＶＤの有効活用のために…

本ＤＶＤに添付されている「効果的な指導のために」を参考にして，生徒の実態に応じて保健学習時に生徒に視聴させたい。また，保健体育科の教員が「教材研究」や「資料作成」に活用することも有用である。

① 「薬物乱用と健康」の学習のまとめとして視聴させ，知識・理解の定着を図る。

② 「薬物乱用と健康」の必要なチャプターを視聴させて，生徒の思考・判断を促す授業展開に活用する。

③ 「薬物乱用防止教室」などで，生徒のみならず保護者も参加して視聴したり，「保護者会」で視聴させて，生徒の家庭生活での指導に役立てる。

【ＤＶＤの内容】

1．オープニング（1分50秒）
2．薬物はいけないの？（11分56秒）
3．なぜ，薬物を使ってしまったの？（10分05秒）
4．あなたへのメッセージ（9分10秒）
5．エンディング（1分15秒）

チャプター紹介

1．オープニング

2．薬物はいけないの？

3．なぜ，薬物を使ってしまったの？

4．あなたへのメッセージ

5．エンディング

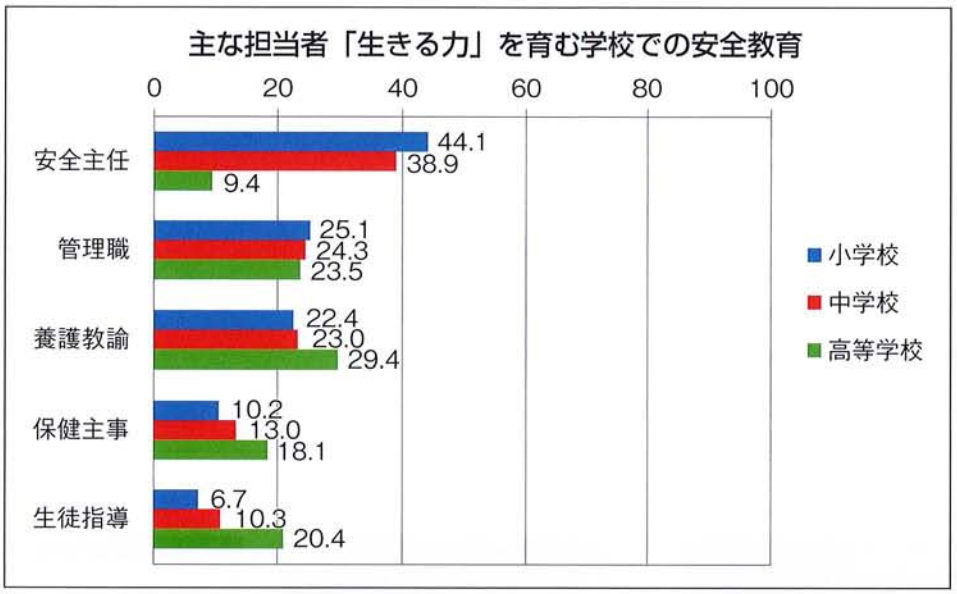
Ⅲ 安全管理に関する資料

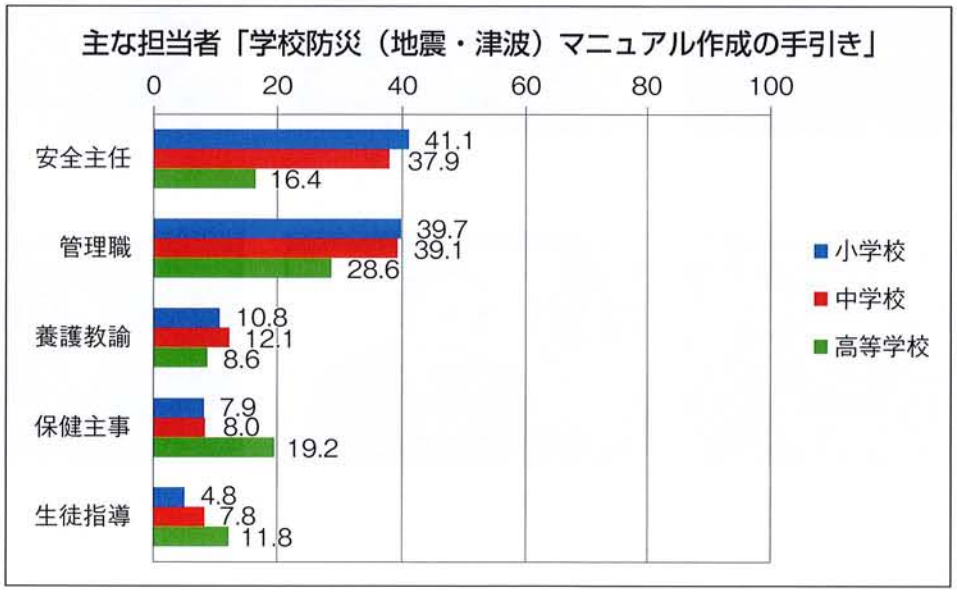
安全管理に関する資料では，学校安全全体に関しての資料である「『生きる力』を育む学校での安全教育」，防災管理，防災教育に関する「学校防災マニュアル作成の手引き」を主に取り上げた。

1　現状と課題

課題

小中学校では，安全主任が担当することが多く，高校では，養護教諭，保健主事，生徒指導などに担当が分散していて，校種により担当者が異なっている。

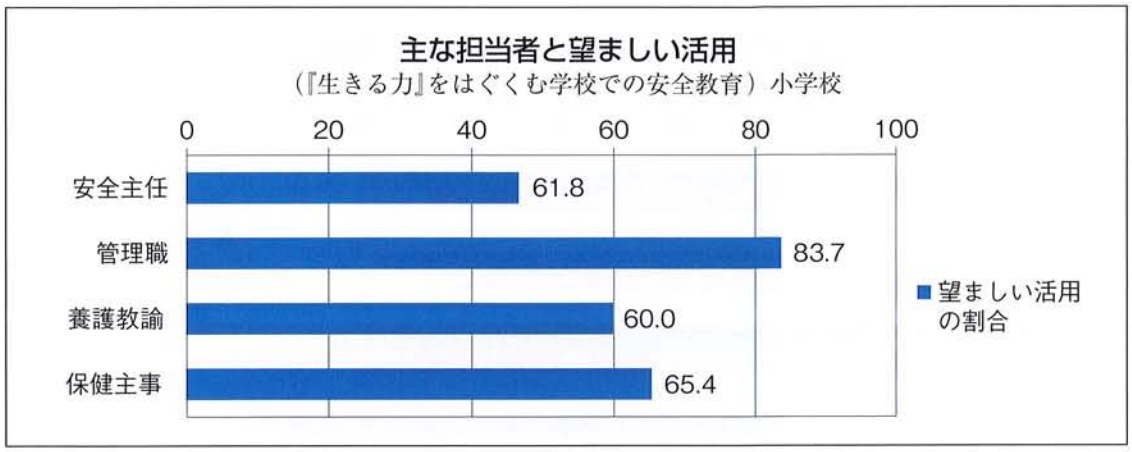




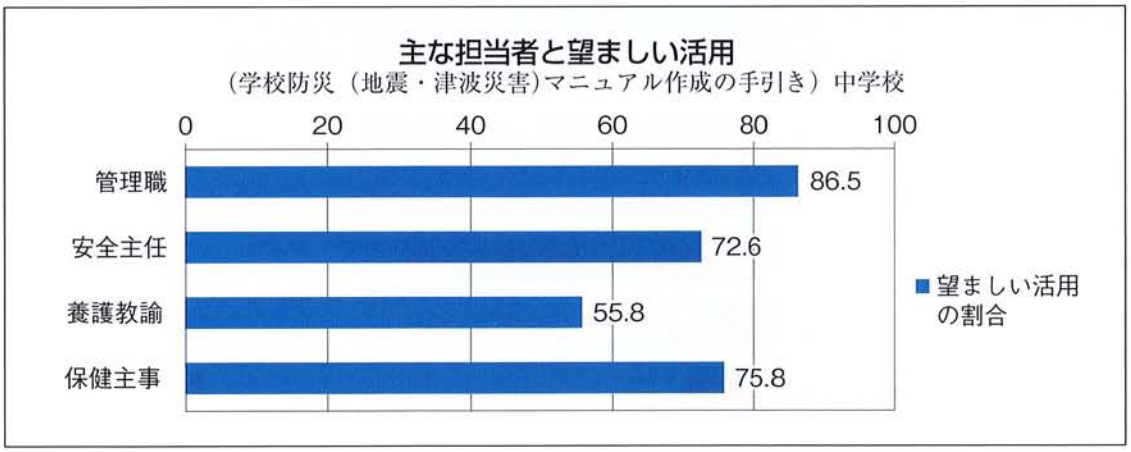
● 防災マニュアル作成については，管理職が担当する割合が高い。

課題

安全管理に関する資料では，小・中学校では安全主任，高等学校では養護教諭が主な担当となっているが，管理職が担当した場合の方が望ましい活用の割合が高くなっている。



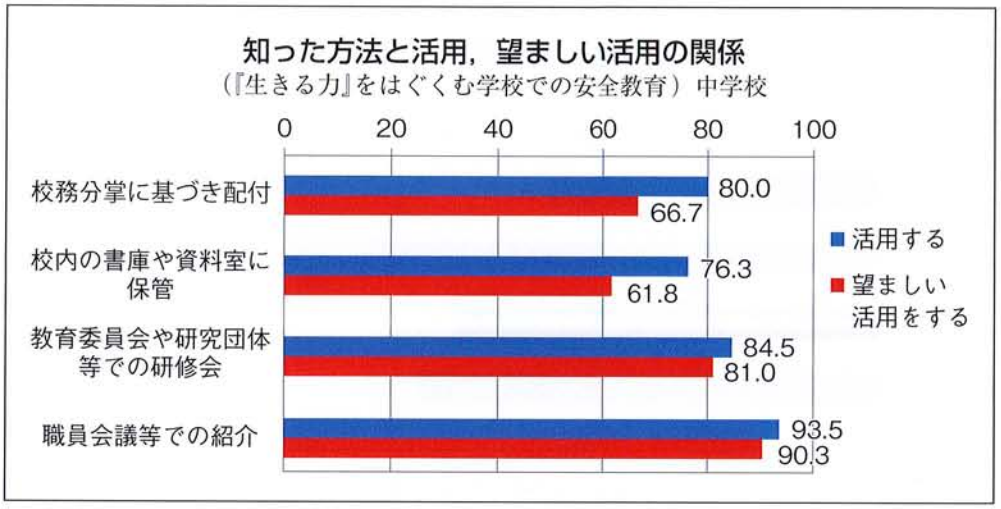
- 管理職が担当しているのは，各校種とも20％を少し超える程度であるが，管理職が担当すると望ましい活用の割合が高くなる。
- 養護教諭が担当する場合も各校種とも20％を少し越える程度であるが，望ましい活用の割合は、他より少し低くなる。



- 管理職が担当しているのは，各校種とも30～40％あるが，管理職が担当すると望ましい活用の割合が高くなる。
- 養護教諭が担当する場合は各校種とも10％程度であり，望ましい活用の割合は、他より少し低くなる。

課題

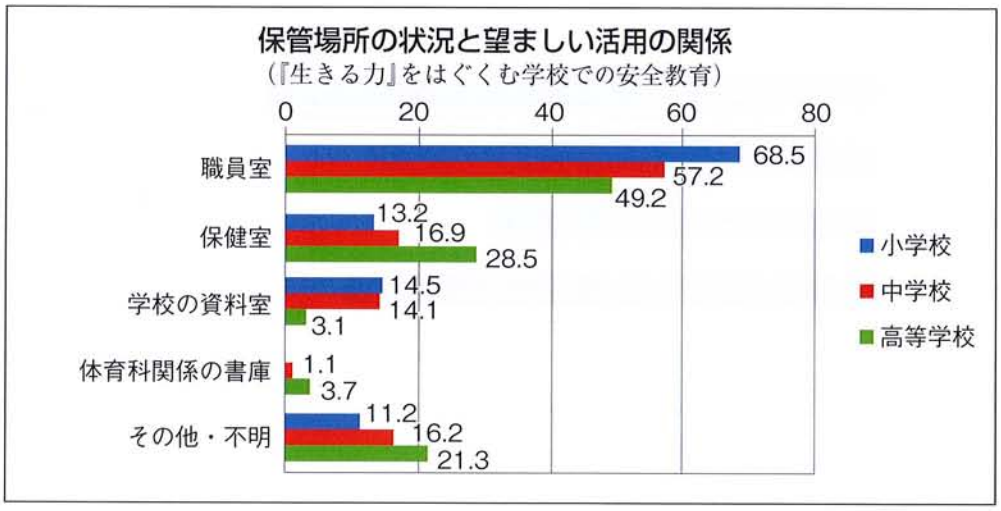
校内の校務分掌によって配付されて知ることが多い。教育委員会の研修会や職員会議で知ったときは，望ましい方法での活用の割合が高い。



- 研修会，紹介，自分で調べて等の項目は数は少ないが，活用や望ましい活用の割合が高い。

課題

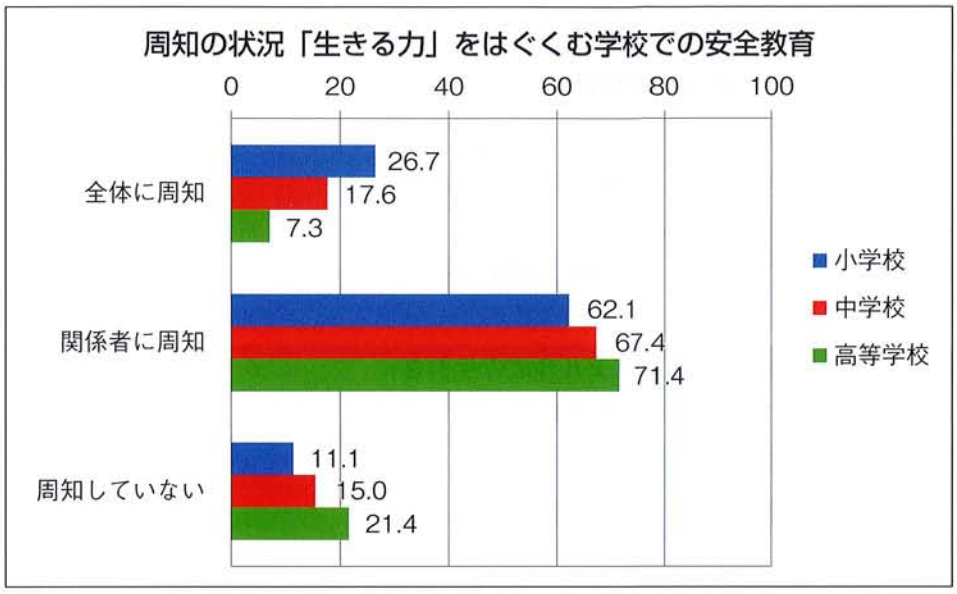
交通安全，生活安全，災害安全などの領域によって，また，校種によって担当が異なり，保管場所も異なることが多いので，職員の共通理解が必要である。

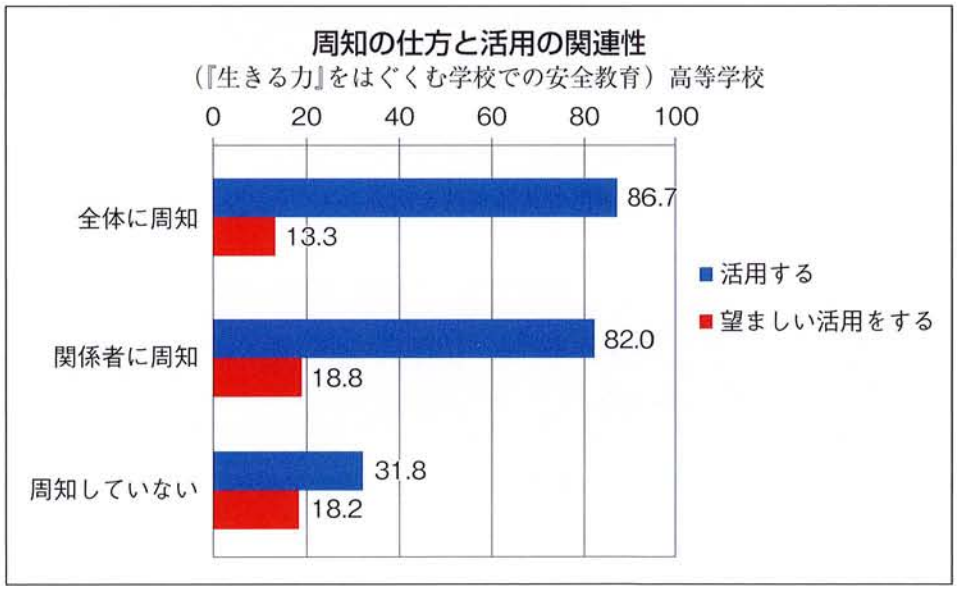


- 職員室に保管が多く，よく活用され，望ましい方法での活用も多い。
- 管理職が保管すると，活用や望ましい活用の割合が高い。
- 高校では，体育科が保管する場合が見られる。数は少ないがよく活用される。
- 養護教諭が保管する場合，望ましい活用はやや低い。
- ＤＶＤ資料は，生徒指導と職員室に保管されることが多く，活用しているは60％程度であるが，望ましい活用は10％程度と大変低い。

課題

全体に周知されることは少なく，関係者に周知されていることがほとんどである。





- 「関係者には周知されている」が多い。しかし，望ましい活用の割合は低い。
- 「全体に周知されている」学校は少ないが，「全体に周知されている」学校では，活用の割合や望ましい活用の割合が高い。逆に，「周知されていない」場合は，活用や望ましい活用の割合が低い。

2　改善に向けた方策等

望ましい活用状況とは

安全管理における資料の「望ましい活用状況」は以下のようなことが考えられる。

『「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育』

- 学校安全計画作成時に活用する
- 活用にかかわる協議や安全点検等で活用する
- 児童生徒への安全教育に活用する
- 危機管理マニュアル作成・改訂時に活用する

『学校防災（地震・津波災害）マニュアル作成の手引き』

- 学校防災マニュアル作成時に活用する
- 避難（防災）訓練，安全点検等で活用する
- 学校だより等の資料作成に活用する

方策

安全主任が担当となった場合より，管理職が担当した場合の方が望ましい活用がされているが，管理職でなくとも担当者として教職員に共通理解が図られるようリーダーシップをとる必要がある。

● 例えば，保健主事，養護教諭，安全主任，生徒指導等の分掌の範囲や担当者が扱う内容などを関係者で協議し，役割や責任の明確化や共通理解を図る。

方策

資料を学校安全計画や研修計画等に示して，活動時に資料に生かすことが大切である。教職員に学校安全についての研修を進める。

● 学校安全計画や研修計画において，資料を活用できる機会を具体的に示して，資料を適時に使用して取り組むことが必要である。

【学校安全　研修時の参考資料として提示した例】

平成 25 年度「○○県防災教室指導者講習会Ⅱ」開催要項

1　趣　旨

本県においては、本年度新たに各学校に防災教育コーディネーターの位置づけと、学校防災委員会を設置をしたところである。また４月には管理職を対象に「トップセミナー」を開催し、○○△▼参事より「東日本大震災の経験・教訓を生かした防災教育の改善と復興教育の推進」について、６月には「○○県防災教室指導者講習会Ⅰ」を開催し、○○大学△教授より「生きる力を育む防災教育の充実」について講演いただき、８月には、各市町小中学校代表の先生方を対象に「学校防災教育

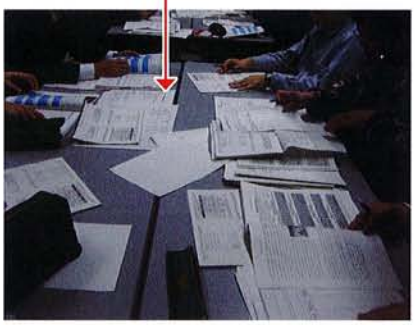
防災教室指導者講習会にて校種別演習のグループワークを実施。その際の参考資料として持参を案内。
持参できない場合の案内として，必要なページをダウンロードできるように提示した。

7　持参物

・学校防災のための参考資料「生きる力」を育む防災教育の展開
（平成 25 年３月文部科学省）
（※文部科学省のＨＰからダウンロードできます。）

・筆記用具

【演習：冊子を参考とした年間計画の見直し】



参加者の感想
　今回の研修は学校であまり参考にしていなかった冊子を改めて手元において演習を行ったことで，今後校内でも活用したいと思った。

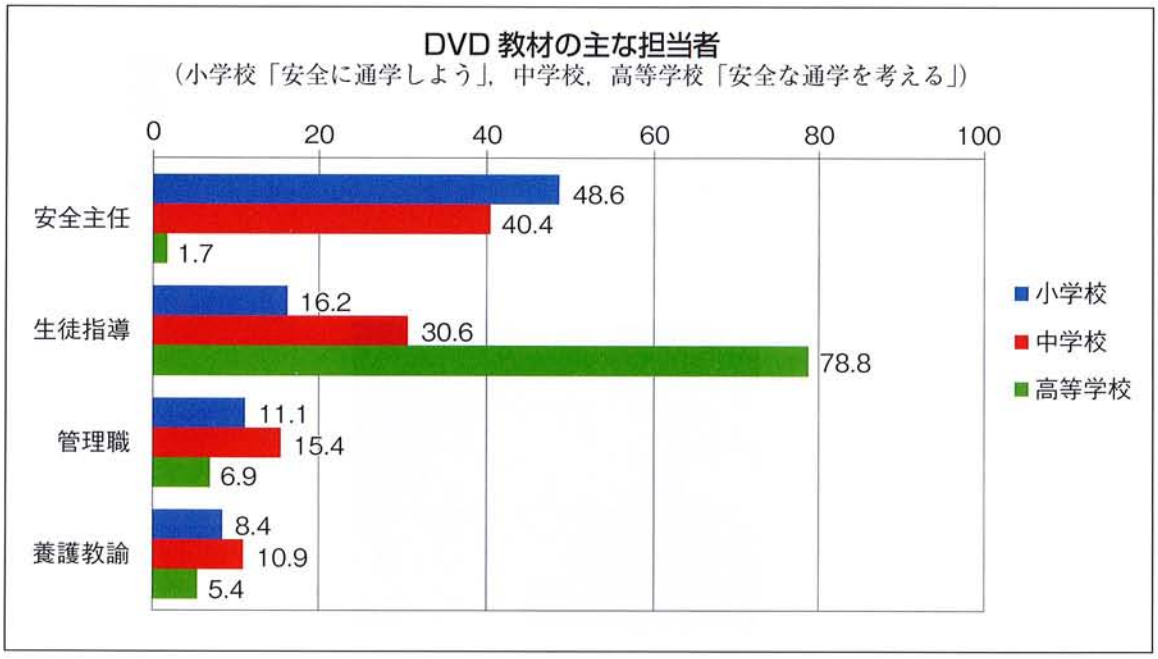
Ⅳ 安全教育に関する資料

安全教育に関する資料として，児童用DVD「安全に通学しよう～自分で身を守る，みんなで守る～」，中高生徒用DVD「安全な通学を考える～加害者にもならない」を取り上げた。

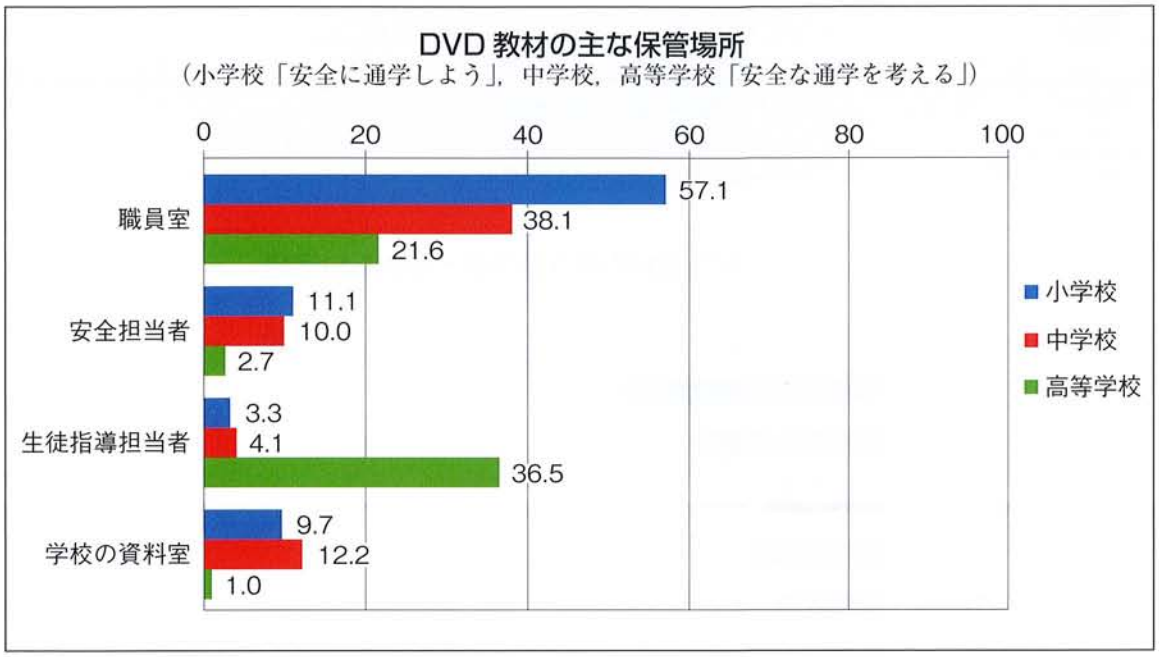
1　現状と課題

課題

主な担当者や保管場所は，校種間によって異なるだけでなく，同じ学校種であっても様々である。



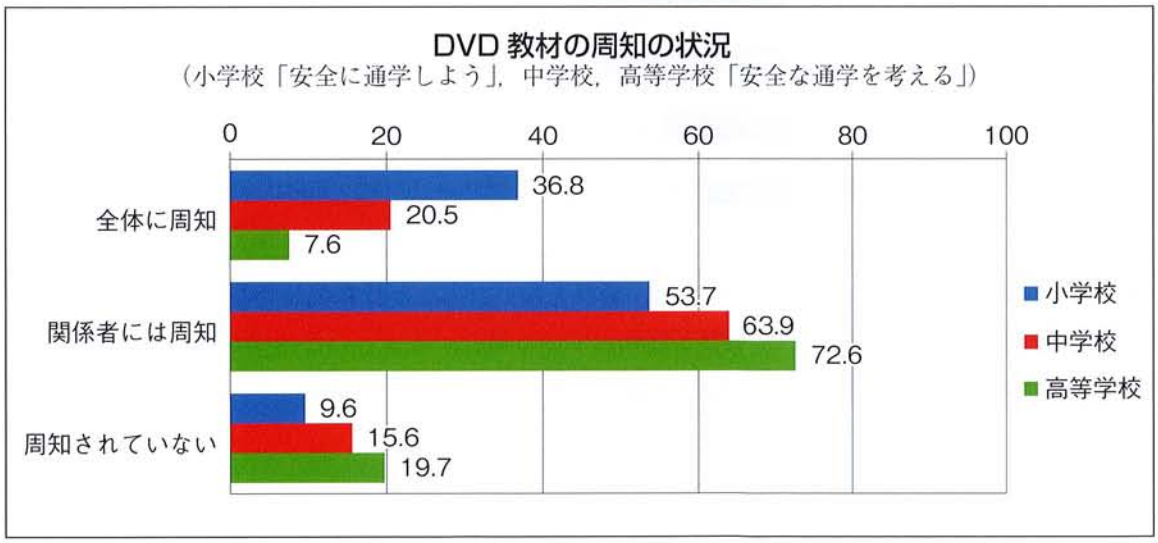
● 担当者は，小学校では安全主任が49%を，生徒指導が16%を占め，中学校では安全主任が40%，次いで生徒指導が31%を占め，高校では生徒指導が79%を占めた。担当者は，小学校，中学校においては，多岐にわたっていた。



● 保管場所についても様々であり，小学校，中学校では職員室が最多であったが，安全担当者や学校の資料室なども各10％程度見られた。高校では生徒指導が最多であったが，職員室も20％程度見られた。また，中学校，高校では，保管場所不明が30％程度認められた。

課題

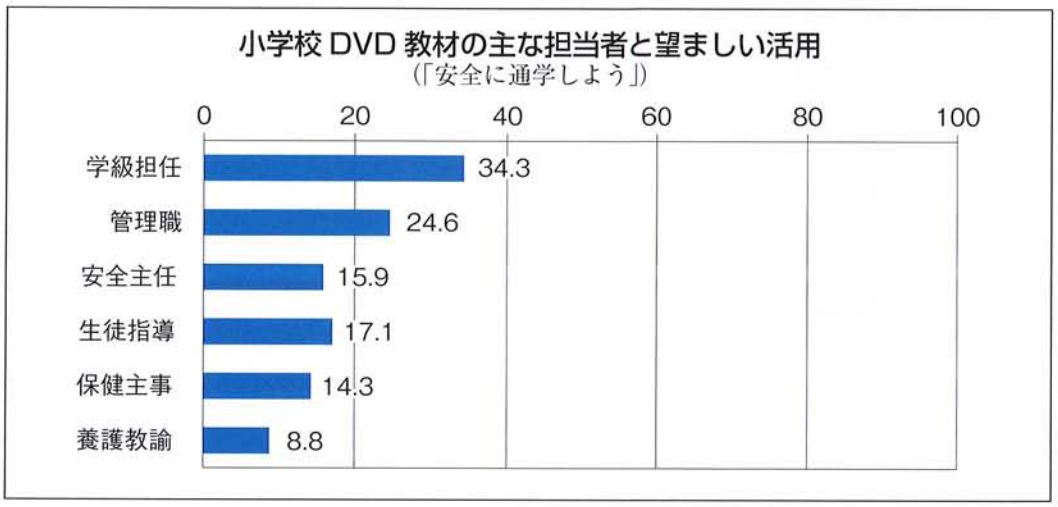
職員への周知の状況は，関係者への周知が最も多く，全体への周知は少なかった。



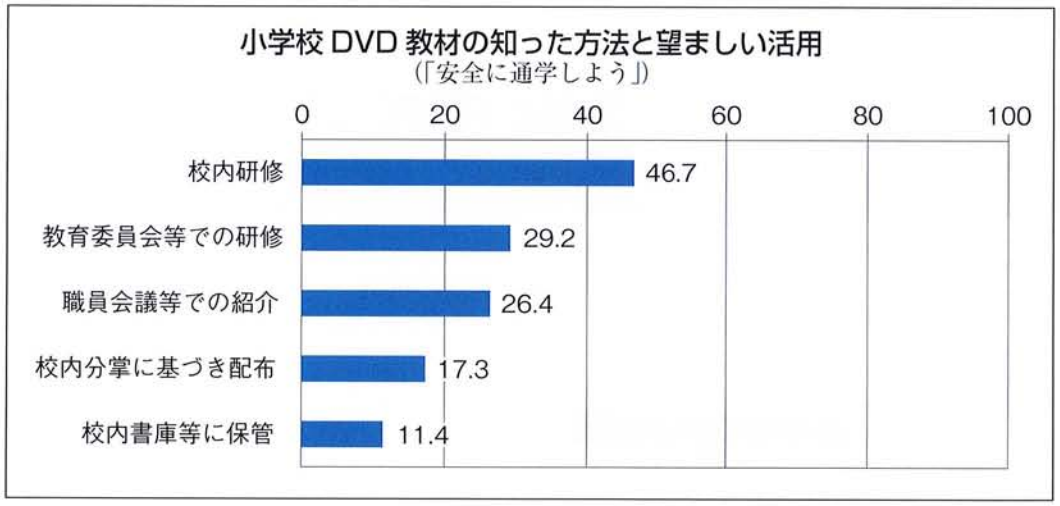
● 職員への周知については，いずれの校種も，関係職員への周知の割合が半数以上を占め，小中高の順に高くなり，高校では73％であった。一方，全体への周知は，小学校では37％であったが，中高と低下し，高校では8％であった。

課題

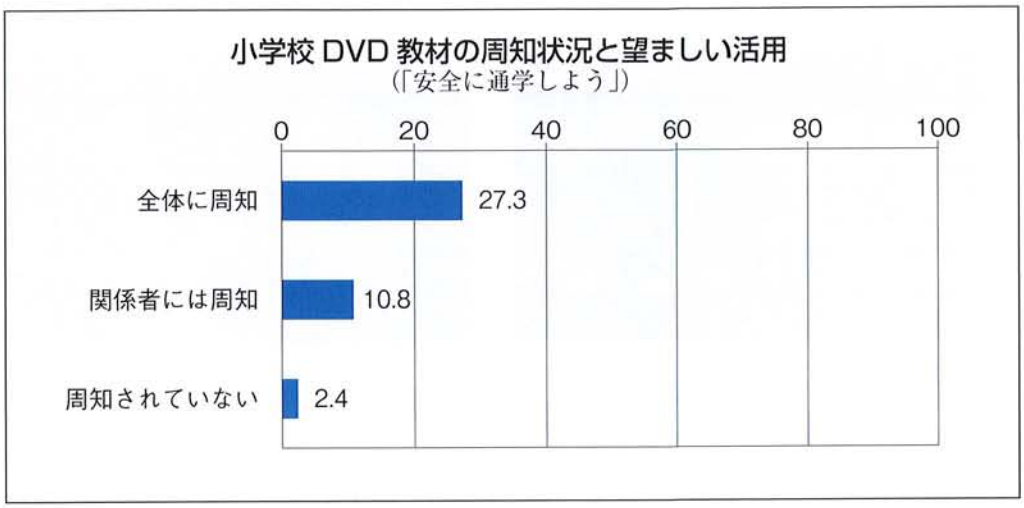
担当者，資料を知った方法，周知状況は望ましい活用と強く関連しており，担当者として学級担任，管理職，知った方法では校内の研修，教育委員会等での研修，全体に周知されている等のことが，望ましい活用をする傾向にあった。



● 担当者については，学級担任の場合，活用率が高くなった。



● 望ましい活用に関わる要因については，資料を知った方法が教育委員会等の研修である場合，職員室に保管している場合，全職員が周知している場合，望ましい活用率が高くなった。ただし，いずれの場合でも望ましい活用率は半数に至らなかった。



● 全体に周知されている場合，望ましい活用率が高くなった。

2　改善に向けた方策等

望ましい活用状況とは

安全教育における資料（ＤＶＤ）の「望ましい活用状況」は以下のようなことが考えられる。
『安全に通学しよう～自分で身を守る，みんなで守る～』，『安全な通学を考える～加害者にもならない～』

・　保健学習や安全指導等の時間に児童生徒に視聴させる。

方策
資料の存在や内容，活用法などが知られるように，国や自治体の研修会，校内研修などにおいて，具体的に紹介する。その際，必要に応じて，研修会に各校から資料を持参することを要請する。

● 研修会の講師や教育委員会担当者等は，資料の全体の内容を説明したり，具体的内容を見せたり視聴させたりする。可能性の高い保管場所，所在不明の場合の資料や関連情報の入手方法を紹介する。

DVD の表紙及び内容（左側）

危険予測の内容構成

危険予測の場面例

● 資料の紹介や活用を取り入れた研修例：

・県教育委員会主催の学校安全研修会では，講師及び教育委員会から，スライドや配布資料により，安全教育，安全管理に関する冊子，DVD等の内容が紹介されている。

・(独) 教員研修センター健康教育指導者養成研修学校安全コースでは，参加者に，安全教育，安全管理に関する資料の持参を求めたり，DVD等を活用したグループ演習が行われたりしている。

方策

各資料について，各校での担当者，保管場所を明確にし，それを全職員に周知する。

● 資料の一覧表（資料名，担当者名，保管場所等）を作成し，全教職員への周知や活用に利用する。

● 安全教育の資料は，担当者と使用者が必ずしも同一ではないこと，安全主任や生徒指導の担当は短期間で交替されることが多く，引き継ぎに伴い，担当者や保管場所の周知がおろそかになりやすいことなどに留意する。

● DVDについては，中高では，認知率が低く，保管場所の不明の率が高く，扱いに特に注意が必要である。

方策

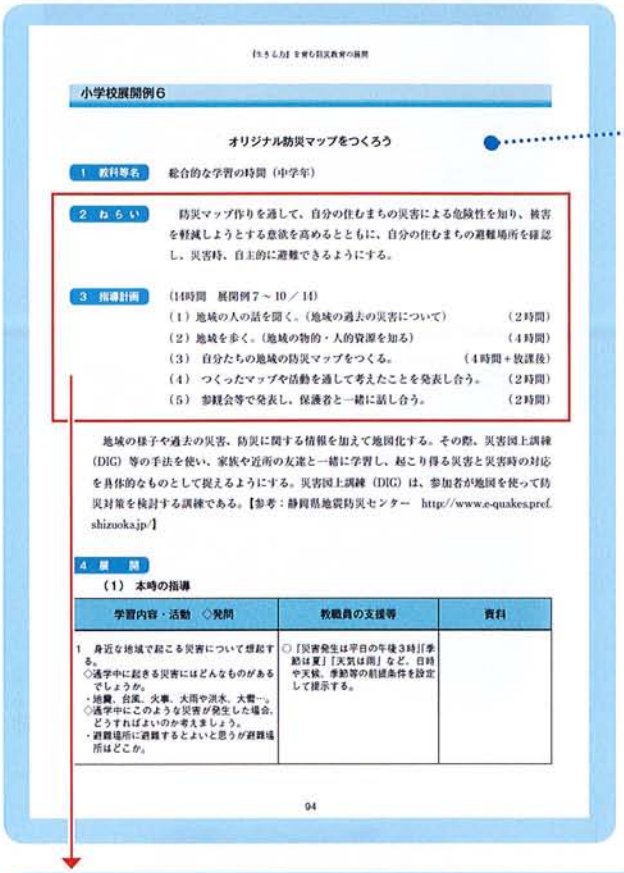
活用の機会を示すため，学校安全計画の指導の事項において，活用できる資料を具体的に示す。また，授業においては，有効性を高めるため，資料の特性（DVDでは部分的活用も可能など）を活かす。

● 学校安全計画における資料の例示をP18に示す。DVDは複数のチャプターから構成されており，適宜選択することで，短時間の指導に活用しやすい。

● 動画は，防犯における危険な誘いの場面やそれらへの対処，交通安全・防犯・防災における危険予測，防災における対応など，より現実的，実践的な指導に有用である。保健学習，特別活動，ホームルームなどの様々な機会に活用できる。

○「「生きる力」を育む防災教育の展開」の活用例

安全に関する啓発資料の活用



「生きる力」を育む防災教育の展開

小学校展開例６

オリジナル防災マップをつくろう

１　教科等名　総合的な学習の時間（中学年）

２　ねらい　防災マップ作りを通して、自分の住むまちの災害による危険性を知り、被害を軽減しようとする意欲を高めるとともに、自分の住むまちの避難場所を確認し、災害時、自主的に避難できるようにする。

３　指導計画　（14時間　展開例７～10／14）
（１）地域の人の話を聞く。（地域の過去の災害について）　（２時間）
（２）地域を歩く。（地域の物的・人的資源を知る）　（４時間）
（３）自分たちの地域の防災マップをつくる。　（４時間＋放課後）
（４）つくったマップや活動を通して考えたことを発表し合う。　（２時間）
（５）参観会等で発表し、保護者と一緒に話し合う。　（２時間）

地域の様子や過去の災害、防災に関する情報を加えて地図化する。その際、災害図上訓練（DIG）等の手法を使い、家族や近所の友達と一緒に学習し、起こり得る災害と災害時の対応を具体的なものとして捉えるようにする。災害図上訓練（DIG）は、参加者が地図を使って防災対策を検討する訓練である。【参考：静岡県地震防災センター　http://www.e-quakes.pref.shizuoka.jp/】

４　展　開
（１）本時の指導

学習内容・活動　◇発問	教職員の支援等	資料
１　身近な地域で起こる災害について想起する。 ◇通学中に起きる災害にはどんなものがあるでしょうか。 ・地震、台風、火事、大雨や洪水、大雪…。 ◇通学中にこのような災害が発生した場合、どうすればよいのか考えましょう。 ・避難場所に避難するとよいと思うが避難場所はどこか。	○「災害発生は平日の午後３時」「季節は夏」「天気は雨」など、日時や天候、季節等の前提条件を設定して提示する。	

94

９４頁
「オリジナル
防災マップをつくろう」

２　ねらい

防災マップ作りを通して、自分の住むまちの災害による危険性を知り、被害を軽減しようとする意欲を高めるとともに、自分の住むまちの避難場所を確認し、災害時、自主的に避難できるようにする。

３　指導計画

（14時間　展開例７～10／14）
（１）地域の人の話を聞く。（地域の過去の災害について）　（２時間）
（２）地域を歩く。（地域の物的・人的資源を知る）　（４時間）
（３）自分たちの地域の防災マップをつくる。　（４時間＋放課後）
（４）つくったマップや活動を通して考えたことを発表し合う。　（２時間）
（５）参観会等で発表し、保護者と一緒に話し合う。　（２時間）

① フィールド説明

② おまりさんにインタビュー

③ 消防団見学

④ 活動の様子

⑤ 完成！

⑥ 発表の様子

第4章 学校保健・安全に関する広報啓発資料の配布・保管・活用に関する調査報告書

Ⅰ 調査方法等

1 調査目的

現在，多様化する健康・安全課題に対応するため，文部科学省，（公財）日本学校保健会等から，学校保健・安全に関する様々な広報啓発資料（以下「資料」という。）が開発・配布されている。それらの資料は関係者により綿密な検討を経て作成されており，有用性，実用性も高い。しかしながら，多種・多様な膨大な資料が届けられる学校現場においては，資料の普及や活用が十分とは言えず，大いに改善の余地があると判断される。一方，活用された場合には，高い評価を得ている。このような状況を踏まえ，資料の普及，活用の一層の促進を図る観点から，資料の活用状況，活用に関わる要因を把握し，効果的な啓発活動について提言をまとめるために，調査を行う。

2 調査事項

○ 学校保健・安全に関する広報啓発資料の配布や保管の方法
○ 学校保健・安全に関する広報啓発資料の活用状況等

3 調査実施方法

（1） 調査対象校の抽出

調査対象校は，全国の公立小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校とした。

小学校，中学校及び高等学校は，以下の２段階で選定した。まず，「2013年度版全国学校総覧」に基づき，それぞれの学校種で児童生徒数が最も少なかった鳥取県での調査対象校数を３とし，その他の都道府県での調査対象校数は，鳥取県の生徒数との比にしたがって，小数点以下を四捨五入して決定した。次に，各都道府県の全ての公立学校から，上記の手続きで決定された数をそれぞれの学校種において無作為に抽出した。

特別支援学校については，全国の公立特別支援学校から抽出率50％として無作為に抽出した。なお，抽出数が最も少ない都道府県であっても３校以上抽出することした。

（2） 調査対象資料の選定

調査対象とした資料については，主に文部科学省または（公財）日本学校保健会から各学校種における全ての学校に配布されたものを選定した。

また，資料の活用状況等の調査では，いずれの学校種においても学校保健管理，学校安全管理，学校保健教育，学校安全教育に関連した資料を選定した。

（3） 調査票配布，調査実施及び調査票の回収

平成25年12月初旬に調査対象校に調査票を送付し，平成26年１月中旬までに回答の返送を依頼した。下表に学校種別の調査票の配布数，回収数及び回収率を示す。

表　調査票の配布数，回収数及び回収率

	配布数	回収数	回収率(%)
小学校	641	537	83.8
中学校	625	532	85.1
高等学校	554	492	88.8
特別支援学校	526	459	87.3
全体	2,346	2,020	86.1

なお，１つだけ回答する質問において複数回答を行っている場合は，その質問に対する回答を無効回答した。

（4） 結果の表記

- 回答率（%，百分率）は，小数点以下第２位を四捨五入し，少数点以下第１位までを表記した。したがって，表記された回答率を合算する場合，実数から算出された数値と一致しない場合がある。具体的には，１つだけ回答する質問において，各回答の合計が100.0%とならない場合がある。
- 表中の「－」及び図中に数値表記がない場合は，回答者がいないことを示す。一方，「0.0（%）」は，１人以上の回答がある場合を示す。
- 図表中の表記は，一部省略されている場合がある。

Ⅱ 学校保健・安全に関する広報啓発資料の配布や保管の方法

1　資料の校内の流れ

- 資料は，いずれの学校種においても事務担当者（経営企画室）から管理職を経て担当者に渡される学校の割合が高く，小学校で95.7%，中学校で94.7%，高等学校で94.3%，特別支援学校で89.6%であった。
- 管理職を経ず，事務担当者（経営企画室）から担当分掌を経て担当者に渡される学校の割合は小学校，中学校，特別支援学校では2.0%未満であり，高等学校では他の学校種に比べると高かったが3.7%であった。また，その他の割合につていも小学校，中学校及び高等学校では4.0%未満であり，最も高かった特別支援学校では8.6%であった。

2　資料の配布に関する教育委員会等からの事前連絡

- 教育委員会などから文書やメール等で事前に連絡があると回答した学校割合は，小学校で70.3%，中学校で68.6%，高等学校で70.0%，特別支援学校で69.5%であった。
- 教育委員会主催の研修会や会議で事前に連絡があると回答した学校割合は，小学校で3.6%，中学校で4.2%，高等学校で5.6%，特別支援学校で4.0%であった。
- 事前に連絡がないと回答した学校割合は，小学校で21.1%，中学校で23.6%，高等学校で18.8%，特別支援学校で18.5%であった。
- 文書やメール等及び研修会や会議以外のその他を含めると事前連絡がある学校の割合は，いずれの学校種においても75%を超えていた。

3　資料の管理方法

- 管理方法について把握していないと回答した学校の割合は，いずれの学校種においても低く，0.5%未満であった。以下に，具体的な管理方法について示す。
- 学校指定の保管場所にファイリングされると回答した学校割合は，小学校で64.5%，中学校で59.0%，高等学校で26.8%，特別支援学校で36.2%であった。
- 活用する担当者の保管場所に保管されると回答した学校割合は，小学校で71.5%，中学校で71.8%，高等学校で89.5%，特別支援学校で86.0%であった。
- 担当者が個人的に保管すると回答した学校割合は，小学校で6.8%，中学校で13.8%，高等学校で12.1%，特別支援学校で8.6%であった。

4　資料の職員への周知方法

- 職員会議（打合せ）などで報告されると回答した学校割合は，小学校で20.7%，中学校で13.8%，高等学校で14.3%，特別支援学校で16.9%であった。
- 文書で回覧していると回答した学校割合は，小学校で49.0%，中学校で51.1%，高等学校で25.5%，

特別支援学校で32.3%であった。

- 各担当者に一任していると回答した学校割合は，小学校で27.6%，中学校で31.1%，高等学校で54.4%，特別支援学校で42.7%であった。

5　資料が活用されるための管理者としての工夫

- 活用されるために特に何もしていないと回答した学校の割合は，いずれの学校種においても低く，小学校で1.1%，中学校で0.6%，高等学校で3.1%，特別支援学校で1.4%であった。以下に，具体的な工夫の内容について示す。
- 児童生徒への配布については，時期を考慮し保護者にも配布の目的を周知するようにしていると回答した学校割合は，小学校で58.8%，中学校で55.5%，高等学校で45.6%，特別支援学校で45.6%であった。
- 担当者に，必要な内容を打合せ等で周知するよう指導していると回答した学校割合は，小学校で70.4%，中学校で68.4%，高等学校で63.2%，特別支援学校で66.7%であった。
- 関連する担当者が供覧できるようにしていると回答した学校割合は，小学校で54.4%，中学校で53.6%，高等学校で55.6%，特別支援学校で59.1%であった。

6　資料の保管状況

- 平成19年度以降に文部科学省または（公財）日本学校保健会から各学校に配布された学校保健・安全に関する広報啓発資料の内，例示されたものの保管状況は，下記のとおりであった（表1）。

表1　例示された広報啓発資料が保管される学校の割合(%)

広報啓発資料	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
H19　色覚に関する指導の資料	80.2	75.6	71.7	52.7
H20　教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応	88.9	87.6	83.4	79.9
H20　学校における転落事故防止のために	52.2	49.9	35.4	33.7
H22　子どもの心のケアのために	93.0	92.1	91.4	86.4
H23　学校における結核対策マニュアル	95.5	93.2	92.0	90.4
H25　「生きる力」を育む防災教育の展開	92.2	88.8	87.6	89.3

Ⅲ 学校保健・安全に関する広報啓発資料の活用状況等

1　保健管理に関する資料

（1）「改訂版　学校環境衛生管理マニュアル」（文部科学省，平成22年３月）

①　本資料の担当者

この資料の「担当者をお応えください（この資料を活用する主な担当者）」の質問について以下の結果を得た。

- 学校における本資料の担当者は，養護教諭であり，養護教諭が担当者である学校の割合は，小学校で88.2%，中学校で84.5%，高等学校で81.6%，特別支援学校で79.6%であった。
- 養護教諭に次いで本資料の担当者である割合が高かったのは，保健主事であり，小学校で12.6%，中学校で17.3%，高等学校で14.0%，特別支援学校で15.4%であった。管理職は，３番目であり，小学校で11.0%，中学校で11.1%，高等学校で6.3%，特別支援学校で6.6%であった。
- 学級担任，体育科，安全主任，生徒指導等が担当者である学校の割合は，全ての学校種において５%未満であった。

②　担当者が本資料を知った方法

「この資料のことを何によって知りましたか」の質問について以下の結果を得た。

- 本資料の存在をこの調査で初めて知ったと回答した学校の割合は，小学校で7.0%，中学校で7.4%，高等学校で11.1%，特別支援学校で11.9%であった。
- 担当者が本資料を知った方法としては，校内分掌に基づいて配布されたことからと回答した割合が最も高く，小学校で73.2%，中学校で71.5%，高等学校で73.8%，特別支援学校で79.6%であった。
- 次いで割合が高かったのは，校内の書庫や資料室に保管されていたであり，小学校で26.8%，中学校で22.8%，高等学校で11.7%，特別支援学校で14.1%であった。教育委員会や研究団体等での研修会で知ったのは，３番目であり，小学校で10.6%，中学校で15.2%，高等学校で15.6%，特別支援学校で11.7%であった。
- 職員会議等での紹介，校内の学年・教科・全体等の研修，校内外の同僚からの紹介，書籍や雑誌，インターネット（検索，関連データベース等），SNS（ツイッター，フェイスブック，LINE等）と回答した割合は，全ての学校種において５%未満であった。

③　本資料の保管場所

「この資料は，現在，どこに保管されていますか」の質問について以下の結果を得た。

- 本資料の保管場所が不明と回答した学校の割合は，小学校で6.8%，中学校で8.6%，高等学校で14.3%，特別支援学校で15.3%であった。
- 保管場所は保健室と回答した割合が最も高く，小学校で66.0%，中学校で64.5%，高等学校で

72.9%，特別支援学校で70.7%であった。

- 次いで割合が高かったのは，職員室であり，小学校で22.0%，中学校で20.8%，高等学校で7.6%，特別支援学校で8.4%であった。
- 学校の資料室，体育科関係の書庫と回答した割合は，全ての学校種において５%未満であった。

④ 本資料の職員への周知状況

「この資料は，職員全体に周知されていますか」の質問について以下の結果を得た。

- 職員全体に本資料は周知されていないと回答した学校の割合は，小学校で16.1%，中学校で21.1%，高等学校で19.8%，特別支援学校で21.2%であった。
- 関係職員には周知されていると回答した割合が最も高く，小学校で70.2%，中学校で69.9%，高等学校で77.8%，特別支援学校で76.1%であった。
- 職員全体に周知されていると回答した割合は，小学校で13.7%，中学校で9.1%，高等学校で2.4%，特別支援学校で2.7%であった。

⑤ 本資料の活用状況

「この資料は，活用されていますか」の質問について以下の結果を得た。

- 本資料は活用されていないと回答した学校の割合は，小学校で8.0%，中学校で8.6%，高等学校で7.5%，特別支援学校で5.9%であった。また，本資料の活用状況がわからないと回答した割合は，小学校で3.7%，中学校で5.2%，高等学校で3.4%，特別支援学校で1.6%であった。
- 本資料は活用されていると回答した割合は，小学校で88.4%，中学校で86.2%，高等学校で89.1%，特別支援学校で92.5%であった。

活用している場合，「どのような方法で活用されていましたか」の質問について以下の結果を得た。

- 本資料が活用されている学校では，学校環境衛生の定期検査，日常点検で活用したと回答した割合が中学校を除いて最も高く，小学校で82.0%，中学校で79.8%，高等学校で84.5%，特別支援学校で84.4%であった。
- 担当者が内容を確認したと回答した割合も同様に高く，中学校では最も高かった。また，その割合は，小学校で77.8%，中学校で80.0%，高等学校で81.3%，特別支援学校で81.5%であった。
- 保健だより等の資料づくりに活用したと回答した割合は，小学校で10.9%，中学校で15.8%，高等学校で19.6%，特別支援学校で14.7%であった。なお，児童の健康・安全学習の教材づくり等で活用した，活用に関わる協議で活用したと回答した学校の割合は，いずれの学校種においても10%未満であった。

⑥ 本資料の活用にかかる要因

本資料の活用にかかる要因を検討するために，主な担当者，本資料を知った方法，保管場所，職員への周知状況と活用状況との関連性について検討した。また，活用状況については，回答者が「活用した」との関連性だけでなく，望ましい活用として「学校環境衛生の定期検査，日常点検で活用した」との関連性についても検討した。

○　主な担当者との関連性

本資料の主な担当者を養護教諭としている学校の割合が最も高く，次いで保健主事，管理職であった。養護教諭が本資料を活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，小学校で89.5%（75.5%），中学校で87.1%（72.0%），高等学校で92.1%（81.0%），特別支援学校で94.4%（84.1%）であった。これらの割合は，いずれの学校種においても保健主事や管理職より高かった。

○　本資料を知った方法との関連性

本資料を知った方法として最も割合が高かったのは，校内分掌に基づく配布であり，次いで校内の書庫や資料室に保管されていた，教育委員会や研究団体等での研修会であった。校内分掌に基づく配布に基づき配布によって本資料を知った学校において活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，小学校で92.4%（79.0%），中学校で91.6%（73.8%），高等学校で93.7%（80.9%），特別支援学校で94.1%（81.3%）であった。これらの割合は，いずれの学校種においても校内の書庫や資料室に保管されていた場合より高かったが，教育委員会や研究団体等での研修会で知る（小学校で96.4%（94.6%），中学校で96.1%（87.0%），高等学校で95.5%（86.6%），特別支援学校で100.0%（92.9%）より低かった。

○　保管場所との関連性

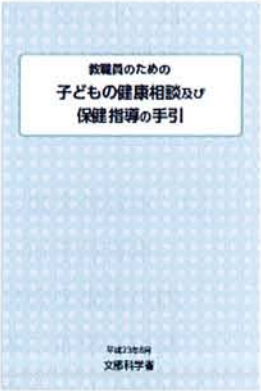
本資料の保管場所を保健室としている学校の割合が最も高く，次いで職員室，学校の資料室であった。保健室で保管している学校において活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，小学校で90.8%（77.6%），中学校で91.7%（76.6%），高等学校で91.8%（80.1%），特別支援学校で95.0%（83.3%）であった。これらの割合は，いずれの学校種においても職員室や学校の資料室より高かった。

○　職員への周知状況との関連性

本資料を関係職員に周知している学校の割合が最も高く，次いで周知していない学校が続き，全職員に周知している学校の割合が最も低かった。関係職員に周知している学校において活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，小学校で91.8%（75.2%），中学校で91.2%（74.9%），高等学校で91.3%（77.3%），特別支援学校で96.8%（83.2%）であった。これらの割合は，いずれの学校種においても周知していない場合より高かったが，全職員に周知している（小学校で97.0%（80.6%），中学校で93.0%（69.8%），高等学校で100.0%（90.0%），特別支援学校で90.0%（70.0%）場合より概ね低かった。

（2） 「教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引き」（文部科学省，平成23年8月）

① 本資料の担当者



この資料の「担当者をお応えください（この資料を活用する主な担当者）」の質問について以下の結果を得た。

- 学校において本資料を最も活用している担当者は，養護教諭であり，養護教諭が主に活用してい学校の割合は，小学校で95.8%，中学校で93.5%，高等学校で90.3%，特別支援学校で89.6%であった。
- 養護教諭に次いで本資料を活用している割合が高かったのは，保健主事であり，小学校で9.0%，中学校で13.8%，高等学校で11.7%，特別支援学校で14.0%であった。
- 管理職，体育科，生徒指導，学級担任，安全主任等が本資料を主に活用している学校の割合は，全ての学校種において５%未満であった。

② 担当者が本資料を知った方法

「この資料のことを何によって知りましたか」の質問について以下の結果を得た。

- 本資料の存在をこの調査で初めて知ったと回答した学校の割合は，小学校で5.0%，中学校で5.5%，高等学校で6.5%，特別支援学校で8.4%であった。
- 担当者が本資料を知った方法としては，校内分掌に基づいて配布されたことからと回答した割合が最も高く，小学校で82.6%，中学校で79.2%，高等学校で84.3%，特別支援学校で74.7%であった。
- 次いで割合が高かったのは，校内の書庫や資料室に保管されていたであり，小学校で19.2%，中学校で18.1%，高等学校で10.2%，特別支援学校で13.7%であった。教育委員会や研究団体等での研修会で知ったのは，３番目であり，小学校で12.7%，中学校で11.7%，高等学校で13.3%，特別支援学校で11.9%であった。
- 職員会議等での紹介，校内の学年・教科・全体等の研修，校内外の同僚からの紹介，書籍や雑誌，インターネット（検索，関連データベース等），SNS（ツイッター，フェイスブック，LINE等）と回答した割合は，全ての学校種において５%未満であった。

③ 本資料の保管場所

「この資料は，現在，どこに保管されていますか」の質問について以下の結果を得た。

- 本資料の保管場所が不明と回答した学校の割合は，小学校で3.4%，中学校で4.4%，高等学校で5.4%，特別支援学校で8.0%であった。
- 保管場所は保健室と回答した割合が最も高く，小学校で79.0%，中学校で78.2%，高等学校で86.5%，特別支援学校で81.4%であった。
- 次いで割合が高かったのは，職員室であり，小学校で14.8%，中学校で13.2%，高等学校で5.2%，特別支援学校で7.1%であった。
- 学校の資料室，体育科関係の書庫と回答した割合は，全ての学校種において５%未満であった。

④　本資料の職員への周知状況

「この資料は，職員全体に周知されていますか」の質問について以下の結果を得た。

- 職員全体に本資料は周知されていないと回答した学校の割合は，小学校で20.0%，中学校で28.6%，高等学校で25.6%，特別支援学校で31.6%であった。
- 関係職員には周知されていると回答した割合が最も高く，小学校で67.0%，中学校で62.3%，高等学校で71.1%，特別支援学校で64.3%であった。
- 職員全体に周知されていると回答した割合は，小学校で13.0%，中学校で9.1%，高等学校で3.3%，特別支援学校で4.1%であった。

⑤　本資料の活用状況

「この資料は，活用されていますか」の質問について以下の結果を得た。

- 本資料は活用されていないと回答した学校の割合は，小学校で9.9%，中学校で11.3%，高等学校で13.1%，特別支援学校で18.0%であった。また，本資料の活用状況がわからないと回答した割合は，小学校で3.0%，中学校で2.8%，高等学校で3.8%，特別支援学校で5.3%であった。
- 本資料は活用されていると回答した割合は，小学校で87.1%，中学校で85.9%，高等学校で83.2%，特別支援学校で76.7%であった。

活用している場合，「どのような方法で活用されていましたか」の質問について以下の結果を得た。

- 本資料が活用されている学校では，担当者が内容を確認したと回答した割合が最も高く，小学校で85.2%，中学校で83.3%，高等学校で83.8%，特別支援学校で85.4%であった。
- 次いで事例をもとに児童生徒の健康相談の資料としたと回答した割合が高く，小学校で50.5%，中学校で53.3%，高等学校で53.7%，特別支援学校で42.1%であった。
- 校内体制づくりの参考としたと回答した割合は，小学校で11.4%，中学校で16.0%，高等学校で20.5%，特別支援学校で12.0%であった。また，保健だより等の資料作成時に活用したと回答した割合は，小学校で8.9%，中学校で12.7%，高等学校で10.9%，特別支援学校で11.1%であった。
- なお，活用に関わる協議で活用したと回答した学校の割合は，いずれの学校種においても10%未満であった。

⑥　本資料の活用にかかる要因

本資料の活用にかかる要因を検討するために，主な担当者，本資料を知った方法，保管場所，職員への周知状況と活用状況との関連性について検討した。また，活用状況については，回答者が「活用した」との関連性だけでなく，「事例をもとに児童生徒の健康相談や保健指導の資料とした」または「校内体制づくりの参考とした」を「望ましい活用」とし，その関連性についても検討した。

○　主な担当者との関連性

本資料の主な担当者を養護教諭としている学校の割合が最も高く，次いで保健主事であり，その他の割合は極めて低かった。養護教諭が本資料を活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，小学校で86.5%（47.3%），中学校で85.2%（50.8%），高等学校で83.7%（51.1%），特別支援学校で77.5%（37.3%）であった。これらの割合は，いずれの学校種において

も保健主事と大きな差が認められなかった。

○　本資料を知った方法との関連性

本資料を知った方法として最も割合が高かったのは，校内分掌に基づく配布であり，高等学校を除いて次いで校内の書庫や資料室に保管されていた，教育委員会や研究団体等での研修会の順であった。校内分掌に基づく配布に基づき配布によって本資料を知った学校において活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，小学校で88.5%（48.4%），中学校で89.4%（54.9%），高等学校で86.2%（53.1%），特別支援学校80.3で%（39.7%）であった。これらの割合は，いずれの学校種においても概ね校内の書庫や資料室に保管されていた場合より高かったが，教育委員会や研究団体等での研修会で知る（小学校で100.0%（63.2%），中学校で93.4%（60.7%），高等学校で89.1%（68.8%），特別支援学校で88.0%（58.0%）より低かった。

○　保管場所との関連性

本資料の保管場所を保健室としている学校の割合が最も高く，次いで職員室であり，その他の割合は極めて低かった。保健室で保管している学校において活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，小学校で87.4%（47.1%），中学校で85.8%（50.5%），高等学校で83.1%（51.0%），特別支援学校で78.6%（37.3%）であった。これらの割合は，職員室に保管している場合と大きな差が認められなかった。

○　職員への周知状況との関連性

本資料を関係職員に周知している学校の割合が最も高く，次いで周知していない学校が続き，全職員に周知している学校の割合が最も低かった。関係職員に周知している学校において活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，小学校で92.8%（83.5%），中学校で91.3%（79.6%），高等学校で92.2%（82.3%），特別支援学校で87.7%（75.4%）であった。これらの割合は，いずれの学校種においても周知していない場合より高かったが，全職員に周知している場合より小学校では低くく，その他では大きな差が認められなかった。

（３）「学校保健の課題とその対応　～養護教諭の職務等に関する調査結果から～」（（公財）日本学校保健会，平成24年３月）

①　本資料の担当者

この資料の「担当者をお応えください（この資料を活用する主な担当者）」の質問について以下の結果を得た。

- 学校において本資料を最も活用している担当者は，養護教諭であり，養護教諭が主に活用してい学校の割合は，小学校で97.4％，中学校で95.3％，高等学校で94.4％，特別支援学校で91.3％であった。
- 養護教諭に次いで本資料を活用している割合が高かったのは，保健主事であり，小学校で8.7％，中学校で14.0％，高等学校で7.5％，特別支援学校で12.2％であった。
- 管理職，体育科，生徒指導，学級担任，安全主任等が本資料を主に活用している学校の割合は，全ての学校種において５％未満であった。

②　担当者が本資料を知った方法

「この資料のことを何によって知りましたか」の質問について以下の結果を得た。

- 本資料の存在をこの調査で初めて知ったと回答した学校の割合は，小学校で5.3％，中学校で4.7％，高等学校で8.6％，特別支援学校で18.3％であった。
- 担当者が本資料を知った方法としては，校内分掌に基づいて配布されたことからと回答した割合が最も高く，小学校で84.2％，中学校で84.5％，高等学校で81.8％，特別支援学校で69.2％であった。
- 次いで割合が高かったのは，教育委員会や研究団体等での研修会で知ったであり，小学校で11.8％，中学校で12.5％，高等学校で13.7％，特別支援学校で11.9％であった。また，校内の書庫や資料室に保管されていたと回答した割合も同程度あり，小学校で15.0％，中学校で13.4％，高等学校で8.2％，特別支援学校で8.6％であった。
- 職員会議等での紹介，校内の学年・教科・全体等の研修，校内外の同僚からの紹介，書籍や雑誌，インターネット（検索，関連データベース等），SNS（ツイッター，フェイスブック，LINE等）と回答した割合は，全ての学校種において５％未満であった。

③　本資料の保管場所

「この資料は，現在，どこに保管されていますか」の質問について以下の結果を得た。

- 本資料の保管場所が不明と回答した学校の割合は，小学校で4.1％，中学校で4.8％，高等学校で8.4％，特別支援学校で17.4％であった。
- 保管場所は保健室と回答した割合が最も高く，小学校で85.9％，中学校で84.2％，高等学校で88.8％，特別支援学校で76.2％であった。
- 次いで割合が高かったのは，職員室であり，小学校で8.9％，中学校で8.6％，高等学校で2.0％，特別支援学校で4.2％であった。
- 学校の資料室，体育科関係の書庫と回答した割合は，全ての学校種において５％未満であり，低かった。

④　本資料の職員への周知状況

「この資料は，職員全体に周知されていますか」の質問について以下の結果を得た。

- 職員全体に本資料は周知されていないと回答した学校の割合は，小学校で24.2%，中学校で30.1%，高等学校で32.4%，特別支援学校で33.5%であった。
- 関係職員には周知されていると回答した割合が最も高く，小学校で66.3%，中学校で63.2%，高等学校で65.5%，特別支援学校で64.3%であった。
- 職員全体に周知されていると回答した割合は，小学校で9.4%，中学校で6.7%，高等学校で2.0%，特別支援学校で2.2%であった。

⑤　本資料の活用状況

「この資料は，活用されていますか」の質問について以下の結果を得た。

- 本資料は活用されていないと回答した学校の割合は，小学校で9.3%，中学校で12.1%，高等学校で12.1%，特別支援学校で16.3%であった。また，本資料の活用状況がわからないと回答した割合は，小学校で1.4%，中学校で2.2%，高等学校で3.1%，特別支援学校で4.3%であった。
- 本資料は活用されていると回答した割合は，小学校で89.3%，中学校で85.6%，高等学校で84.7%，特別支援学校で79.3%であった。

活用している場合，「どのような方法で活用されていましたか」の質問について以下の結果を得た。

- 本資料が活用されている学校では，養護教諭の役割について確認したと回答した割合が最も高く，小学校で91.6%，中学校で86.3%，高等学校で90.5%，特別支援学校で88.7%であった。
- 次いで学校保健計画，保健室経営計画作成時等に活用したと回答した割合が高く，小学校で59.8%，中学校で68.8%，高等学校で62.3%，特別支援学校で54.1%であった。
- なお，活用に関わる協議で活用したと回答した学校の割合は，いずれの学校種においても10%未満であった。

⑥　本資料の活用にかかる要因

本資料の活用にかかる要因を検討するために，主な担当者，本資料を知った方法，保管場所，職員への周知状況と活用状況との関連性について検討した。また，活用状況については，回答者が「活用した」との関連性だけでなく，「養護教諭の役割について確認した」を「望ましい活用」とし，その関連性についても検討した。

○　主な担当者との関連性

本資料の主な担当者を養護教諭としている学校の割合が最も高く，次いで保健主事であり，その他の割合は極めて低かった。養護教諭が本資料を活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，小学校で89.6%（82.3%），中学校で85.6%（75.5%），高等学校で84.6%（76.9%），特別支援学校で80.6%（72.9%）であった。これらの割合は，いずれの学校種においても保健主事と大きな差が認められなかった。

○　本資料を知った方法との関連性

本資料を知った方法として最も割合が高かったのは，校内分掌に基づく配布であり，高等学校

を除いて次いで校内の書庫や資料室に保管されていた，教育委員会や研究団体等での研修会であった。校内分掌に基づく配布に基づき配布によって本資料を知った学校において活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，小学校で90.8%（83.7%），中学校で87.5%（76.6%），高等学校で88.0%（79.9%），特別支援学校82.4で%（74.6%）であった。これらの割合は，いずれの学校種においても校内の書庫や資料室に保管されていた場合より高かったが，教育委員会や研究団体等での研修会で知る（小学校で96.8%（87.1%），中学校で90.6%（78.1%），高等学校で90.8%（84.6%），特別支援学校で88.0%（77.6%）より低かった。

○　保管場所との関連性

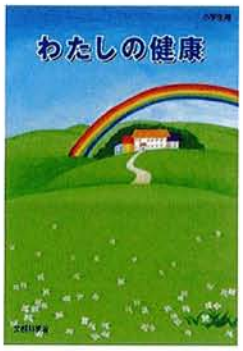
本資料の保管場所を保健室としている学校の割合が最も高く，次いで職員室であり，その他の割合は極めて低かった。保健室で保管している学校において活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，小学校で90.5%（83.2%），中学校で87.4%（76.8%），高等学校で85.2%（77.0%），特別支援学校で81.2%（73.2%）であった。これらの割合は，職員室に保管している場合と比較すると高かった。

○　職員への周知状況との関連性

本資料を関係職員に周知している学校の割合が最も高く，次いで周知していない学校が続き，全職員に周知している学校の割合が最も低かった。関係職員に周知している学校において活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，小学校で90.5%（49.7%），中学校で91.6%（55.7%），高等学校で89.4%（55.0%），特別支援学校で83.7%（41.1%）であった。これらの割合は，いずれの学校種においても周知していない場合より高かったが，全職員に周知している（小学校で96.9%（67.2%），中学校で90.9%（63.6%），高等学校で86.7%（80.0%），特別支援学校で88.2%（52.9%）場合より概ね低かった。

2　保健教育に関する資料

（1）　小学校用健康教育教材「わたしの健康」
中学校用健康教育教材「かけがえのない自分かけがえのない健康」
高等学校用健康教育教材「健康な生活を送るために」
（文部科学省，毎年配布）



①　本資料の担当者

この資料の「担当者をお応えください（この資料を活用する主な担当者）」の質問について以下の結果を得た。

- 小・中・高等学校において本資料を最も活用している担当者は，養護教諭であり，養護教諭が主に活用してい学校の割合は，小学校で60.0％，中学校で64.5％，高等学校で47.6％であった。特別支援学校では，小学部で45.5％，中学部で39.8％，高等部で41.9％であった。
- 養護教諭に次いで本資料を活用している割合が高かったのは，学校種で異なり，小学校では学級担任で42.9％，中学校では保健体育科で23.4％，高等学校では保健体育科で35.9％であった。特別支援学校においても小学部では学級担任で28.3％，中学部では学級担任で19.7％，高等部では保健体育科で19.0％であった。
- 小・中・高等学校において保健主事と回答した割合は，小学校で8.5％，中学校で12.2％，高等学校で14.8％であった。特別支援学校においては，小学部で19.7％，中学部で17.4％，高等部で18.0％であった。

②　本資料の児童生徒への配布状況

「この資料は，児童生徒に配布しましたか」の質問について以下の結果を得た。

- 小・中・高等学校において本資料を児童生徒に配布済みの学校の割合は，小学校で96.8％，中学校で91.1％，高等学校で92.2％であった。特別支援学校では，小学部で76.4％，中学部で68.6％，高等部で70.6％であった。
- 一方，小・中・高等学校において本資料を児童生徒に配布していない学校の割合は，小学校で3.2％，中学校で8.9％，高等学校で7.8％であった。特別支援学校では，小学部で23.6％，中学部で31.4％，高等部で29.4％であった。

③　本資料の保管状況

「配布した残部を，学校用の予備資料をして保管していますか」の質問について以下の結果を得た。

- 小・中・高等学校において本資料を保管している学校の割合は，小学校で90.2%，中学校で83.9%，高等学校で78.2%であった。特別支援学校では，小学部で87.5%，中学部で84.9%，高等部で85.8%であった。
- 一方，小・中・高等学校において本資料を保管していない学校の割合は，小学校で9.8%，中学校で16.1%，高等学校で21.8%であった。特別支援学校では，小学部で12.5%，中学部で15.1%，高等部で14.2%であった。

④　本資料の職員への周知状況

「この資料は，職員全体に周知されていますか」の質問について以下の結果を得た。

- 職員全体に本資料は周知されていないと回答した学校の割合は，小学校で16.1%，中学校で21.1%，高等学校で19.8%，特別支援学校で21.2%であった。
- 関係職員には周知されていると回答した割合が最も高く，小学校で70.2%，中学校で69.9%，高等学校で77.8%，特別支援学校で76.1%であった。
- 職員全体に周知されていると回答した割合は，小学校で13.7%，中学校で9.1%，高等学校で2.4%，特別支援学校で2.7%であった。

⑤　本資料の活用状況

「この資料は，教職員や児童生徒に活用されていますか」の質問について以下の結果を得た。

- 小・中・高等学校において本資料は活用されていないと回答した学校の割合は，小学校で4.3%，中学校で7.8%，高等学校で5.6%であった。特別支援学校では，小学部で19.2%，中学部で17.8%，高等部で14.7%であった。
- 小・中・高等学校において本資料は活用されているか分からないと回答した学校の割合は，小学校で8.6%，中学校で13.6%，高等学校で12.6%であった。特別支援学校では，小学部で18.6%，中学部で18.8%，高等部で19.2%であった。
- 小・中・高等学校において本資料は活用されていると回答した学校の割合は，小学校で87.1%，中学校で78.6%，高等学校で81.8%であった。特別支援学校では，小学部で62.2%，中学部で63.4%，高等部で66.1%であった。

活用している場合，「どのような方法で活用されていましたか」の質問について以下の結果を得た。

- 本資料が活用されている学校において，最も回答の割合が高かった活用方法は学校種によって異なった。
- 小学校では，体育科・保健体育科の指導時に活用したと回答した割合が最も高く59.6%であり，中学校で36.3%，高等学校で51.8%であった。特別支援学校では，小学部で26.4%，中学部で32.8%，高等部で36.2%であった。
- 中・高等学校では，児童生徒に配布し，活用は各自にまかせていると回答した割合が最も高く中学校で60.8%，高等学校で56.4%であり，小学校で38.9%であった。特別支援学校においても，その割合が最も高く小学部で65.8%，中学部で67.2%，高等部で66.5%であった。
- 小・中・高等学校において特別活動，総合的な学習の時間の指導時に活用したと回答した学校

の割合は，小学校で15.1％，中学校で18.4％，高等学校で5.5％であった。特別支援学校では，小学部で21.2％，中学部で13.2％，高等部で15.4％であった。

- 小・中・高等学校において保健だより等の資料づくりに活用したと回答した割合は，小学校で18.0％，中学校で27.5％，高等学校で18.1％であった。特別支援学校では，小学部で14.0％，中学部で12.1％，高等部で14.4％であった。
- なお，児童の健康・安全学習の教材づくり等で活用した，活用に関わる協議で活用したと回答した学校の割合は，いずれの学校種においても５％未満であった。

⑥ 本資料の活用にかかる要因

本資料の活用にかかる要因を検討するために，主な担当者，配布状況，保管状況と活用状況との関連性について検討した。また，活用状況については，回答者が「活用した」との関連性だけでなく，「体育科・保健体育科学習等の指導時に活用した」または「特別活動，総合的な時間の指導時に活用した」を「望ましい活用」とし，その関連性についても検討した。

○ 主な担当者との関連性

本資料の主な担当者は，全ての学校種において養護教諭であり，次いで小学校では学級担任，中学校及び高等学校では保健体育科教諭であった。養護教諭が本資料を活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，小学校で84.8％（51.8％），中学校で77.3％（32.3％），高等学校で78.1％（32.6％）であった。一方，小学校で学級担任が本資料を活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は89.9％（64.5％）であり，中学校，高等学校で保健体育科教諭が本資料を活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は中学校で89.3％（69.6％），高等学校で92.0％（71.8％）であった。

○ 配布状況との関連性

本資料は，いずれの学校種においてもほぼ全ての児童生徒に配布されていたが，学校において活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，小学校で87.5％（57.3％），中学校で78.6％（38.2％），高等学校で81.8％（44.8％）であった。

○ 保管状況との関連性

本資料は，いずれの学校種においても残部がよく保管されていおり，保管している学校において活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，小学校で88.6％（59.4％），中学校で84.4％（42.0％），高等学校で86.0％（48.4％）であり，保管していない学校おいて用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，小学校で73.5％（38.8％），中学校で49.4％（18.2％），高等学校で67.0％（32.0％）であった。

（２）「喫煙，飲酒，薬物乱用防止に関する指導参考資料」
小学校編（(公財)日本学校保健会，平成22年３月）
中学校編（(公財)日本学校保健会，平成23年１月）
高等学校編（(公財)日本学校保健会，平成24年１月）

① 本資料の担当者

この資料の「担当者をお応えください（この資料を活用する主な担当者）」の質問について以下の結果を得た。

- 学校において本資料を最も活用している担当者は，養護教諭であり，養護教諭が主に活用している学校の割合は，小学校で86.9%，中学校で73.4%，高等学校で47.1%であった。
- 養護教諭に次いで本資料を活用している割合が高かったのは，学校種によって異なり，小学校では保健主事で12.6%，中学校では保健体育科で15.6%，高等学校では生徒指導で37.9%であった。

② 担当者が本資料を知った方法

「この資料のことを何によって知りましたか」の質問について以下の結果を得た。

- 本資料の存在をこの調査で初めて知ったと回答した学校の割合は，小学校で5.3%，中学校で5.1%，高等学校で11.0%であった。
- 担当者が本資料を知った方法としては，校内分掌に基づいて配布されたことからと回答した割合が最も高く，小学校で76.9%，中学校で77.7%，高等学校で76.7%であった。
- 次いで割合が高かったのは，校内の書庫や資料室に保管されていたであり，小学校で21.6%，中学校で20.2%，高等学校で12.7%であった。教育委員会や研究団体等での研修会で知ったのは，３番目であり，小学校で9.4%，中学校で9.4%，高等学校で8.4%であった。
- 小学校では職員会議等での紹介が５%を超えていたが，それ以外では校内の学年・教科・全体等の研修，校内外の同僚からの紹介，書籍や雑誌，インターネット（検索，関連データベース等），SNS（ツイッター，フェイスブック，LINE等）と回答した割合は，全ての学校種において５%未満であった。

③ 本資料の保管場所

「この資料は，現在，どこに保管されていますか」の質問について以下の結果を得た。

- 本資料の保管場所が不明と回答した学校の割合は，小学校で4.1%，中学校で5.3%，高等学校で

9.2%であった。

- 保管場所は保健室と回答した割合が最も高く，小学校で75.9%，中学校で63.8%，高等学校で49.9%であった。
- 次いで割合が高かったのは，学校種によって異なっていた。小学校及び中学校では職員室であり，小学校で25.4%，中学校で26.8%であった。一方，高等学校では生徒指導担当者であり，21.8%であった。

④ 本資料の職員への周知状況

「この資料は，職員全体に周知されていますか」の質問について以下の結果を得た。

- 職員全体に本資料は周知されていないと回答した学校の割合は，小学校で14.6%，中学校で17.1%，高等学校で22.0%であった。
- 関係職員には周知されていると回答した割合が最も高く，小学校で66.7%，中学校で70.6%，高等学校で72.6%であった。
- 職員全体に周知されていると回答した割合は，小学校で14.6%，中学校で12.3%，高等学校で5.4%であった。

⑤ 本資料の活用状況

「この資料は，活用されていますか」の質問について以下の結果を得た。

- 本資料は活用されていないと回答した学校の割合は，小学校で10.9%，中学校で13.0%，高等学校で21.8%であった。また，本資料の活用状況がわからないと回答した割合は，小学校で2.8%，中学校で3.4%，高等学校で8.4%であった。
- 本資料は活用されていると回答した割合は，小学校で86.4%，中学校で83.6%，高等学校で69.8%であった。

活用している場合，「どのような方法で活用されていましたか」の質問について以下の結果を得た。

- 本資料が活用されている学校では，担当者が内容を確認したと回答した割合が最も高く，小学校で77.6%，中学校で72.4%，高等学校で78.8%であった。
- 次いで割合が高かったのは，保健学習・保健指導の教材や資料づくりに活用したであり，小学校で60.9%，中学校で60.5%，高等学校で37.1%であった。薬物乱用防止教室等の活動に活用したのは，３番目であり，小学校で34.3%，中学校で36.6%，高等学校で26.1%であった。
- 保健だより等の資料づくりに活用したと回答した割合は，小学校で14.4%，中学校で29.5%，高等学校で22.1%であった。なお，活用に関わる協議で活用したと回答した学校の割合は，いずれの学校種においても５%未満であった。

⑥ 本資料の活用にかかる要因

本資料の活用にかかる要因を検討するために，主な担当者，本資料を知った方法，保管場所，職員への周知状況と活用状況との関連性について検討した。また，活用状況については，回答者が「活用した」との関連性だけでなく，「保健学習・保健指導の教材や資料づくりに活用した」または「薬物乱用防止教室等の活動に活用した」を「望ましい活用」とし，その関連性についても検討した。

○　主な担当者との関連性

本資料の主な担当者を養護教諭としている学校の割合がいずれの学校種においても最も高く，次いで小学校では保健主事，学級担任，中学校では保健体育科教諭，保健主事，高等学校では生徒指導，保健主事の順であった。養護教諭が本資料を活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，小学校で86.9%（62.2%），中学校で84.6%（60.5%），高等学校で74.0%（35.3%）であった。一方，保健主事が本資料を活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，小学校で92.2%（73.4%），中学校で94.1%（76.5%），高等学校で66.7%（40.7%）であった。

○　本資料を知った方法との関連性

本資料を知った方法として最も割合が高かったのは，校内分掌に基づく配布であり，次いで校内の書庫や資料室に保管されていた，教育委員会や研究団体等での研修会の順であった。校内分掌に基づく配布に基づき配布によって本資料を知った学校において活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，小学校で90.1%（65.7%），中学校で86.1%（62.9%），高等学校で74.1%（37.5%）であった。これらの割合は，いずれの学校種においても概ね校内の書庫や資料室に保管されていた場合より高かったが，教育委員会や研究団体等での研修会で知る（小学校で91.5%（80.9%），中学校で95.8%（87.5%），高等学校で85.4%（56.1%）より低かった。

○　保管場所との関連性

本資料の保管場所を保健室としている学校の割合が最も高く，次いで小学校，中学校では職員室であり，高等学校では生徒指導担当であった。保健室で保管している学校において活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，小学校で87.3%（62.4%），中学校で85.3%（59.2%），高等学校で73.3%（35.8%）であった。これらの割合は，小学校及び中学校で職員室に保管している場合より低かったが，高等学校で生徒指導担当が保管している場合と大きな差が認められなかった。なお，中学校及び高等学校では，保健体育科関係の書庫で保管されている場合に望ましい活用の割合が高かった。

○　職員への周知状況との関連性

本資料を関係職員に周知している学校の割合が最も高く，次いで小学校では全職員に周知している学校，中学校及び高等学校では周知していない学校が続いた。関係職員に周知している学校において活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，小学校で90.1%（63.5%），中学校で89.0%（63.6%），高等学校で78.1%（40.8%）であった。これらの割合は，いずれの学校種においても周知していない場合より高かったが，全職員に周知している場合より小学校では低くく，その他では大きな差が認められなかった。

（3） 「「生きる力」を育む小学校保健教育の手引き」（文部科学省，平成25年３月）

① 本資料の担当者

この資料の「担当者をお応えください（この資料を活用する主な担当者）」の質問について以下の結果を得た。

- 本資料が配付された小学校において本資料を最も活用している担当者は，養護教諭であり，その割合は70.8％であった。
- 養護教諭に次いで本資料を活用している割合が高かったのは，学級担任で19.1％，保健主事15.8％であった。体育科，管理職，安全主任は10％未満であった。

② 担当者が本資料を知った方法

「この資料のことを何によって知りましたか」の質問について以下の結果を得た。

- 本資料の存在をこの調査で初めて知ったと回答した小学校の割合は，11.0％であった。
- 担当者が本資料を知った方法としては，校内分掌に基づいて配布されたことからと回答した割合が最も高く，76.2％であった。
- 次いで割合が高かったのは，校内の書庫や資料室に保管されていたであり，16.3％であった。
- 職員会議等での紹介，校内の学年・教科・全体等の研修，校内外の同僚からの紹介，教育委員会や研究団体等での研修会，書籍や雑誌，インターネット（検索，関連データベース等），SNS（ツイッター，フェイスブック，LINE等）と回答した割合は，10％未満であった。

③ 本資料の保管場所

「この資料は，現在，どこに保管されていますか」の質問について以下の結果を得た。

- 本資料の保管場所が不明と回答した小学校の割合は，8.2％であった。
- 保管場所は保健室と回答した割合が最も高く，57.4％であった。
- 次いで割合が高かったのは，職員室であり31.9％であった。また，学級担任が12.2％であった。
- 管理職，学校の資料室，体育科関係の書庫は，10％未満であった。

④ 本資料の職員への周知状況

「この資料は，職員全体に周知されていますか」の質問について以下の結果を得た。

- 職員全体に本資料は周知されていないと回答した小学校の割合は，15.0％であった。
- 関係職員には周知されていると回答した割合が最も高く，57.0％であった。
- 職員全体に周知されていると回答した割合は，28.0％であった。

⑤ 本資料の活用状況

「この資料は，活用されていますか」の質問について以下の結果を得た。

- 本資料は活用されていないと回答した小学校の割合は，12.0％であった。また，本資料の活用状況がわからないと回答した割合は，6.5％であった。
- 本資料は活用されていると回答した割合は，81.5％であった。

活用している場合，「どのような方法で活用されていましたか」の質問について以下の結果を得た。

- 本資料が活用されている小学校では，担当者が内容を確認したと回答した割合が最も高く，79.8%であった。
- 次いで割合が高かったのは，保健学習・保健指導の教材や資料づくりに活用したであり，62.5%であった。
- 活用に関わる協議で活用，保健だより等の資料づくりに活用したと回答した割合は，10%未満であった。

⑥　本資料の活用にかかる要因

本資料の活用にかかる要因を検討するために，主な担当者，本資料を知った方法，保管場所，職員への周知状況と活用状況との関連性について検討した。また，活用状況については，回答者が「活用した」との関連性だけでなく，「保健学習・保健指導の教材や資料づくりに活用した」を「望ましい活用」とし，その関連性についても検討した。

○　主な担当者との関連性

本資料の主な担当者を養護教諭としている小学校の割合が最も高く，次いで学級担任，保健主事であった。養護教諭が本資料を活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，80.4%（51.0%）であった。一方，学級担任及び保健主事が本資料を活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，それぞれ86.0%（64.0%）及び90.3%（59.7%）であった。

○　本資料を知った方法との関連性

本資料を知った方法として最も割合が高かったのは，校内分掌に基づく配布であり，次いで校内の書庫や資料室に保管されていた，教育委員会や研究団体等での研修会の順であった。校内分掌に基づく配布に基づき配布によって本資料を知った学校において活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，85.8%（54.7%）であった。これらの割合は，校内の書庫や資料室に保管されていた場合より高かったが，教育委員会や研究団体等での研修会で知る（89.2%（70.3%））より低かった。なお，職員会議等で紹介や校内の学年，教科，全体等の研修で知った場合には，望ましい活用をしている割合が高かった。

○　保管場所との関連性

本資料の保管場所を保健室としている学校の割合が最も高く，次いで職員室，学級担任であった。保健室で保管している学校において活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，82.5%（52.5%）であった。これらの割合は，職員室に保管している場合と大きな差が認められなかったが，学級担任（91.1%（67.7%））より低かった。

○　職員への周知状況との関連性

本資料を関係職員に周知している学校の割合が最も高く，次いで全職員に周知している学校が続き，周知していない学校の割合が最も低かった。関係職員に周知している学校において活用し

ていると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，84.4%（47.0%）であった。これらの割合は，いずれの学校種においても周知していない場合より高かったが，全職員に周知している場合より小学校（94.0%（72.9%））では低かった。

（４）「未来があるから！～薬物に“ＮＯ！”という生き方を～」（文部科学省，平成24年３月）

①　本資料の担当者

この資料の「担当者をお応えください（この資料を活用する主な担当者）」の質問について以下の結果を得た。

- 本資料が配付された高等学校において本資料を最も活用している担当者は，生徒指導であり，その割合は59.2％であった。
- 生徒指導に次いで本資料を活用している割合が高かったのは，養護教諭で19.8％，保健体育科11.1％，保健主事10.5％であった。管理職，安全主任，学級担任は５％未満であった。

②　担当者が本資料を知った方法

「この資料のことを何によって知りましたか」の質問について以下の結果を得た。

- 本資料の存在をこの調査で初めて知ったと回答した高等学校の割合は，24.1％であった。
- 担当者が本資料を知った方法としては，校内分掌に基づいて配布されたことからと回答した割合が最も高く，65.4％であった。
- 次いで割合が高かったのは，校内の初稿や資料室に保管されていたであり，10.2％であった。
- 職員会議等での紹介，校内の学年・教科・全体等の研修，校内外の同僚からの紹介，教育委員会や研究団体等での研修会，書籍や雑誌，インターネット（検索，関連データベース等），SNS（ツイッター，フェイスブック，LINE等）と回答した割合は，５％未満であった。

③　本資料の保管場所

「この資料は，現在，どこに保管されていますか」の質問について以下の結果を得た。

- 本資料の保管場所が不明と回答した高等学校の割合は，24.7％であった。
- 保管場所は職員室と回答した割合が最も高く，28.0％であった。
- 次いで割合が高かったのは，保健室であり14.8％であった。また，保健体育科関係の書庫が12.6％であった。
- 学校の資料室，管理職は，5％未満であった。

④　本資料の職員への周知状況

「この資料は，職員全体に周知されていますか」の質問について以下の結果を得た。

- 職員全体に本資料は周知されていないと回答した高等学校の割合は，17.3％であった。
- 関係職員には周知されていると回答した割合が最も高く，75.8％であった。
- 職員全体に周知されていると回答した割合は，6.9％であった。

⑤　本資料の活用状況

「この資料は，活用されていますか」の質問について以下の結果を得た。

- 本資料は活用されていないと回答した高等学校の割合は，34.6％であった。また，本資料の活用状況がわからないと回答した割合は，6.3％であった。

● 本資料は活用されていると回答した割合は，59.1％であった。

活用している場合，「どのような方法で活用されていましたか」の質問について以下の結果を得た。

● 本資料が活用されている高等学校では，担当者が内容を確認したと回答した割合が最も高く，67.6％であった。

● 次いで割合が高かったのは，保健学習・保健指導の時間に生徒に視聴させたであり，その割合は32.4％であった。また，保健学習・保健指導の教材や資料づくりに活用したのは，23.5％であった。

● 活用に関わる協議で活用，保護者向け研修会で活用，保健だより等の資料づくりに活用したと回答した割合は，10％未満であった。

⑥ 本資料の活用にかかる要因

本資料の活用にかかる要因を検討するために，主な担当者，本資料を知った方法，保管場所，職員への周知状況と活用状況との関連性について検討した。また，活用状況については，回答者が「活用した」との関連性だけでなく，「保健学習・保健指導の時間に生徒に視聴させた」を「望ましい活用」とし，その関連性についても検討した。

○ 主な担当者との関連性

本資料の主な担当者を生徒指導としている高等学校の割合が最も高く，次いで養護教諭，保健体育科教諭であった。生徒指導が本資料を活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，58.9％（16.1％）であった。一方，養護教諭及び保健体育科教諭が本資料を活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，それぞれ52.9％（14.7％）及び75.6％（51.1％）であった。

○ 本資料を知った方法との関連性

本資料を知った方法として最も割合が高かったのは，校内分掌に基づく配布であり，次いで校内の書庫や資料室に保管されていた，教育委員会や研究団体等での研修会の順であった。校内分掌に基づく配布に基づき配布によって本資料を知った学校において活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，61.6％（18.9％）であった。一方，校内の書庫や資料室に保管されいた及び教育委員会や研究団体等での研修会で知るは，それぞれ66.0％（24.0％）及び89.2％（70.3％）であった。なお，教科，全体等の研修で知った場合には，望ましい活用をしている割合が高かった。

○ 保管場所との関連性

本資料の保管場所を職員室としている学校の割合が最も高く，次いで保健室，保健体育科関係の書庫の順であったが，その他の場所の割合も高かった。職員室で保管している学校において活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，55.9％（17.6％）であった。これらの割合は，保健室に保管している場合と大きな差が認められなかったが，保健体育科関係の書庫（73.8％（42.6％））より低かった。

○　職員への周知状況との関連性

本資料を関係職員に周知している学校の割合が最も高く，次いで周知していない学校が続き，全職員に周知している学校の割合が最も低かった。関係職員に周知している学校において活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，65.5%（20.7%）であった。これらの割合は，いずれの学校種においても周知していない場合より高かったが，全職員に周知している場合より高等学校（92.0%（36.0%））では低かった。

3　安全管理に関する資料

（1）「「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育」（文部科学省，平成22年３月）

①　本資料の担当者

この資料の「担当者をお応えください（この資料を活用する主な担当者）」の質問について以下の結果を得た。

- 学校において本資料を最も活用している担当者は，高等学校を除いて安全主任であり，その割合は，小学校で44.1％，中学校で38.9％，高等学校で9.4％，特別支援学校で23.6％であった。高等学校では養護教諭であり，29.4％あった。なお，他の学校種において養護教諭と回答した学校の割合は，小学校で22.4％，中学校で23.0％，特別支援学校で21.1％であった。
- 管理職と回答した学校の割合は，小学校で25.1％，中学校で24.3％，高等学校で23.5％，特別支援学校で16.2％であった。
- 保健主事または生徒指導と回答した割合は，小学校の生徒指導を除き全ての学校種において10％を超えていた。一方，体育・保健体育科と回答した割合は，全ての学校種において５％未満であった。

②　担当者が本資料を知った方法

「この資料のことを何によって知りましたか」の質問について以下の結果を得た。

- 本資料の存在をこの調査で初めて知ったと回答した学校の割合は，小学校で9.0％，中学校で14.7％，高等学校で16.9％，特別支援学校で13.6％であった。
- 担当者が本資料を知った方法としては，校内分掌に基づいて配布されたことからと回答した割合が最も高く，小学校で66.1％，中学校で62.4％，高等学校で62.3％，特別支援学校で65.0％であった。
- 次いで割合が高かったのは，校内の書庫や資料室に保管されていたであり，小学校で28.2％，中学校で25.8％，高等学校で17.7％，特別支援学校で20.8％であった。教育委員会や研究団体等での研修会で知ったのは，３番目であり，小学校で11.7％，中学校で11.5％，高等学校で10.3％，特別支援学校で11.6％であった。
- 小学校及び中学校では，職員会議等での紹介と回答した学校の割合が5％を超えていたが，高等学校及び特別支援学校では５％未満であった。また，校内の学年・教科・全体等の研修，校内外の同僚からの紹介，書籍や雑誌，インターネット（検索，関連データベース等），SNS（ツイッター，フェイスブック，LINE等）と回答した割合は，全ての学校種において５％未満であった。

③　本資料の保管場所

「この資料は，現在，どこに保管されていますか」の質問について以下の結果を得た。

- 本資料の保管場所が不明と回答した学校の割合は，小学校で8.1％，中学校で12.4％，高等学校で15.4％，特別支援学校で11.6％であった。

- 保管場所は職員室と回答した割合が最も高く，小学校で68.5%，中学校で57.2%，高等学校で49.2%，特別支援学校で52.9%であった。
- 高等学校では保健室の割合も高く，28.5%であり，小学校で13.2%，中学校で16.9%，特別支援学校で19.0%であった。また，学校の資料室と回答した学校の割合は，小学校で14.5%，中学校で14.1%，高等学校で3.1%，特別支援学校で10.0%であった。
- 体育科関係の書庫と回答した割合は，全ての学校種において５%未満であった。

④　本資料の職員への周知状況

「この資料は，職員全体に周知されていますか」の質問について以下の結果を得た。

- 職員全体に本資料は周知されていないと回答した学校の割合は，小学校で11.1%，中学校で15.0%，高等学校で21.4%，特別支援学校で17.7%であった。
- 関係職員には周知されていると回答した割合が最も高く，小学校で62.1%，中学校で67.4%，高等学校で71.4%，特別支援学校で69.0%であった。
- 職員全体に周知されていると回答した割合は，小学校で26.7%，中学校で17.6%，高等学校で7.3%，特別支援学校で13.3%であった。

⑤　本資料の活用状況

「この資料は，活用されていますか」の質問について以下の結果を得た。

- 本資料は活用されていないと回答した学校の割合は，小学校で16.4%，中学校で16.8%，高等学校で20.3%，特別支援学校で17.4%であった。また，本資料の活用状況がわからないと回答した割合は，小学校で8.5%，中学校で8.8%，高等学校で8.1%，特別支援学校で8.1%であった。
- 本資料は活用されていると回答した割合は，小学校で75.1%，中学校で74.3%，高等学校で71.6%，特別支援学校で74.5%であった。

活用している場合，「どのような方法で活用されていましたか」の質問について以下の結果を得た。

- 本資料が活用されている学校では，学校安全計画作成時に活用したと回答した割合が最も高く，小学校で68.6%，中学校で63.1%，高等学校で59.2%，特別支援学校で57.1%であった。
- 担当者が内容を確認したと回答した学校の割合も比較的高く，その割合は，小学校で47.8%，中学校で51.5%，高等学校で53.8%，特別支援学校で55.4%であった。また，危機管理マニュアル作成・改定時に活用したと回答した学校の割合は，小学校で43.3%，中学校で38.7%，高等学校で37.3%，特別支援学校で51.9%であった。
- なお，活用にかかわる協議や安全点検等で活用した，児童生徒への安全教育に活用したと回答した学校の割合は，いずれの学校種においても15%を超えていた。

⑥　本資料の活用にかかる要因

本資料の活用にかかる要因を検討するために，主な担当者，本資料を知った方法，保管場所，職員への周知状況と活用状況との関連性について検討した。また，活用状況については，回答者が「活用した」との関連性だけでなく，「学校安全計画作成時に活用した」，「活用にかかわる協議や安全点検等で活用した」，「児童への安全教育に活用した」または「危機管理マニュアル作成・改定時に活

用した」を「望ましい活用」とし，その関連性についても検討した。

○　主な担当者との関連性

本資料の主な担当者は，小学校及び中学校では安全主任，管理職，養護教諭の順であり，高等学校では養護教諭，管理職，生徒指導の順であった。小学校及び中学校で安全主任が本資料を活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，それぞれ73.6%（61.8%）及び72.4%（59.7%），高等学校で養護教諭が本資料を活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，68.7%（47.0%）であった。また，管理職が本資料を活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，小学校で87.8%（83.7%），中学校で84.8%（76.8%），高等学校で78.4%（59.8%），特別支援学校で95.2%であった。

○　本資料を知った方法との関連性

本資料を知った方法として最も割合が高かったのは，校内分掌に基づく配布であり，次いで校内の書庫や資料室に保管されていたであった。校内分掌に基づく配布に基づき配布によって本資料を知った学校において活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，小学校で73.2%（17.3%），中学校で72.1%（13.7%），高等学校で64.2%（11.1%）であった。なお，いずれの学校種においても校内の学年，教科，全体等の研修で知ることにより望ましい活用をしている学校の割合が他と比較して高かった。

○　保管場所との関連性

本資料の保管場所を職員室としている学校の割合が最も高く，次いで小学校では学校の資料室，中学校及び高等学校では保健室であった。職員室で保管している学校において活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，小学校で77.7%（66.2%），中学校で75.4%（64.5%），高等学校で71.5%（57.7%）であった。これらの割合は，その他の場所が保管している場合と大きな差が認められなかった。

○　職員への周知状況との関連性

本資料を関係職員に周知している学校の割合が最も高く，次いで小学校及び中学校では全職員に周知している学校が続き，高等学校では周知していない学校が続いた。関係職員に周知している学校において活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，小学校で79.0%（64.3%），中学校で80.7%（66.8%），高等学校で82.0%（64.4%）であった。これらの割合は，いずれの学校種においても周知していない場合より高かったが，全職員に周知している（小学校で91.5%（86.9%），中学校で89.9%（79.7%），高等学校で86.7%（83.3%））より低かった。

（２）「学校防災（地震・津波災害）マニュアル作成の手引き」（文部科学省，平成24年３月）

①　本資料の担当者

この資料の「担当者をお応えください（この資料を活用する主な担当者）」の質問について以下の結果を得た。

- 学校において本資料を最も活用している担当者は，学校種によって異なっていた。
- 小学校及び特別支援学校では安全主任であり，小学校で41.1％，中学校で37.9％，高等学校で16.4％，特別支援学校で26.2％であった。一方，中学校及び高等学校では管理職であり，小学校で39.7％，中学校で39.1％，高等学校で28.6％，特別支援学校で19.2％であった。
- 高等学校及び特別支援学校では保健主事と回答した割合，一方，小学校及び中学校では養護教諭と回答した割合が10％を超えていた。さらに，特別支援学校では生徒指導と回答した割合が25％を超えており，高等学校でも10％を超えていた。
- なお，学級担任，体育・保健体育科と回答した割合は，全ての学校種において５％未満であった。

②　担当者が本資料を知った方法

「この資料のことを何によって知りましたか」の質問について以下の結果を得た。

- 本資料の存在をこの調査で初めて知ったと回答した学校の割合は，小学校で6.9％，中学校で13.2％，高等学校で15.8％，特別支援学校で10.2％であった。
- 担当者が本資料を知った方法としては，校内分掌に基づいて配布されたことからと回答した割合が最も高く，小学校で71.9％，中学校で62.8％，高等学校で62.6％，特別支援学校で69.1％であった。
- 次いで割合が高かったのは，校内の書庫や資料室に保管されていたであり，小学校で21.3％，中学校で21.0％，高等学校で14.8％，特別支援学校で16.9％であった。教育委員会や研究団体等での研修会で知ったのは，3番目であり，小学校で18.4％，中学校で16.8％，高等学校で13.6％，特別支援学校で13.6％であった。
- 小学校及び中学校では，職員会議等での紹介と回答した学校の割合が5％を超えていたが，高等学校及び特別支援学校では5％未満であった。また，校内の学年・教科・全体等の研修，校内外の同僚からの紹介，書籍や雑誌，インターネット（検索，関連データベース等），SNS（ツイッター，フェイスブック，LINE等）と回答した割合は，全ての学校種において５％未満であった。

③　本資料の保管場所

「この資料は，現在，どこに保管されていますか」の質問について以下の結果を得た。

- 本資料の保管場所が不明と回答した学校の割合は，小学校で7.7％，中学校で13.7％，高等学校で14.8％，特別支援学校で11.5％であった。
- 保管場所は職員室と回答した割合が最も高く，小学校で67.2％，中学校で57.1％，高等学校で47.0％，特別支援学校で44.8％であった。
- 次いで割合が高かったのは，防災担当者であり，小学校で16.9％，中学校で17.9％，高等学校で

28.7%，特別支援学校で39.5%であった。管理職は，３番目であり，小学校で14.8%，中学校で12.0%，高等学校で12.8%，特別支援学校で11.7%であった。

- 学校の資料室と回答した学校の割合は，小学校，中学校及び特別支援学校では５%を超えていたが，高等学校では５%未満であった。体育科関係の書庫，保健室と回答した割合は，全ての学校種において５%未満であった。

④ 本資料の職員への周知状況

「この資料は，職員全体に周知されていますか」の質問について以下の結果を得た。

- 職員全体に本資料は周知されていないと回答した学校の割合は，小学校で5.1%，中学校で9.2%，高等学校で11.7%，特別支援学校で12.0%であった。
- 関係職員には周知されていると回答した割合が最も高く，小学校で66.7%，中学校で69.2%，高等学校で78.1%，特別支援学校で75.8%であった。
- 職員全体に周知されていると回答した割合は，小学校で28.2%，中学校で21.7%，高等学校で10.2%，特別支援学校で12.2%であった。

⑤ 本資料の活用状況

「この資料は，活用されていますか」の質問について以下の結果を得た。

- 本資料は活用されていないと回答した学校の割合は，小学校で8.8%，中学校で8.0%，高等学校で9.1%，特別支援学校で6.5%であった。また，本資料の活用状況がわからないと回答した割合は，小学校で4.7%，中学校で4.5%，高等学校で3.7%，特別支援学校で2.3%であった。
- 本資料は活用されていると回答した割合は，小学校で86.5%，中学校で87.5%，高等学校で87.3%，特別支援学校で91.2%であった。

活用している場合，「どのような方法で活用されていましたか」の質問について以下の結果を得た。

- 本資料が活用されている学校では，学校防災マニュアル作成時に活用したと回答した割合が最も高く，小学校で77.6%，中学校で75.7%，高等学校で79.8%，特別支援学校で82.9%であった。
- 避難（防災）訓練，安全点検等で活用したと回答した学校の割合も比較的高く，小学校で56.6%，中学校で55.0%，高等学校で46.3%，特別支援学校で47.1%であった。また，担当者が内容を確認したと回答した学校の割合は，小学校で46.7%，中学校で47.8%，高等学校で47.5%，特別支援学校で50.4%であった。
- なお，特別支援学校では，活用にかかわる協議や安全点検等で活用したと回答した割合が10%を超えていたがその他の学校種及び児童生徒への安全教育に活用したと回答した学校の割合は，いずれの学校種においても10%未満であった。

⑥ 本資料の活用にかかる要因

本資料の活用にかかる要因を検討するために，主な担当者，本資料を知った方法，保管場所，職員への周知状況と活用状況との関連性について検討した。また，活用状況については，回答者が「活用した」との関連性だけでなく，「学校防災マニュアル作成時に活用した」，「避難（防災）訓練，安全点検等で活用した」または「学校だより等の資料作成に活用した」を「望ましい活用」とし，そ

の関連性についても検討した。

○　主な担当者との関連性

本資料の主な担当者は，小学校及び特別支援学校では安全主任であり，中学校及び高等学校では管理職であった。安全主任が本資料を活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，小学校で84.2%（73.3%），中学校で82.9%（72.6%），高等学校で88.4%（84.1%），特別支援学校で89.2%（83.3%）であった。また，管理職が本資料を活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，小学校で93.5%（87.6%），中学校で93.3%（86.5%），高等学校で91.9%（87.0%），特別支援学校で95.2%（88.1%）であった。

○　本資料を知った方法との関連性

本資料を知った方法として最も割合が高かったのは，校内分掌に基づく配布であり，次いで校内の書庫や資料室に保管されていた，教育委員会や研究団体等での研修会の順であった。校内分掌に基づく配布に基づき配布によって本資料を知った学校において活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，小学校で87.5%（78.4%），中学校で88.4%（78.8%），高等学校で89.7%（81.0%），特別支援学校92.3で%（85.3%）であった。これらの割合は，いずれの学校種においても概ね校内の書庫や資料室に保管されていた場合とは大きな差は認められなかったが，教育委員会や研究団体等での研修会で知る（小学校で95.9%（89.7%），中学校で91.5%（88.9%），高等学校で93.7%（88.9%），特別支援学校で98.3%（93.1%）より低かった。

○　保管場所との関連性

本資料の保管場所を職員室としている学校の割合が最も高く，次いで防災担当者，管理職の順であった。職員室で保管している学校において活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，小学校で88.5%（78.3%），中学校で90.2%（79.7%），高等学校で87.6%（79.6%），特別支援学校で93.5%（85.6%）であった。これらの割合は，防災担当者，管理職が保管している場合と大きな差が認められなかった。

○　職員への周知状況との関連性

本資料を関係職員に周知している学校の割合が最も高く，次いで全職員に周知している学校が続き，周知していない学校の割合が最も低かった。関係職員に周知している学校において活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，小学校で86.4%（75.3%），中学校で90.6%（78.2%），高等学校で90.3%（81.1%），特別支援学校で93.7%（84.7%）であった。これらの割合は，いずれの学校種においても周知していない場合より高かったが，全職員に周知している（小学校で95.6%（90.5%），中学校で94.8%（90.6%），高等学校で97.6%（81.1%），特別支援学校で98.0%（98.0%）場合より概ね低かった。

4　安全教育に関する資料

（1）　小学校「安全に通学しよう～自分で身を守る，みんなで守る～」（文部科学省，ＤＶＤ，平成25年３月）
中学校・高等学校「安全な通学を考える～加害者にもならない～」（文部科学省，ＤＶＤ，平成24年３月）

①　本資料の担当者

この資料の「担当者をお応えください（この資料を活用する主な担当者）」の質問について以下の結果を得た。

- 学校において本資料を最も活用している担当者は，学校種によって異なり，小学校では安全主任で55.3%，中学校では安全主任で40.4%，高等学校では生徒指導で78.8%であった。
- 各学校種において次に本資料を活用している割合が高かったのは，小学校では生徒指導で18.4%，中学校では生徒指導で30.5%，高等学校では管理職で6.9%であった。

②　担当者が本資料を知った方法

「この資料のことを何によって知りましたか」の質問について以下の結果を得た。

- 本資料の存在をこの調査で初めて知ったと回答した学校の割合は，小学校で15.9%，中学校で30.5%，高等学校で30.7%であった。
- 担当者が本資料を知った方法としては，校内分掌に基づいて配布されたことからと回答した割合が最も高く，小学校で70.5%，中学校で52.4%，高等学校で59.3%であった。
- 次いで割合が高かったのは，校内の書庫や資料室に保管されていたであり，小学校で15.3%，中学校で17.7%，高等学校で9.8%であった。
- 小学校及び中学校では職員会議等での紹介が3番目であり，小学校で10.0%，中学校で6.1%であった。一方，高等学校では，教育委員会や研究団体等での研修会で知ったであり，3.5%であった。

③　本資料の保管場所

「この資料は，現在，どこに保管されていますか」の質問について以下の結果を得た。

- 本資料の保管場所が不明と回答した学校の割合は，小学校で14.0%，中学校で31.4%，高等学校で29.9%であった。
- 学校において本資料が最も保管されている場所は，学校種によって異なり，小学校では職員室

で57.1%，中学校では職員室で38.1%，高等学校では生徒指導担当者で36.5%であった。

- 各学校種において次に本資料を保管している割合が高かったのは，小学校では安全担当者で11.1%，中学校では学校の資料室で12.2%，高等学校では職員室で21.6%であった。

④　本資料の職員への周知状況

「この資料は，職員全体に周知されていますか」の質問について以下の結果を得た。

- 職員全体に本資料は周知されていないと回答した学校の割合は，小学校で9.6%，中学校で15.6%，高等学校で19.7%であった。
- 関係職員には周知されていると回答した割合が最も高く，小学校で53.7%，中学校で63.9%，高等学校で72.6%であった。
- 職員全体に周知されていると回答した割合は，小学校で36.8%，中学校で20.5%，高等学校で7.6%であった。

⑤　本資料の活用状況

「この資料は，活用されていますか」の質問について以下の結果を得た。

- 本資料は活用されていないと回答した学校の割合は，小学校で21.7%，中学校で25.8%，高等学校で32.1%であった。また，本資料の活用状況がわからないと回答した割合は，小学校で8.4%，中学校で6.9%，高等学校で6.8%であった。
- 本資料は活用されていると回答した割合は，小学校で69.9%，中学校で67.3%，高等学校で61.2%であった。

活用している場合，「どのような方法で活用されていましたか」の質問について以下の結果を得た。

- 本資料が活用されている学校では，担当者が内容を確認したと回答した割合が最も高く，小学校で80.4%，中学校で80.9%，高等学校で78.3%であった。
- 次いで割合が高かったのは，保健学習・保健指導の時間に児童生徒に視聴させたであり，小学校で22.9%，中学校で17.9%，高等学校で17.4%であった。保健学習・保健指導の教材や資料づくりに活用したのは，３番目であり，小学校で16.0%，中学校で15.3%，高等学校で11.6%であった。
- 高等学校では保護者向け研修会で活用した割合が10%を超えていたが，それ以外では活用に関わる協議で活用，保健だより等の資料づくりに活用したと回答した学校の割合は，いずれの学校種においても10%未満であった。

⑥　本資料の活用にかかる要因

本資料の活用にかかる要因を検討するために，主な担当者，本資料を知った方法，保管場所，職員への周知状況と活用状況との関連性について検討した。また，活用状況については，回答者が「活用した」との関連性だけでなく，「保健学習・保健指導の時間に児童生徒に視聴させた」を「望ましい活用」とし，その関連性についても検討した。

○　主な担当者との関連性

本資料の主な担当者は，小学校及び中学校では安全主任，生徒指導，管理職の順であり，高等学校ではほとんどが生徒指導であった。小学校及び中学校で安全主任が本資料を活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，それぞれ69.3％（15.9％）及び61.2％（11.8％），高等学校で生徒指導が本資料を活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，61.5％（10.1％）であった。また，小学校及び中学校で生徒指導が本資料を活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，それぞれ74.4％（17.1％）及び66.6％（14.9％）であった。

○　本資料を知った方法との関連性

本資料を知った方法として最も割合が高かったのは，校内分掌に基づく配布であり，次いで校内の書庫や資料室に保管されていた，教育委員会や研究団体等での研修会の順であった。校内分掌に基づく配布に基づき配布によって本資料を知った学校において活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，小学校で80.5％（68.8％），中学校で80.0％（66.7％），高等学校で76.9％（59.1％）であった。これらの割合は，いずれの学校種においても概ね校内の書庫や資料室に保管されていた場合より高かったが，教育委員会や研究団体等での研修会で知る（小学校で89.8％（86.4％），中学校で84.5％（81.0％），高等学校で87.7％（73.5％）より低かった。

○　保管場所との関連性

本資料の保管場所を職員室としている学校の割合が小学校及び中学校では最も高く，高等学校では生徒指導担当者であった。職員室で保管している学校において活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，小学校で71.9％（18.2％），中学校で66.5％（10.3％），高等学校で63.8％（14.4％）であった。また，高等学校において生徒指導が保管している学校において活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，59.3％（8.5％）であった。

○　職員への周知状況との関連性

本資料を関係職員に周知している学校の割合が最も高く，次いで小学校及び中学校では全職員に周知している学校が続き，高等学校では周知していない学校が続いた。関係職員に周知している学校において活用していると回答した割合（及び望ましい活用をしている割合）は，小学校で68.5％（10.8％），中学校で73.8％（9.0％），高等学校で68.8％（10.6％）であった。これらの割合は，いずれの学校種においても周知していない場合より高かったが，全職員に周知している（小学校で87.6％（27.3％），中学校で88.7％（23.9％），高等学校で92.3％（30.8％））より低かった。

本書は，文部科学省補助金による学校保健センター事業として，下記公益財団法人日本学校保健に設置した「学校保健に関する効果的な広報啓発の在り方調査研究委員会」で作成したものである。

学校保健に関する効果的な広報啓発の在り方調査研究委員会（五十音順）（平成24年度～平成26年度）

◎印　委員長

杉山　正昭	東京都立新宿山吹高等学校教諭
住吉　由加	滋賀県教育委員会事務局スポーツ健康課指導主事
◎西岡　伸紀	兵庫教育大学大学院教授
藤井　邦之	埼玉県三郷市立彦成小学校主幹教諭
矢萩　惠一	学校安全教育研究所副代表
山口　昌子	栃木県総合教育センター指導主事

なお，本書の作成に当たり，北垣邦彦文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課健康教育調査官が編集に当たった。

また，次の学校に本書の作成に際し，多大なご支援をいただいた。
栃木県立黒羽高等学校
埼玉県三郷市立彦成小学校
東京都足立区立西新井第一小学校
滋賀県栗東市立大宝小学校

学校保健・安全に関する広報啓発資料の有効な活用に向けて
～学校保健・安全に関する広報啓発資料の配布・保管・活用に関する調査結果から～

平成27年２月19日　発行

発行者　公益財団法人 日本学校保健会
〒105－0001　東京都港区虎ノ門2－3－17
虎ノ門2丁目タワー6階
TEL　03-3501-3785
FAX　03-3592-3898

印刷・製本　株式会社サンエー印刷